

山梨県内分布調査報告書

(平成23年1月～12月)

2012.3

山梨県教育委員会

山梨県内分布調査報告書

(平成23年1月～12月)

2012.3

山 梨 県 教 育 委 員 会

序

本書は、平成23年1月から同年12月まで文化庁の補助金を得て実施した山梨県内分布調査の試掘・確認調査と立会調査の結果をまとめたものです。

平成23年の調査件数は、試掘・確認調査42件、立会調査23件の合計65件と前年に比べ11件増加しています。増加の要因の一つとしては、調査件数65件の3割を超える21件におよぶ中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査があげられ、昨年3月11日の東日本大震災の発生を受け、太平洋と日本海を結ぶ緊急時の物資等輸送道路となる中部横断自動車道の早期建設が求められていることによります。

今回対象となった事業の内容として試掘・確認調査42件については、道路建設事業24件（国事業14件、県事業3件、中日本高速道路株式会社7件）、山梨リニア実験線建設事業（独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構（以下、「鉄道・運輸機構」と略す）4件、建物・施設建設事業13件（国事業2件、県事業11件）、河川改修事業1件（国事業1件）があります。また、立会調査23件については道路建設事業3件（国事業1件、県事業2件）、山梨リニア実験線建設事業1件（鉄道・運輸機構）、建物・施設建設事業14件（県事業14件）、河川改修事業5件（県事業5件）があります。

試掘・確認調査では、中部横断自動車道建設事業（常葉川堤防遺跡）、古府中環状浅原線拡幅事業（甲府城下町遺跡）、法務省甲府法務総合庁舎建設事業（甲府城下町遺跡）、県環境創造課による太陽光発電建設事業（東峰A遺跡、東峰C遺跡、第二将棋頭遺跡）、県立産業技術短期大学分校整備事業（三ノ側遺跡）、山梨園芸高等学校駐車場建設事業（狐原遺跡）、県立かえで支援学校建設事業（狐原遺跡）、東部地域総合制高校建設事業（三ノ側遺跡）の各事業において遺構や遺物などが発見されたことから事前に埋蔵文化財の適切な保存措置（保護層の確保あるいは発掘調査等）を行う必要があることが確認され、このうち古府中環状浅原線拡幅事業、法務省甲府法務総合庁舎建設事業、県立産業技術短期大学分校整備事業については、平成23年12月までに発掘調査が実施されました。また、中部横断自動車道建設事業（常葉川堤防遺跡）については、常葉川の旧堤防の石積み列が確認されていることから、平成24年度以降に発掘調査を実施する予定となっております。なお、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査については、今後も継続して用地未取得地における埋蔵文化財保護の対応を図っていくことが確認されました。

立会調査では、多くの調査において、遺構や遺物は確認されず工事を進めても差し支えない旨を報告していますが、甲府城跡あるいは甲府城下町遺跡関連の遺構などが確認された古府中環状浅原線電線共同溝設置事業、法務省甲府法務総合庁舎建設事業、県庁舎耐震化等整備事業、県議会議事堂改修機械整備事業の各事業や県営住宅谷村団地建設事業については、埋蔵文化財の適切な保存措置（発掘調査等）を実施しております。また、堤防遺跡推定地の範囲における鎌田川河川改修事業については、遺存する「堤体部」の測量調査を実施しましたが、今後「堤体部」を掘削する際には改めて立会調査を行い、断面観察により堤体構造を記録保存することが確認されております。

本報告書が文化財保護と開発事業との円滑な調整に役立つとともに、多くの方々の文化財に対する理解と保護の一助となれば幸いです。

末筆ながら、ご協力を賜った関係機関各位並びに直接調査にあられた方々に厚く御礼申し上げます。

2012年3月

山梨県埋蔵文化財センター
所 長 平 賀 孝 雄

例 言

- 1 本報告書は、山梨県教育委員会が文化庁の補助金を受けて、平成23年1月から同年12月までに山梨県埋蔵文化財センターが実施した、県内の試掘・確認調査並びに立会調査の結果をまとめた報告書である。
- 2 本報告書は、国・県・中日本高速道路株式会社の道路建設、建物建設事業、鉄道・運輸機構の山梨リニア実験線建設事業などの試掘・確認調査結果と国・県の道路建設、建物建設、河川改修、公園整備事業などの立会調査結果を収録している。
- 3 調査結果の報告については、各事業の調査担当者が行い、その報告に基づき保坂和博が執筆・編集した。なお、各調査担当者については、本文に明記した。
- 4 本報告書の出土品及び記録図面、記録写真などは、山梨県埋蔵文化財センターにおいて保管している。
- 5 試掘・確認調査作業員並びに整理事業員は次のとおりである。（敬称略・順序不同）
中部横断自動車道建設事業(芦川栄、池田明広、小澤利一、佐野欣二、寺田正美、仲沢清祥、望月秋夫)、境川廃棄物最終処分場(仮称)建設事業(芦川栄、小澤利一、佐野欣二、望月秋夫)、元吉田保健所解体事業(天野智子、後藤明美、堀内知子)、環境創造課の県政課題に係る調査(立花重光、羽中田勲、日向充雄、横内博)、東部地域総合制高校建設事業(近秀彦、野口政夫)、大野堤防改修事業(河野逸広、望月太喜雄)、整理事業員(飯室恵、小菅春江)
- 6 本試掘・立会調査及び整理事業について、次の方々にご指導、ご協力をいただいた。ここに記して感謝の意を表したい。（順不同）

国土交通省甲府河川国道事務所、法務省甲府地方検察庁、鉄道・運輸機構、中日本高速道路株式会社、財団法人山梨県環境整備事業団、NTT東日本、東京ガス、東京電力株式会社、山梨県総務部（管財課、私学文書課、消防防災課、消防学校）、山梨県森林環境部（環境創造課、環境整備課、県有林課）、山梨県産業労働部（産業人材課）、山梨県県土整備部（道路整備課、建築住宅課、営繕課）、中北建設事務所（都市整備課、河川砂防管理課）、新環状・西関東連絡道路事務所（建設課）、山梨県教育委員会学校施設課、山梨県立産業技術短期大学、山梨県立園芸高等学校、山梨県立都留高等学校、山梨県立北杜高等学校、山梨県立増穂商業高等学校、山梨県立谷村工業高等学校、山梨県立かえで支援学校、甲府市上水道課、甲府市下水道課、市川三郷町教育委員会、甲斐市教育委員会、甲府市教育委員会、中央市教育委員会、都留市教育委員会、南部町教育委員会、韮崎市教育委員会、笛吹市教育委員会、富士吉田市教育委員会、身延町教育委員会、山梨市教育委員会、

凡 例

- 1 各事業の位置図は、1/25,000のスケールを基本としている。
- 2 図版縮尺については、図版内のスケールにより統一していない。
- 3 実測図及び写真は主要なものに限った。

本文目次

序

例言・凡例

目次

I 試掘・確認調査

県内分布調査全体事業位置図	1
1 中部横断自動車道建設事業（市川三郷町宮原地内）	2
2 中部横断自動車道建設事業（市川三郷町鴨狩津向地内）	3
3 中部横断自動車道建設事業（南部町福土地内）	4
4 中部横断自動車道建設事業（南部町楮根地内）	5
5 中部横断自動車道建設事業（市川三郷町原ノ前地内）	6
6 中部横断自動車道建設事業（南部町福土地内）	7
7 中部横断自動車道建設事業（南部町柳島地内）	8
8 中部横断自動車道建設事業《一の坪遺跡》	9
9 中部横断自動車道建設事業《常葉川堤防遺跡》	10
10 中部横断自動車道建設事業《竹ノ沢遺跡》	12
11 中部横断自動車道建設事業《前田遺跡》	13
12 中部横断自動車道建設事業（市川三郷町岩間地内）	14
13 中部横断自動車道建設事業（身延町上八木沢地内）	15
14 中部横断自動車道建設事業（市川三郷町黒沢地内）	16
15 中部横断自動車道建設事業（身延町帯金地内）	17
16 中部横断自動車道建設事業（身延町帯金泥の沢地内）	18
17 中部横断自動車道建設事業（身延町和田樋之上地内）	19
18 中部横断自動車道建設事業（身延町大島地内）	20
19 中部横断自動車道建設事業（身延町上八木沢地内）	21
20 中部横断自動車道建設事業（身延町帯金塩之沢地内）	22
21 中部横断自動車道建設事業（南部町福土地内）	23
22 西関東連絡道路（第Ⅱ期）建設事業（山梨市万力地内）	24
23 西関東連絡道路（第Ⅱ期）建設事業（山梨市万力地内）	26
24 古府中環状浅原線（国道411号）拡幅事業《甲府城下町遺跡》	27
25 山梨リニア実験線建設事業（笛吹市八代町竹居地内）	28
26 山梨リニア実験線建設事業《上の平A遺跡》	29
27 山梨リニア実験線建設事業《柚木遺跡》	30
28 山梨リニア実験線建設事業（笛吹市八代町竹居地内）	31
29 法務省甲府法務総合庁舎建設事業《甲府城下町遺跡》	32
30 法務省甲府法務総合庁舎建設事業《甲府城下町遺跡》	34

31	境川廃棄物最終処分場（仮称）建設事業（笛吹市境川町地内）	36
32	環境創造課の県政課題に係る調査《東峰A遺跡及び東峰C遺跡》	37
33	環境創造課の県政課題に係る調査《御勅使川第二将棋頭遺跡》	38
34	元吉田保健所解体事業《吉田宿》	40
35	職業能力開発施設建設事業（都留市上谷地内）	41
36	山梨県消防学校整備事業《堤防遺跡推定地》	42
37	県立産業技術短期大学分校整備事業《三ノ側遺跡》	43
38	山梨園芸高等学校駐車場建設事業《狐原遺跡》	45
39	県立かえで支援学校（エレベーター棟増築等）建設事業《狐原遺跡》	47
40	東部地域総合制高校建設事業（都留市上谷地内）	48
41	大野堤防改修事業《堤防遺跡推定地》	49
42	森林公園金川の森整備事業《宮の上遺跡》	50

II 立会調査

43	都留バイパス建設事業 No.7 地点《美通遺跡》	51
44	古府中環状浅原橋線電線共同溝設置事業《甲府城下町遺跡》	52
45	西関東連絡道路（第Ⅱ期）建設事業（山梨市北地内）	53
46	法務省甲府法務総合庁舎建設事業《甲府城下町遺跡》	54
47	元県立大学職員宿舍解体事業《武田城下町遺跡》	55
48	県庁舎耐震化等整備（議事堂仮設庁舎建設に係る調査）事業《甲府城跡》	56
49	県庁舎耐震化等整備事業《甲府城跡》	57
50	県議会議事堂改修機械整備事業《甲府城跡》	60
51	県営住宅谷村団地外構建設事業《城ノ腰2遺跡》	61
52	県営住宅谷村団地改築二期解体事業《城ノ腰2遺跡》	62
53	県営住宅和戸団地下水道接続事業《大坪遺跡》	63
54	県立北杜高等学校ほ場下水道敷設事業《原町農業高校前遺跡》	64
55	県立北杜高等学校配水管敷設事業《原町農業高校前遺跡》	65
56	県立増穂商業高等学校水道管敷設事業《堤防遺跡推定地》	66
57	県立都留高等学校修繕事業《大月遺跡》	67
58	県立かえで支援学校（創造館内）建設事業《狐原遺跡》	68
59	平等川基幹河川改修事業《堤防遺跡推定地/七沢の渡し場》	69
60	平等川基幹河川改修事業《堤防遺跡推定地》	70
61	平等川基幹河川改修事業《堤防遺跡推定地》	71
62	一級河川富士川水系藤川広域河川改修事業《甲府城下町遺跡》	72
63	鎌田川河川改修事業《堤防遺跡推定地》	73
64	曾根丘陵公園内市道水道管漏水修理事業《岩清水遺跡》	74
65	森林公園金川の森再整備事業《宮の上遺跡》	75



平成23年 県内分布調査全体事業位置図

- 1.中部横断自動車道建設事業
- 2.中部横断自動車道建設事業
- 3.中部横断自動車道建設事業
- 4.中部横断自動車道建設事業
- 5.中部横断自動車道建設事業
- 6.中部横断自動車道建設事業
- 7.中部横断自動車道建設事業
- 8.中部横断自動車道建設事業
- 9.中部横断自動車道建設事業
- 10.中部横断自動車道建設事業
- 11.中部横断自動車道建設事業
- 12.中部横断自動車道建設事業
- 13.中部横断自動車道建設事業
- 14.中部横断自動車道建設事業
- 15.中部横断自動車道建設事業
- 16.中部横断自動車道建設事業
- 17.中部横断自動車道建設事業
- 18.中部横断自動車道建設事業
- 19.中部横断自動車道建設事業
- 20.中部横断自動車道建設事業
- 21.中部横断自動車道建設事業
- 22.西関東連絡道路(第Ⅱ期)建設事業
- 23.西関東連絡道路(第Ⅱ期)建設事業
- 24.古府中環状浅原線(国道411号)拡幅事業
- 25.山梨リニア実験線建設事業
- 26.山梨リニア実験線建設事業
- 27.山梨リニア実験線建設事業
- 28.山梨リニア実験線建設事業
- 29.法務省甲府法務総合庁舎建設事業
- 30.法務省甲府法務総合庁舎建設事業
- 31.境川廃棄物最終処分場(仮称)建設事業
- 32.環境創造課の県政課題に係る調査
- 33.環境創造課の県政課題に係る調査
- 34.元吉田保健所解体事業
- 35.職業能力開発施設建設事業
- 36.山梨県消防学校整備事業
- 37.県立産業技術短期大学分校整備事業
- 38.山梨園芸高等学校駐車場建設事業
- 39.県立かえで支援学校(エレベーター棟増築等)建設事業
- 40.東部地域総合制高校建設事業
- 41.大野堤防改修事業
- 42.森林公園金川の森整備事業
- 43.都留バイパス建設事業
- 44.古府中環状浅原橋線電線共同溝設置事業
- 45.西関東連絡道路(第Ⅱ期)建設事業
- 46.法務省甲府法務総合庁舎建設事業
- 47.元県立大学職員宿舍解体事業
- 48.県庁舎耐震化等整備(議事堂仮設庁舎建設)事業
- 49.県庁舎耐震化等整備事業
- 50.県議会議事堂改修機械整備事業
- 51.県営住宅谷村団地外構建設事業
- 52.県営住宅谷村団地改築二期解体事業
- 53.県営住宅和戸団地下水道接続事業
- 54.県立北杜高等学校ほ場下水道敷設事業
- 55.県立北杜高等学校配水管敷設事業
- 56.県立増穂商業高等学校水道管敷設事業
- 57.県立都留高等学校修繕事業
- 58.県立かえで支援学校(創造館内)建設事業
- 59.等川基幹河川改修事業
- 60.平等川基幹河川改修事業
- 61.平等川基幹河川改修事業
- 62.一級河川富士川水系藤川広域河川改修事業
- 63.鎌田川河川改修事業
- 64.曾根丘陵公園内市道水道管漏水修理事業
- 65.森林公園金川の森再整備事業

1 中部横断自動車道建設事業 試掘 (市川三郷町宮原地内)

所在地	西八代郡市川三郷町宮原地内	調査期間	平成23年2月17日～18日
担当者	保坂和博	調査面積	97㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、中部横断自動車道建設事業に先立ち、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所（中部横断自動車道推進室）、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、平成23年1月20日に行われた現地踏査の結果を踏まえて、平成23年2月17日から18日にかけて試掘調査を実施した。

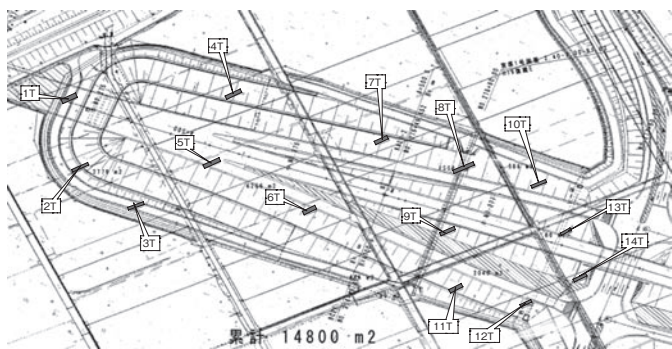
今回の試掘調査では、重機（0.4tクラス平爪バケット）を用いて、長さ約6～9m、幅約1～2m、深さ約1～1.5mのトレンチ（試掘溝）を14箇所(1T～14T)設定し、遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、第1層（表土層）：灰オリーブ粘質土層（5Y4/2）の現水田耕作土以下は、葛箆沢川による自然堆積層（河川堆積層）となり、第2層：灰オリーブ粘質土層(5Y5/3)、第3層：オリーブ褐色粘質土層(2.5Y4/4)、第4層：灰色粘質土層（7.5Y5/1）、第5層：暗緑灰色粘質土層（7.5GY4/1）が確認され、また第4層（深さ約50cm）以下では湧水によるグライ化現象が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。



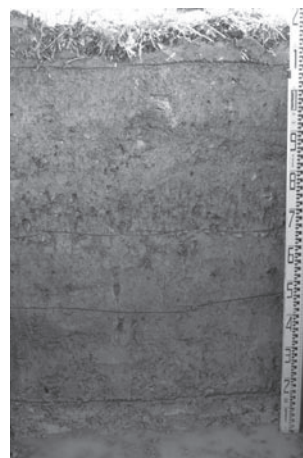
第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



1T土層堆積状況



13T土層堆積状況

2 中部横断自動車道建設事業 試掘 (市川三郷町鴨狩津向地内)

所在地	西八代郡市川三郷町鴨狩津向地内	調査期間	平成23年2月21日
担当者	保坂和博	調査面積	53㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、中部横断自動車道建設事業に先立ち、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所（中部横断自動車道推進室）、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、平成23年1月20日に行われた現地踏査の結果を踏まえて、平成23年2月21日に試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、重機（0.4tクラス平爪バケット）を用いて、長さ約6～9m、幅約1～2m、深さ約1～1.5mのトレンチ（試掘溝）を4箇所（1T～4T）設定し、遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、第1層～第2層の埋土層以下は、三沢川による自然堆積層（河川堆積層）となり、第3層：暗オリーブ灰色シルト質層(2.5GY3/1)、第4層：オリーブ灰色粘質土層(2.5GY4/1)、第5層：オリーブ褐色砂層(2.5Y4/3)、第6層：灰色砂礫層(7.5Y4/1)の層順が確認された。また第5層以下は湧水によるグライ化現象が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。



第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



1T土層堆積状況

4T土層堆積状況

3 中部横断自動車道建設事業 試掘 (南部町福土地内)

所在地	南巨摩郡南部町福土地内	調査期間	平成23年3月4日、8日
担当者	保坂和博	調査面積	71㎡

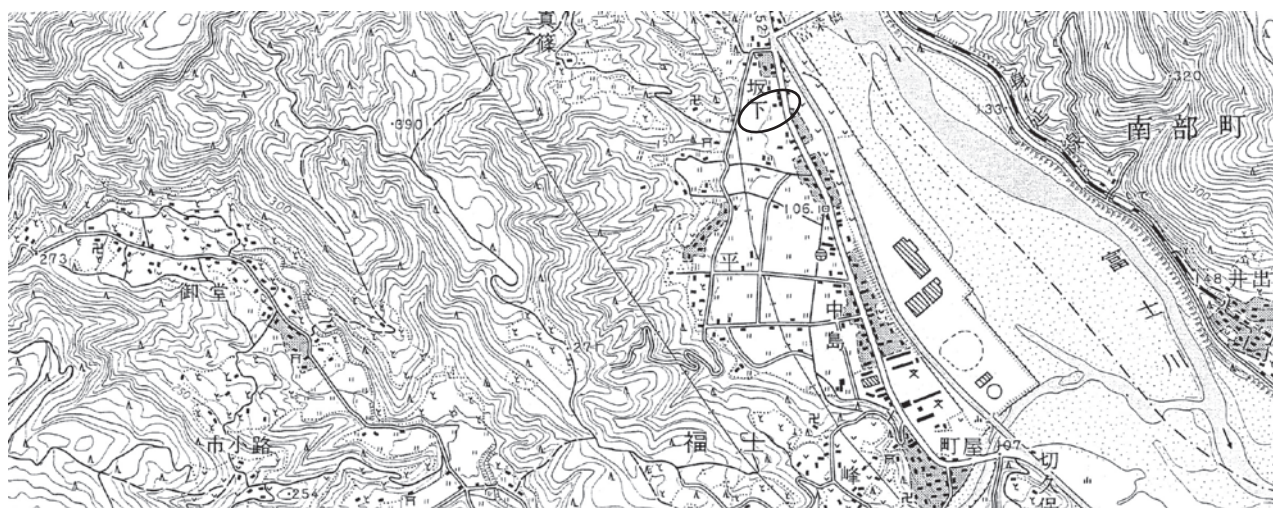
調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、中部横断自動車道建設事業に先立ち、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所（中部横断自動車道推進室）、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、平成23年1月20日に行われた現地踏査の結果を踏まえて、平成23年3月4日と8日に試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、重機（0.4tクラス平爪バケット）と人力により、長さ約6～9m、幅約1～2m、深さ約1～1.5mのトレンチ（試掘溝）を8箇所（1T～8T）設定し、遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、富士川に近い2T、3T、5T、6Tに砂礫層が多く見られるが、いずれも第1層：表土層（耕作土）以下は、富士川による自然堆積層（河川堆積層）となり、第2層：灰色粘質土層(5Y4/1)、第3層：灰オリーブ色シルト質層(5Y4/2)、第4層：オリーブ黒色シルト質層（5Y3/1）、第5層：暗灰黄色シルト質層（2.5Y5/2）、第6層：灰色粘質土層(5Y5/1)、第7層：灰色粘質土層(5Y4/1)、第8層：暗青灰色シルト層（5BG3/1）層順が確認された。

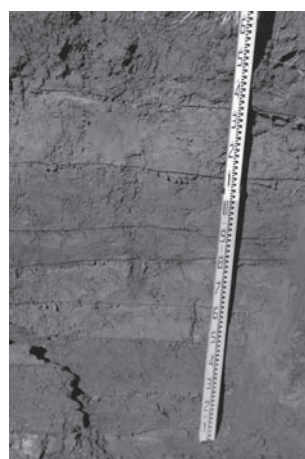
試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。



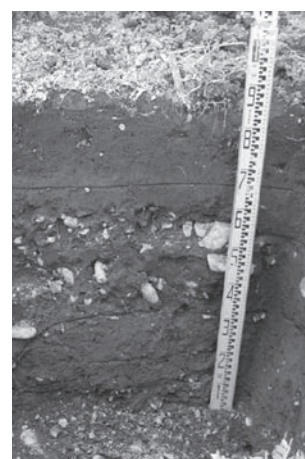
第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



1T土層堆積状況



5T土層堆積状況

4 中部横断自動車道建設事業 試掘 (南部町楮根地内)

所在地	南巨摩郡南部町楮根地内	調査期間	平成23年3月8日～11日
担当者	保坂和博	調査面積	249㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、中部横断自動車道建設事業に先立ち、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所（中部横断自動車道推進室）、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、平成23年1月20日に行われた現地踏査の結果を踏まえて、平成23年3月8日～11日にかけて試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、重機（0.4tクラス平爪バケット）を用いて、長さ約6～9m、幅約1～2m、深さ約1～1.5mのトレンチ（試掘溝）を14箇所（1T～14T）を設定し、遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、いずれも第1層：表土層（暗灰黄色土層：2.5Y4/2）以下は、楮根川による自然堆積層（河川堆積層）となり、第2層：オリーブ褐色粘質土層(2.5Y4/3)、第3層：黄褐色粘質土層(10YR5/6)、第4層：オリーブ褐色粘質土層（2.5Y4/3）、第5層：灰黄褐色シルト質層（10YR5/2）、第6層：

にぶい黄褐色粘質土層(10YR5/3)、第7層：にぶい黄褐色シルト質層(10YR4/3)、第8層：にぶい黄褐色粘質土層（10YR5/4）、第9層：褐色シルト層(10YR4/4)+砂礫層の層順が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。



第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



5T土層堆積状況



10T土層堆積状況

5 中部横断自動車道建設事業 試掘 (市川三郷町原ノ前地内)

所在地	西八代郡市川三郷町原ノ前地内	調査期間	平成23年3月14日～17日、22日～25日
担当者	保坂和博	調査面積	710㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、中部横断自動車道建設事業に先立ち、中日本高速道路株式会社東京支社南アルプス工事事務所、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、平成23年1月28日に行われた現地協議の結果に基づき、トレンチ（試掘溝）44箇所(1T～44T)を設定し、平成23年3月14日から25日にかけて試掘調査を実施した。

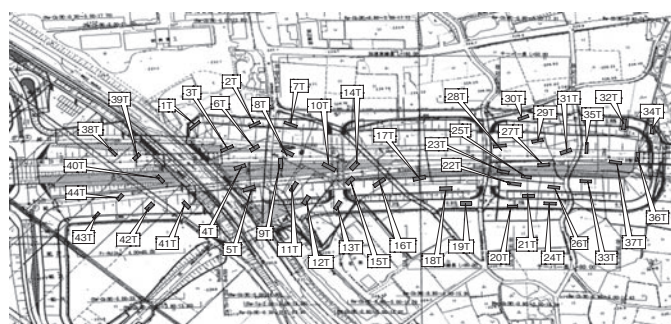
各地点では、重機（0.4tクラス平爪バケット）を用いて、長さ約7～9m、幅約2m、深さ約1～1.5mのトレンチの表土掘削及び埋め戻しを行い、精査及び平面・断面観察と記録は、人力により実施した。土層堆積状況は、葛箆沢川を挟んだ右岸側（1T～37T）と左岸側（38T～44T）で異なる状況であるが、いずれも第1層：表土層（水田耕作土）以下は、葛箆沢川による自然堆積層（河川堆積層）が確認された。

試掘調査の結果、遺物としては、右岸側（1T～37T）の第4層（砂礫層）と左岸側（38T～44T）の第4層（小礫層）から明治期以降の陶磁器と左岸側44Tの第8層（砂礫層）から江戸期の磁器が出土しているが、いずれも流れ込みと考えられる。また、遺構としては、左岸側44Tで明治期以降と考えられる杭列が確認されている。

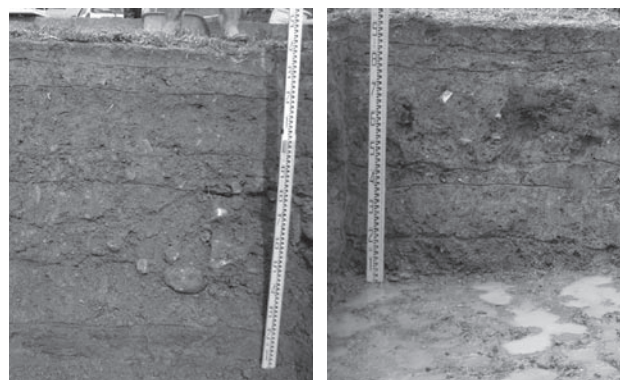
以上のことから、遺構・遺物ともに明治期以降と考えられ、山梨県埋蔵文化財保護要項に基づき、これらは本地域における保護措置の必要性はないものと判断されるため、今回の試掘調査地点では工事を進めても差し支えない旨を報告した。なお、今回の試掘対象地内で試掘調査を実施出来なかった地点（未引渡し等）は、今後改めて協議の上、埋蔵文化財保護の対応を図ることとした。



第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



9T土層堆積状況

44T土層堆積状況

6 中部横断自動車道建設事業 試掘 (南部町福土地内)

所在地	南巨摩郡南部町福土字石合19456外地内	調査期間	平成23年5月23日～26日
担当者	小林健二・永田亮一	調査面積	158㎡

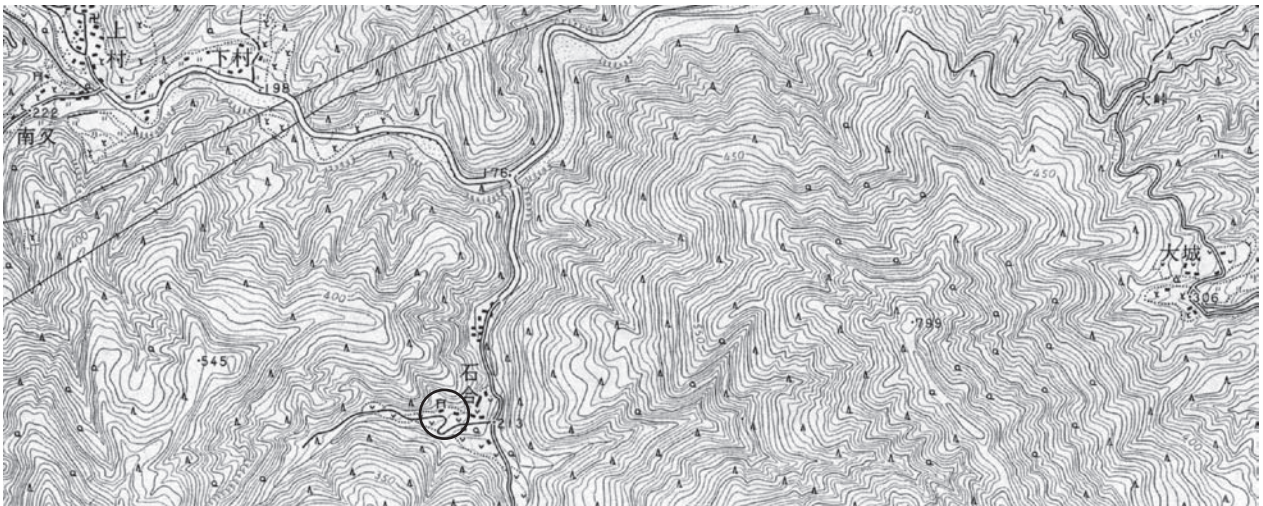
調査経緯及び事業内容と結果

平成23年4月19日に行われた中日本高速道路株式会社との現地協議を踏まえ、試掘調査を実施した。

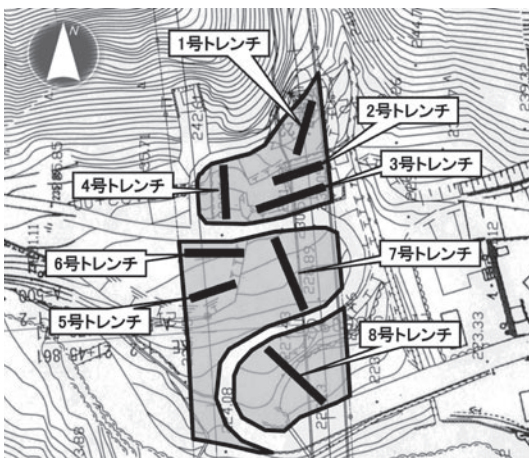
事業予定地一帯には周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、1551年(天文20)の勧請とされる幕(まく)神社が含まれる地域であることから、埋蔵文化財の有無を確認するため、北から長さ11～20m、幅1mのトレンチを8本設定し、重機により掘削し平面及び断面観察を行った。

調査地は、幕神社のある山裾から南側を流れる長瀬川に向かう標高220～240mの緩斜面にあり、地籍図には神社へ通じる南北方向の道路(参道)が確認できるが、現在は盛土等により階段状に造成され、S字カーブの道路が通っている。山裾にある神社の東側に設定した1号トレンチ及び神社下に設定した4号トレンチでは、地表下30～50cmほどで堅くしまったローム層となった。他のトレンチではいずれも材木や巨礫を伴った盛土や攪乱等による埋土層であり、5号トレンチでは下層のローム層も攪乱を受けている部分が見られ、これらから遺構・遺物を確認することはできなかった。

以上の試掘調査の結果から、当該区域に埋蔵文化財は発見されず、工事に支障はない旨を報告した。



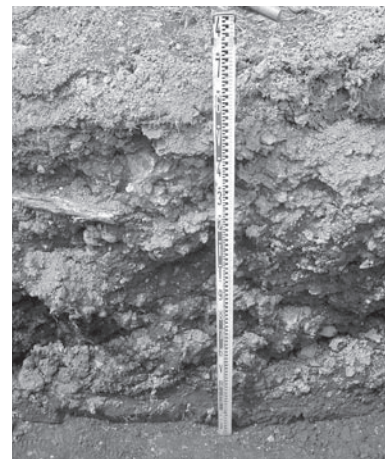
第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



1号トレンチ掘削風景



5号トレンチ土層堆積状況

7 中部横断自動車道建設事業 試掘 (南部町柳島地内)

所在地	南巨摩郡南部町柳島地内	調査期間	平成23年6月1日～3日
担当者	小林健二・永田亮一	調査面積	874㎡

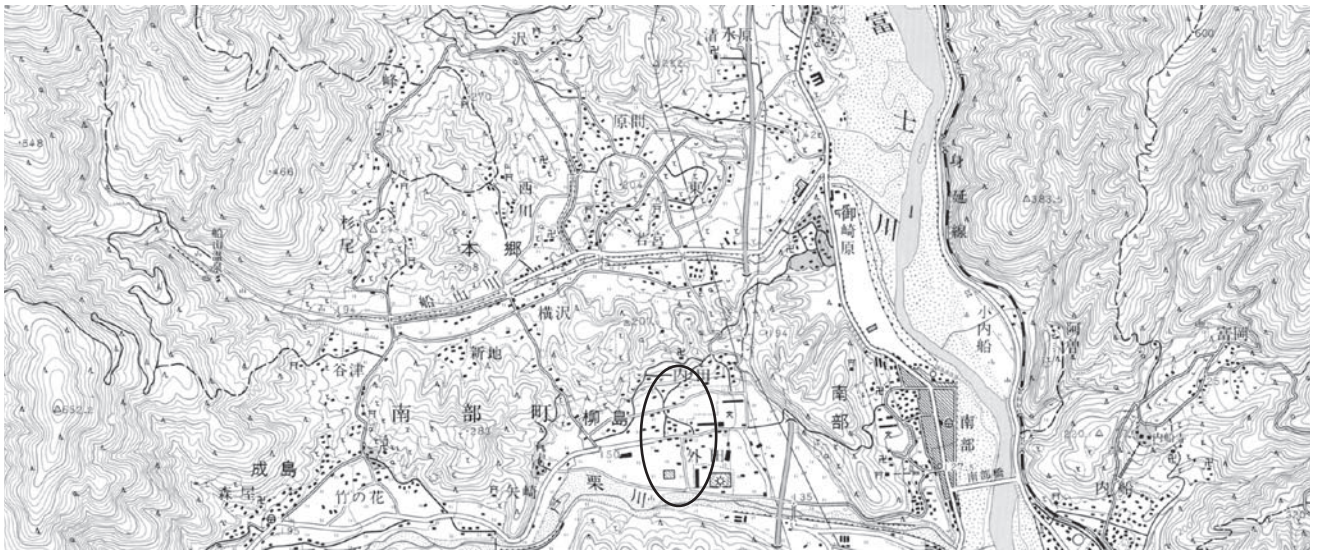
調査経緯及び事業内容と結果

平成23年4月20日に行われた国土交通省との現地協議を踏まえ、試掘調査を実施した。

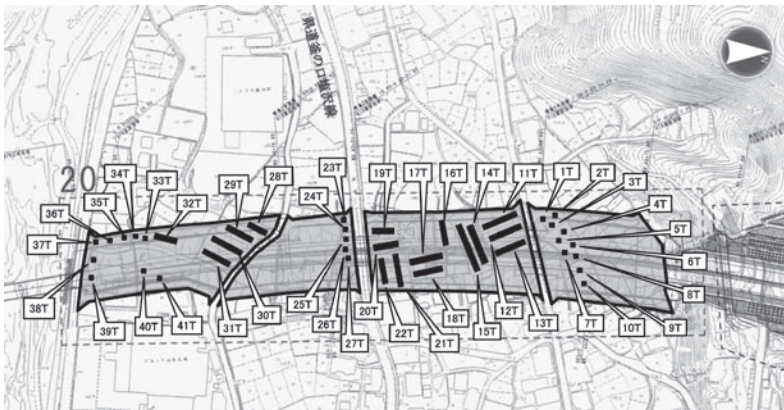
事業予定地は、西側の山地から東流し富士川へ合流する戸栗川の左岸に広がる氾濫原にあり、標高147～150mを測る。一帯には周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、水田地帯である現集落の平坦地が広範囲に及ぶことから、引き渡し完了した用地内に長さ15～25m、幅約2mのトレンチを17箇所設定し重機により、長さ・幅1mのトレンチを24箇所設定し人力によりそれぞれ掘削し、平面及び断面観察を行った。なお、北側の台地上には、本事業に伴い調査が行われた本郷原間遺跡のほか、縄文時代から近世にかけての遺跡が所在する。

調査地は、県道釜の口塩沢線を挟んで大きく南北に分かれるが、いずれのトレンチにおいても地表下30cm前後までは水田の耕作土及び床土が堆積し、その直下から氾濫による砂礫層となり、北側の山裾まで続くものと見られる。また、県道南側の戸栗川に近い南側ほど砂礫層に巨礫が含まれる傾向が窺え、これらの間に遺構・遺物を確認することはできなかった。

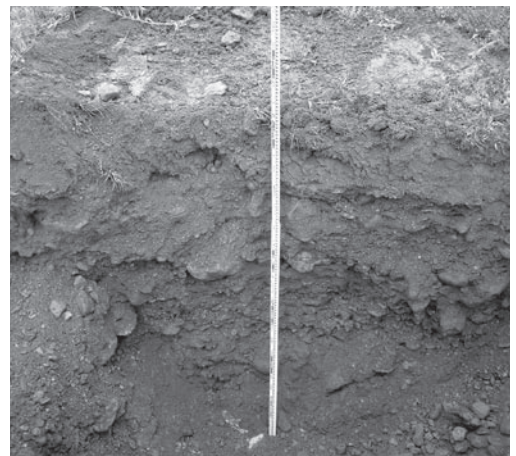
以上の試掘調査の結果から、当該区域における工事に支障はない旨を報告した。



第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



22号トレンチ土層堆積状況

8 中部横断自動車道建設事業 試掘 《一の坪遺跡》

所在地	西八代郡市川三郷町岩間字一の坪291外内地	調査期間	平成23年6月6日、8日、13日～15日
担当者	小林健二・永田亮一	調査面積	282㎡

調査経緯及び事業内容と結果

平成23年4月27日に行われた中日本高速道路株式会社との現地協議を踏まえ、試掘調査を実施した。

事業予定地は、北側の山地から南流し富士川へ合流する山田川の左岸にあり、JR身延線沿いの低地で標高220m前後、山側で標高240m前後を測る。予定地内の東側にかかる一帯が周知の埋蔵文化財包蔵地「一の坪遺跡」（中・近世）の範囲に含まれることから、遺跡の広がりや遺構・遺物の有無を把握するため、引き渡しが完了した用地内に長さ15～25m、幅約1.2mのトレンチ11箇所を重機により、長さ1m及び6m、幅1mのトレンチ21箇所を人力によりそれぞれ掘削し、平面及び断面観察を行った。

調査地は、一の坪遺跡にかかる山側の緩斜面（1～15号トレンチ）、JR身延線沿いの低地（20～26号トレンチ）、北東側の区域（16～19・27～32号トレンチ）の大きく3地点に分かれる。1～15号トレンチ、20～22・27・28号トレンチでは表土下でほどなくローム層となり、遺構・遺物は確認することはできなかった。23～26号トレンチ一帯は宅地であり、盛土や攪乱等により層位は旧状を留めておらず、今回試掘できなかった中央部分も同様の状況が想定される。北東側も攪乱を多く受けていたが、17・18号トレンチ以外では比較的層位が安定しており、19・31・32号トレンチから土師器片や近世以降の磁器片がわずかに出土したが、上層の攪乱や埋土による混入の可能性は否定できず、遺構も確認することができなかった。

以上の試掘調査の結果から、当該区域で一の坪遺跡の範囲は捉えられず、工事に支障はない旨を報告した。



第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



3・4号トレンチ調査風景



32号トレンチ土層堆積状況

9 中部横断自動車道建設事業 試掘 《常葉川堤防遺跡》

所在地	南巨摩郡身延町波高島地内	調査期間	平成23年6月22日～27日
担当者	小林健二・永田亮一	調査面積	33㎡

調査経緯及び事業内容と結果

平成23年4月20日に行われた国土交通省との現地協議を踏まえ、試掘調査を実施した。

事業予定地は、西側を南北に流れる富士川へ合流する常葉川左岸の沖積地にあり、JR身延線沿いで標高205m前後、北側山裾の緩い斜面で標高215m前後を測る。周辺には、常葉川右岸の上之平遺跡（縄文時代）以外に古代～中世の遺跡は知られていないが、近世には1607（慶長12）年の開削により始まった富士川舟運に波高島河岸も参加し、江戸時代にはこの一帯の年貢米を運んでいた。また、近代になると、1875（明治8）年に設立された富士川運輸会社の分社が置かれ、造船が行われていた。

今回の予定地内一帯は、埋蔵文化財包蔵地「常葉川堤防遺跡」の範囲に含まれ、用地の南東側・南西側に接して住宅地と田畑の中に取り残された堤防があることから、これらの堤防との関係、及び遺跡の広がりや遺構・遺物の有無を把握するため、調査対象地のうち引き渡し完了した用地内に長さ1～3m、幅1mのトレンチを25箇所設定し人力により掘削し、平面及び断面観察を行った。

調査区域は、JR身延線・国道300号を挟んで大きく南北に分かれる。

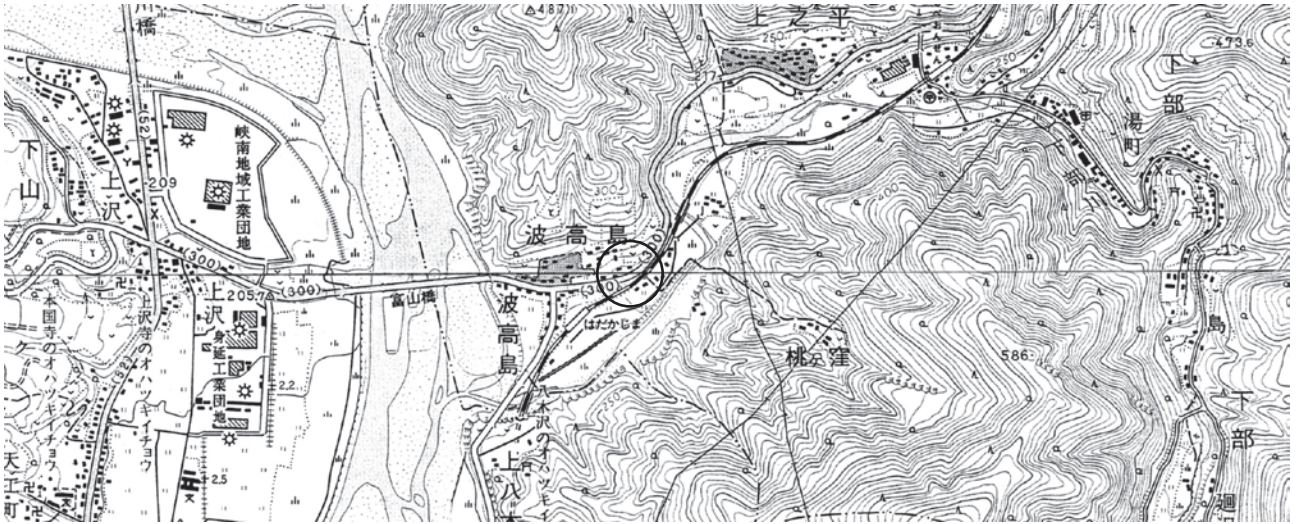
南側の常葉川現堤防沿いに設定した1～3・6号トレンチでは、地表下15～20cm前後までは水田の耕作土及び床土が堆積するが、その下層は氾濫による砂層・砂礫層となり、この間に遺構・遺物は全く確認することはできず、身延線と常葉川の間を走る町道南側沿いに設定した4・5・7号トレンチにおいても同様の状況であった。

町道北側沿いは、旧堤防の石積みが想定され、8号トレンチでは地表下20cm前後で15～30cm大の礫がややまとまって確認されたため、トレンチを東西に拡張してみたが、石の並びは明確なものではなかった。9～12・15・16号トレンチにおいても状況は変わらず、山側に近い17～20号トレンチでは、黄褐色粘土層の堆積が見られたが、遺構・遺物は確認されなかった。今回試掘できなかった身延線の南側と国道の北側部分も同様の状況が想定される。

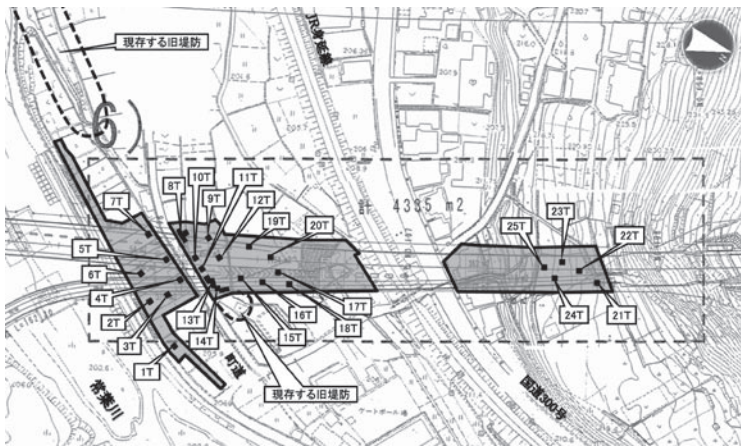
最も北側（山側）に設定した21～25号トレンチでは、地表下20cmほどで堅くしまったローム層となり、この地点においても遺構・遺物は全く確認することはできなかった。

一方、現存する旧堤防の延長線上に設定した13・14号トレンチでは、地表下20cm前後で堤防の川裏側の石積みの石材と見られる石がまとまって発見された。これらの石は当初、水田造成時に破壊されたもので、大部分が原位置を留めておらず、散乱した状態と思われたが、両トレンチを拡張したところ、ほぼ南北方向に石積み列として改めて確認された。攪乱等により、裏込め石や堤体の構造は不明であるが、石の間や埋土の中から近代以降の磁器片などがわずかに出土し、これらの中には江戸期に遡るものも見られる。しかし、石積みの石にはコンクリートが付着したものが認められることから、明治末以降の構築時期が想定できるが、堤防構築当初からコンクリートが使用されたのか、後にコンクリートで補修されたのか、今回の試掘では明確にはできなかった。

以上の試掘調査の結果から、対象地の一角に常葉川の旧堤防の石積み列が確認されたため、工事着手前に230㎡の本調査が必要となった。確認された堤防自体はわずかであり、残存状況も良好ではないが、峡南地域の歴史を考える上でも貴重な堤防遺跡である。



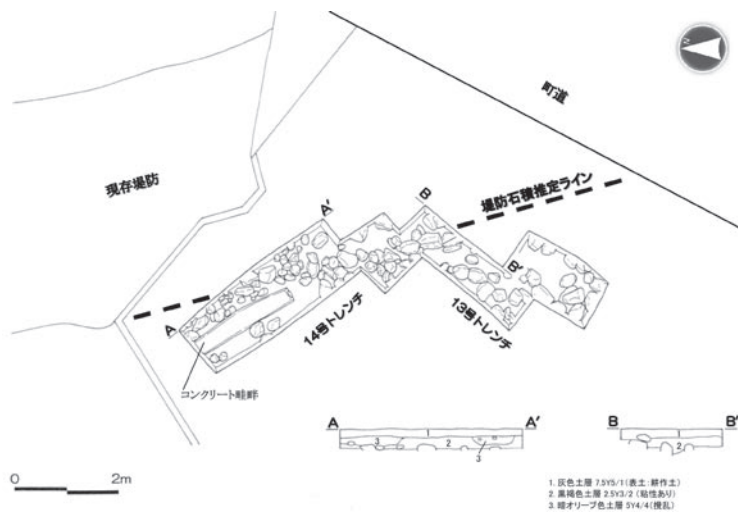
第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



13・14号トレンチ掘削状況 (南西から)



第3図 13・14号トレンチ実測図



13・14号トレンチ掘削状況 (北東から)

10 中部横断自動車道建設事業 試掘 《竹ノ沢遺跡》

所在地	南巨摩郡南部町富士字竹ノ沢21628-1外内地内	調査期間	平成23年7月4日～7日
担当者	小林健二	調査面積	369㎡

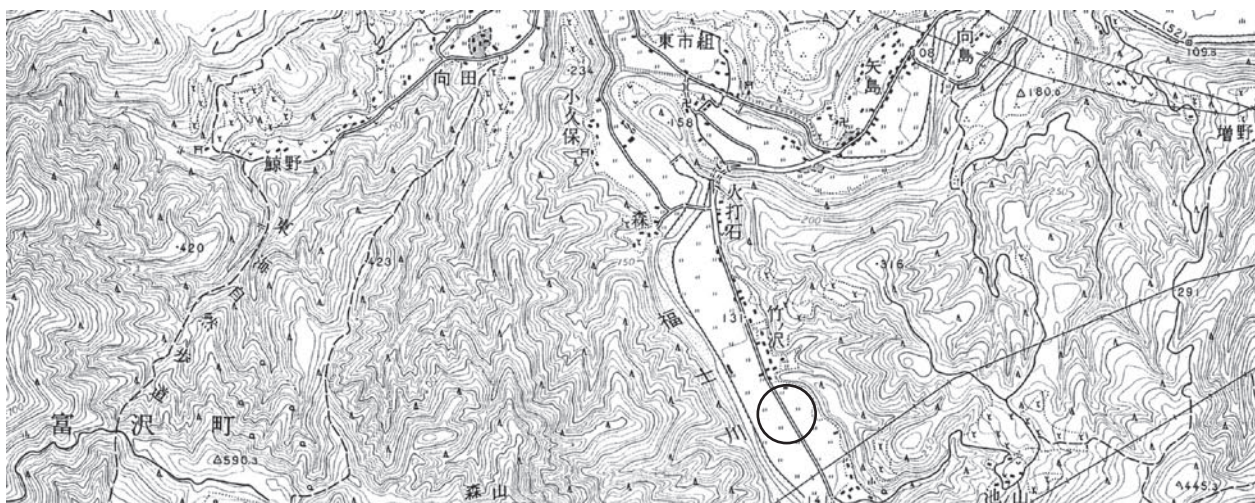
調査経緯及び事業内容と結果

平成23年4月19日に行われた中日本高速道路株式会社との現地協議を踏まえ、試掘調査を実施した。

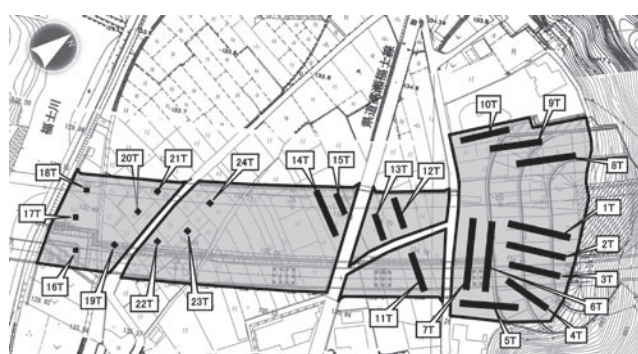
事業予定地は、西側の山地から東流し富士川へ合流する富士川の右岸に広がる標高133～135mの氾濫原にあり、周知の埋蔵文化財包蔵地「竹ノ沢遺跡」（中・近世）の南側に接しており、水田地帯である平坦地が広範囲に及ぶことから、引き渡し完了した用地内に長さ10～25m、幅約1.2mのトレンチ15箇所を重機により、長さ・幅1mのトレンチ9箇所を人力によりそれぞれ掘削し、平面及び断面観察を行った。

調査地は、県道を挟んで大きく南北に分かれる。北側の山裾に設定した1～7号トレンチ一帯は、水田を埋めた表土及び礫層が地表下60cm前後まで堆積し、1～5号トレンチではローム層が確認できるが、6・7号トレンチからは砂礫層となった。8号トレンチでは地山層は確認できず、表土下は砂質土や砂礫を多く含んだ粘土層で南へ行くほど大きな礫を含む砂礫層となり、11～13号トレンチにおいても水田の耕作土及び床土の直下で砂礫層となり、これらの間で遺構・遺物は全く確認されなかった。県道から南側においても同様の状況であり、盛土された14・15号トレンチ以外は地表下でほどなく砂礫層となり、この区域においても遺構・遺物を確認することはできなかった。今回試掘できなかった中央部分も同様の状況が想定される。

以上の結果から、竹ノ沢遺跡の範囲は当該区域には及んでおらず、工事に支障はない旨を報告した。



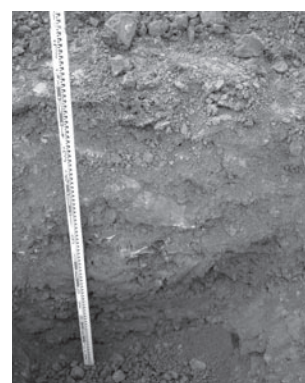
第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



1号トレンチ調査風景



7号トレンチ土層堆積状況

11 中部横断自動車道（富沢 I C アクセス道路）建設事業 試掘《前田遺跡》

所在地	南巨摩郡南部町富士字真篠地内	調査期間	平成23年7月13日～21日
担当者	小林健二・永田亮一	調査面積	238㎡

調査経緯及び事業内容と結果

平成23年4月20日に行われた国土交通省との現地協議を踏まえ、試掘調査を実施した。

事業予定地は、真篠集落のある台地の南側にあり、標高180m前後を測る。今回の予定地内一帯が周知の埋蔵文化財包蔵地「前田遺跡」（縄文）の範囲に含まれるほか、南側には仲間遺跡（縄文・中世）が隣接し、集落を挟んで北側には真篠遺跡（縄文）や、中世後半に築かれた山城である県指定史跡真篠城跡がある。このような立地の中、前田遺跡の広がりや遺構・遺物の有無を把握するため、引き渡し完了した用地内に長さ5～20m、幅約1mのトレンチ23箇所を重機により、長さ・幅1mのトレンチ5箇所を人力によりそれぞれ掘削し、平面及び断面観察を行った。

調査地は、かつては北から南に向かって緩やかな傾斜を持って広がっていたと思われるが、後世の開発等により西側に向かって階段状に造成され、1・2号トレンチ付近が最も低い。そして1～4号トレンチでは、地表下10～15cmほどですぐに地山層となり、5～10号トレンチでは青灰色の粘土層をはじめ粘性の強い土層堆積が確認され、8号トレンチでは湧水があった。11～16号トレンチでは再び地山層が確認されたが、町道西側（17～23号トレンチ）、東側台地上（24～28号トレンチ）においても、地表下20cmほどでローム層となり、この間のいずれのトレンチからも遺構・遺物は全く確認することはできなかった。

以上の試掘調査の結果から、当該区域で前田遺跡の範囲は捉えられず、工事に支障はない旨を報告した。



第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



6号トレンチ調査風景



17号トレンチ土層堆積状況

12 中部横断自動車道建設事業 試掘 (市川三郷町岩間地内)

所在地	西八代郡市川三郷町岩間字原74外地内	調査期間	平成23年7月25日～27日
担当者	小林健二・永田亮一	調査面積	17㎡

調査経緯及び事業内容と結果

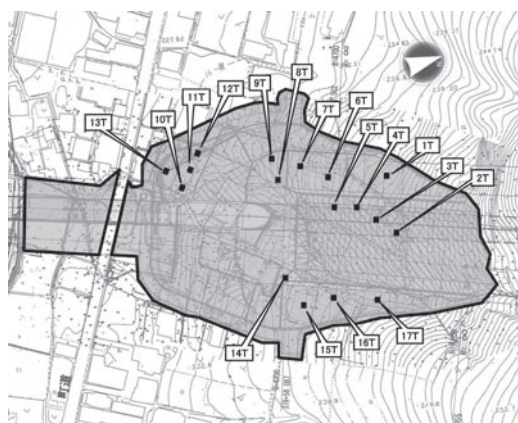
平成23年4月27日に行われた中日本高速道路株式会社との現地協議を踏まえ、試掘調査を実施した。

事業予定地は、北側の山地から南流し富士川へ合流する山田川・葛籠沢川に挟まれた地域にあり、町道沿いの平地で標高230m前後、山側の傾斜地で標高238m前後を測る。予定地一帯には周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、この区間が傾斜地から平地にかけて広範囲に及ぶことから、引き渡しが完了した用地内に長さ・幅1mのトレンチを17箇所設定し人力により掘削し、平面及び断面観察を行った。

調査地は、北西山側の緩斜面(1～9号トレンチ)、町道沿いの宅地部分(10～13号トレンチ)、北東山側の緩斜面(14～17号トレンチ)の3地点に分かれるが、いずれのトレンチにおいても、粘性・しまり共に極めて強い土層堆積であった。1～9・17号トレンチでは地表下30cm前後で地山層となり、10～13号トレンチ及び14～16号トレンチ一帯は盛土により造成されており、これらの間で遺構・遺物を確認することはできなかった。しかし、対象区域内には引き渡しが完了していない用地が多く、今回の人力による調査だけでは不十分であり、今後用地の引き渡しが進んだ段階で、改めて試掘を行う必要がある旨を報告した。



第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



1号トレンチ調査風景



5号トレンチ土層堆積状況

13 中部横断自動車道（身延 I C アクセス道路）建設事業 試掘（身延町上八木沢地内）

所在地	南巨摩郡身延町上八木沢地内	調査期間	平成23年 8月3日～4日
担当者	小林健二・永田亮一	調査面積	25㎡

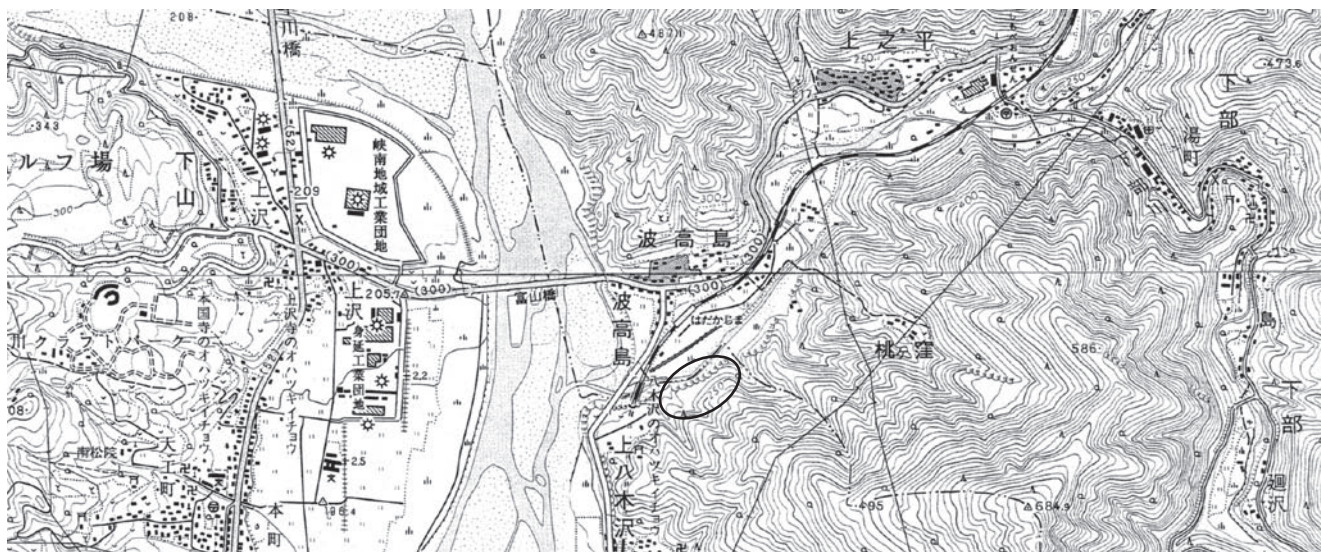
調査経緯及び事業内容と結果

平成23年4月20日に行われた国土交通省との現地協議を踏まえ、試掘調査を実施した。

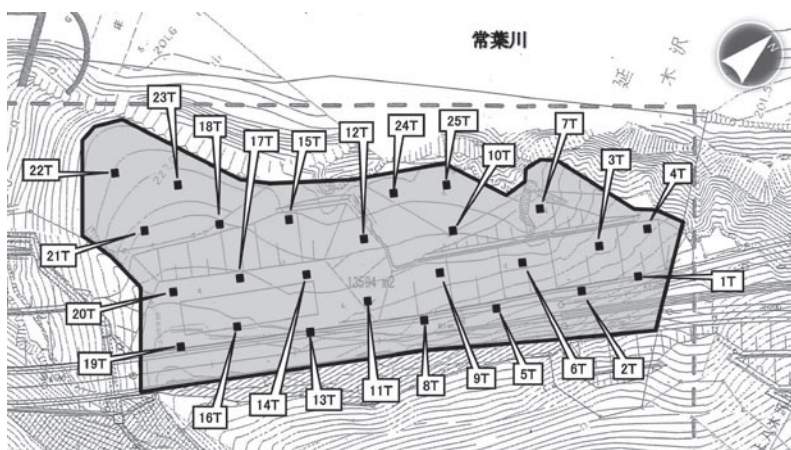
事業予定地は、北東の山地から南流し富士川へ合流する常葉川左岸の段丘上の山林にあり、標高228m前後を測る。周辺には古代～中世の埋蔵文化財包蔵地は知られていないが、常葉川沿いでは近世には富士川舟運に参加した波高島河岸や、明治期には富士川運輸会社の分社が置かれていた。また、常葉川沿いの住宅地や田畑の中には堤防が遺されており、「常葉川堤防遺跡」として周知されているが、富士川への合流地点の手前にある事業予定地一帯が常葉川に面して台地状に広がっていることから、埋蔵文化財の有無を把握するため、対象地に長さ・幅1mのトレンチを25箇所設定し人力により掘削し、平面及び断面観察を行った。

調査地は、東側（山側）から緩やかに傾斜しているが、西側は常葉川に浸食され、南側は谷になっている。いずれのトレンチにおいても、厚さ5～20cmほどの表土（腐植土）の直下に礫を含んだ明褐色～にぶい黄色の堅くしまった地山層が検出され、遺構・遺物は全く確認することはできなかった。

以上の試掘調査の結果から、当該区域における工事に支障はない旨を報告した。



第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



21号トレンチ土層堆積状況

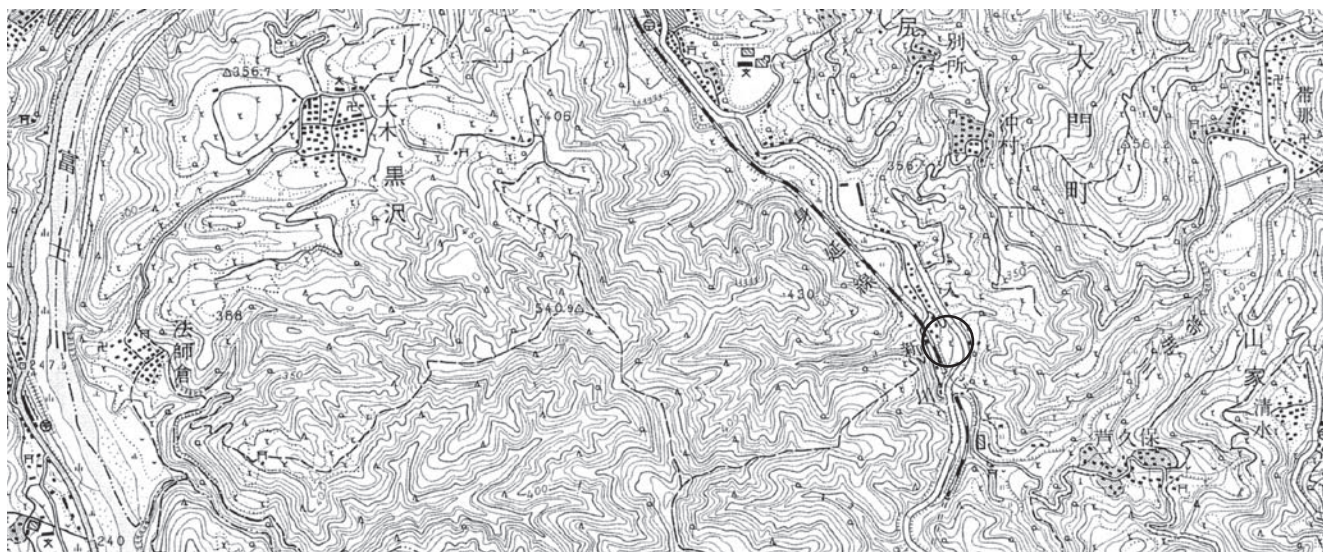
14 中部横断自動車道建設事業 試掘 (市川三郷町黒沢地内)

所在地	西八代郡市川三郷町黒沢字洗平2150-5外地内	調査期間	平成23年9月14日～15日
担当者	小林健二・永田亮一	調査面積	18㎡

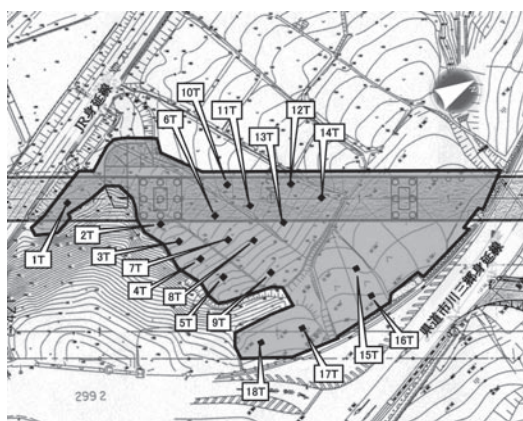
調査経緯及び事業内容と結果

事業予定地は、山間を北流し富士川へ合流する新川右岸一帯に広がる緩斜面にあり、標高290m前後を測る。新川に沿って走るJR身延線と県道市川三郷身延線に挟まれたこの一帯には、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、この区域が河川に面した緩斜面という立地にあることから、引き渡しが完了した用地内に長さ・幅1mのトレンチを18箇所設定し人力により掘削し、平面及び断面観察を行った。

JR身延線沿いの平地に設定した1号トレンチでは、地表下30cmほどで新川の氾濫による砂礫層となり、地山層まで明確に確認することができなかったが、この部分において遺構・遺物が存在する可能性はないものと思われる。2～18号トレンチでは、粘性・しまり共に極めて強い土層堆積が見られ、このうち2・5・9・17・18号トレンチでは地表下30cm前後で地山層となり、3・4・6～8・10～16号トレンチでは表土層と地山層の間に黒色や鈍い褐色系の粘土層の堆積が確認されたが、いずれも遺構・遺物は確認することはできなかった。しかし、今回調査できなかった県道沿い北側部分において土器片の散布が見られることから、この部分については用地の引き渡し完了段階で、改めて試掘を行う必要がある旨を報告した。



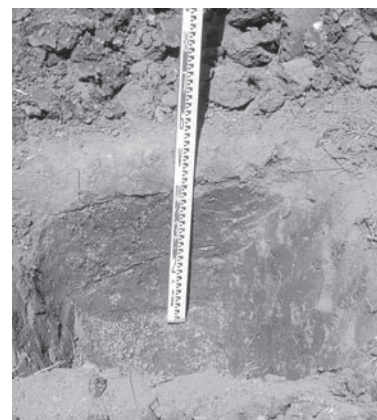
第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



12号トレンチ土層堆積状況



15号トレンチ土層堆積状況

15 中部横断自動車道建設事業 試掘 (身延町帯金地内)

所在地	南巨摩郡身延町帯金地内	調査期間	平成23年10月18日
担当者	保坂和博	調査面積	8㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査である。事業予定地は、東側の山地から西流し富士川へ合流する入之沢川の左岸に広がる河岸段丘上にあり、周知の埋蔵文化財包蔵地である東林庵遺跡（寺院跡）に隣接することから、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所（中部横断自動車道推進室）、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、平成23年4月20日に実施した現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

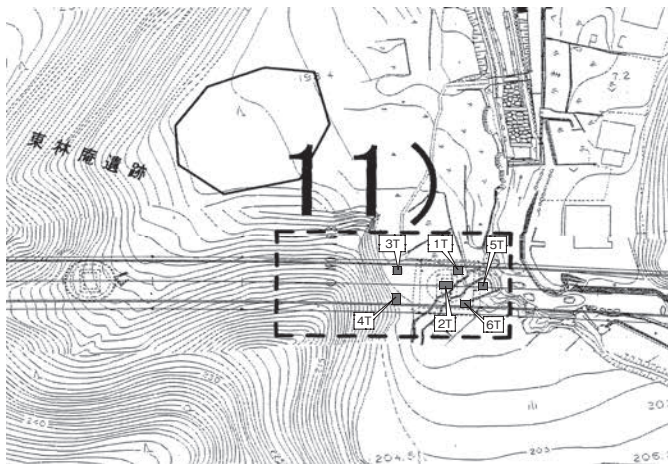
今回の試掘調査では、長さ約1.0～2.0m、幅約1.0m、深さ約0.4～1.0mのトレンチ（試掘溝）を6箇所(1T～6T)設定し、人力によりそれぞれ掘削し、遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、地表下30cm～80cmまでは第1層（表土層：黒褐色土層）、第2層（水田層：暗褐色土層）、第3層（床土層：暗黄褐色土層）が堆積し、その下層は入之沢川による河川堆積層となる第4層（暗灰褐色砂礫層）、第5層（暗灰色礫層）の層順が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。



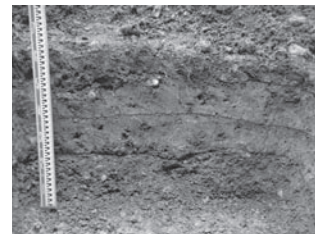
第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



1T土層堆積状況



3T土層堆積状況



4T土層堆積状況



6T土層堆積状況

16 中部横断自動車道建設事業 試掘 (身延町帯金泥の沢地内)

所在地	南巨摩郡身延町帯金泥の沢地内	調査期間	平成23年10月19日
担当者	保坂和博	調査面積	4㎡

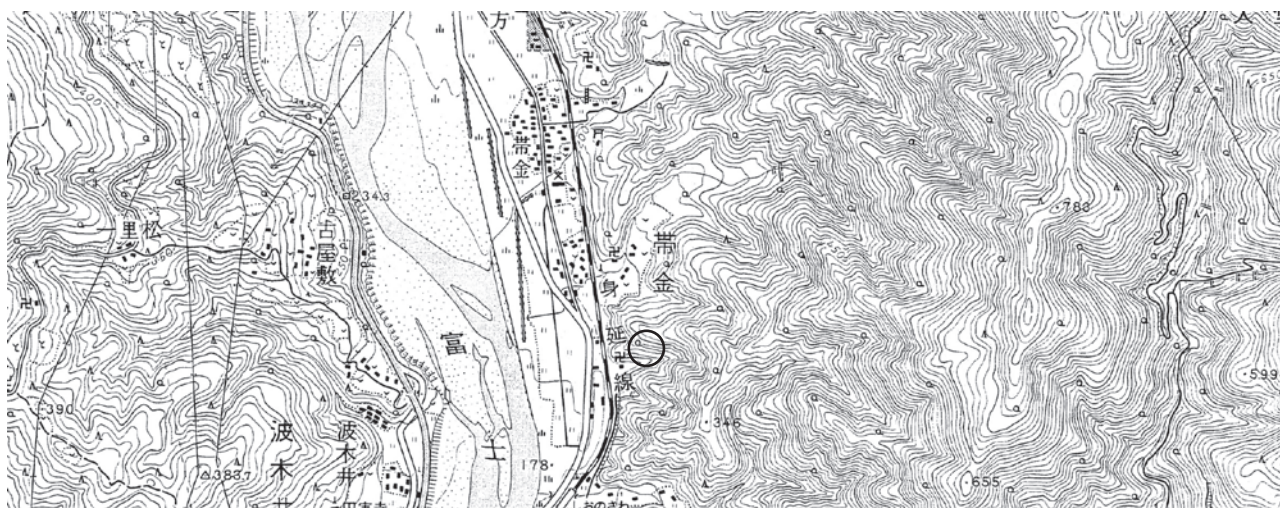
調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査である。事業予定地は、東側の山地から西流し富士川へ合流する泥之沢川の左岸に広がる河岸段丘上であり、周知の埋蔵文化財包蔵地である泥の沢A遺跡(中～近世)に隣接することから、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所(中部横断自動車道推進室)、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、平成23年4月20日に実施した現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

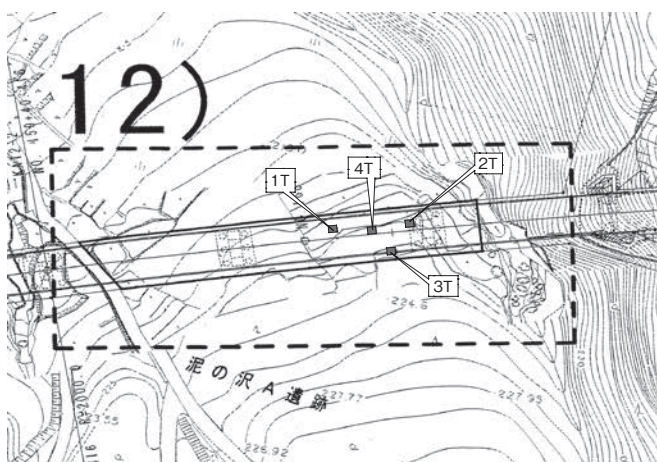
今回の試掘調査では、長さ約1.0m、幅約1.0m、深さ約0.4～0.9mのトレンチ(試掘溝)を4箇所(1T～4T)設定し、人力によりそれぞれ掘削し、遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、地表下30cm前後までは第1層(表土層:黒褐色土層)、第2層(水田層:暗褐色土層)、第3層(床土層:暗黄褐色土層)が堆積し、その下層は泥之沢川による河川堆積層となる第4層(暗灰褐色砂礫層)の層順が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。



第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



1T土層堆積状況



2T土層堆積状況



3T土層堆積状況



4T土層堆積状況

17 中部横断自動車道建設事業 試掘 (身延町和田樋之上地内)

所在地	南巨摩郡身延町和田樋之上地内	調査期間	平成23年10月19日～20日
担当者	保坂和博	調査面積	5㎡

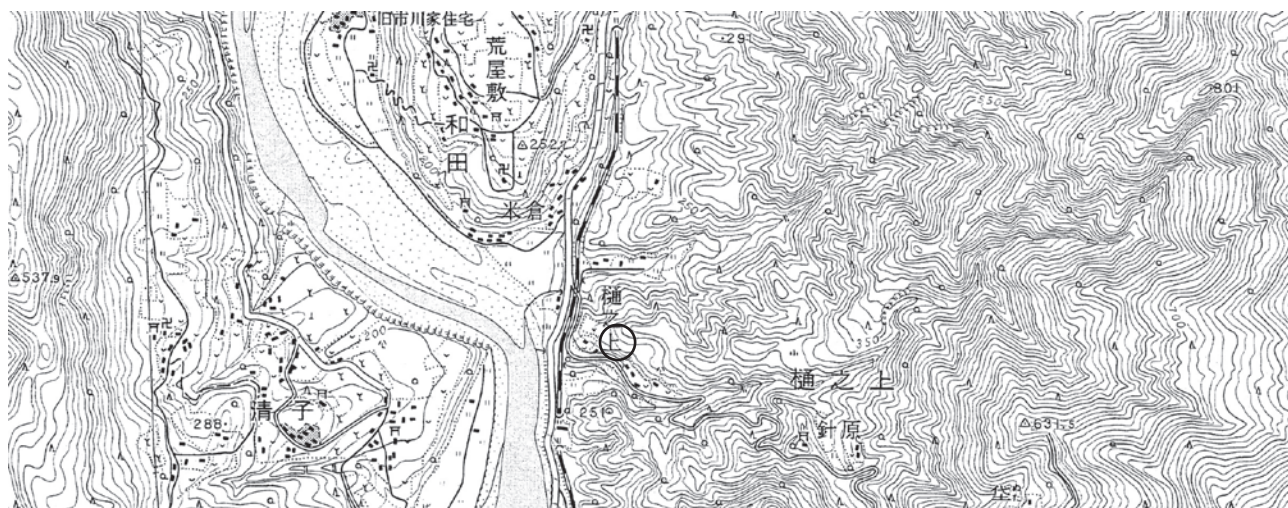
調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査である。事業予定地には、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、現水田地帯として平坦地が広範囲に及ぶことから、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所（中部横断自動車道推進室）、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、平成23年4月20日に実施した現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

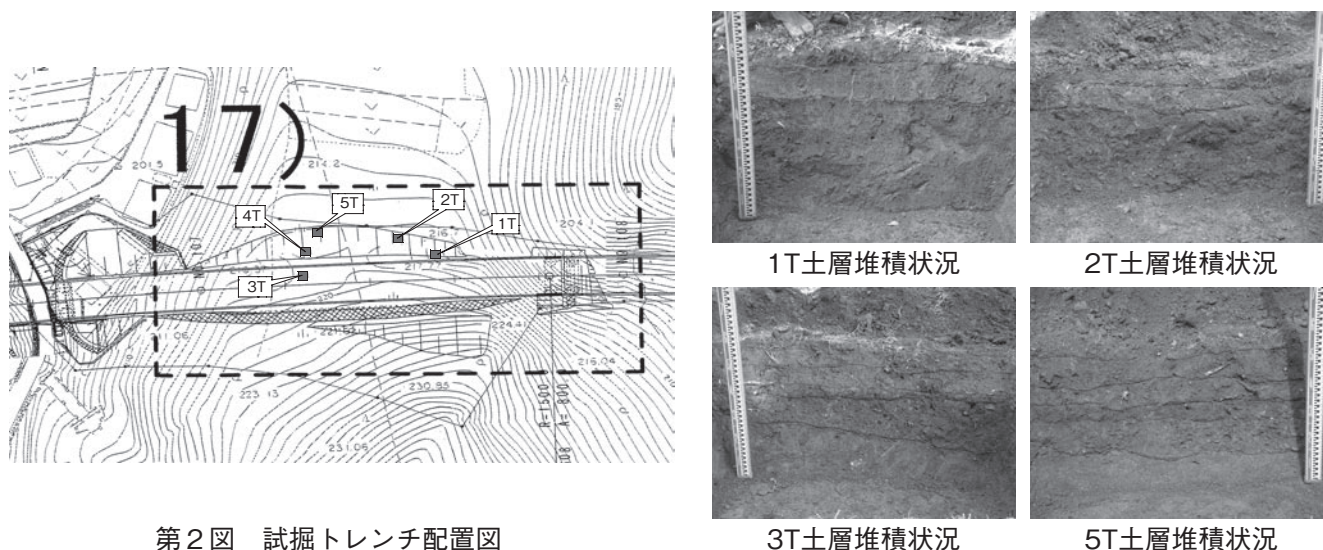
今回の試掘調査では、引き渡しが完了した用地内に長さ約1.0m、幅約1.0m、深さ約0.6m前後のトレンチ（試掘溝）を5箇所(1T～5T)設定し、人力によりそれぞれ掘削し、遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、地表下30cm前後までは第1層（表土層：黒褐色土層）、第2層（水田層：暗褐色土層）、第3層（床土層：暗黄褐色土層）が堆積し、その下層は地山層となる第4層（暗灰褐色砂礫層）、第5層（暗灰色礫層）、第6層（褐色砂層）の層順が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。



第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図

1T土層堆積状況

2T土層堆積状況

3T土層堆積状況

5T土層堆積状況

18 中部横断自動車道建設事業 試掘 (身延町大島地内)

所在地	南巨摩郡身延町大島地内	調査期間	平成23年10月20日
担当者	保坂和博	調査面積	3㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査である。事業予定地には、東側の山地から西流し富士川へ合流する長戸川の左岸に広がる氾濫原にあり、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、水田地帯である現集落の平坦地が広範囲に及ぶことから、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所（中部横断自動車道推進室）、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、平成23年4月20日に実施した現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

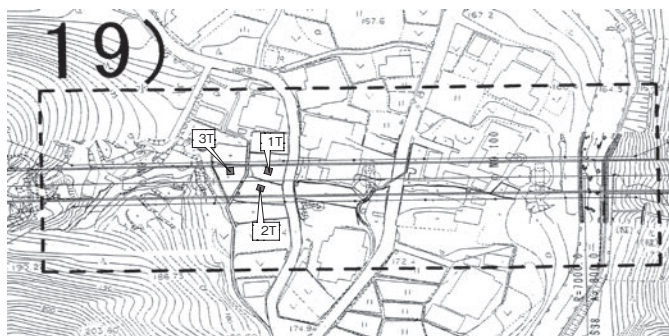
今回の試掘調査では、引き渡しが完了した用地内に長さ約1.0m、幅約1.0m、深さ約0.6m前後のトレンチ（試掘溝）を3箇所(1T～3T)設定し、人力によりそれぞれ掘削し、遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、地表下35cm前後までは第1層（水田層：暗灰黄色粘質土層）、第2層（床土層：にぶい黄褐色粘質土層）が堆積し、その下層は長戸川による河川堆積層となる第3層（黄灰色砂礫層）の層順が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。



第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



調査状況



1T土層堆積状況



2T土層堆積状況



3T土層堆積状況

19 中部横断自動車道建設事業 試掘 (身延町上八木沢地内)

所在地	南巨摩郡身延町上八木沢地内	調査期間	平成23年10月21日
担当者	保坂和博	調査面積	7㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査である。事業予定地には、東側の山地から西流し富士川へ合流する不動沢川の右岸に広がる氾濫原にあり、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、現水田地帯として平坦地が広範囲に及ぶことから、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所（中部横断自動車道推進室）、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、平成23年4月20日に実施した現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

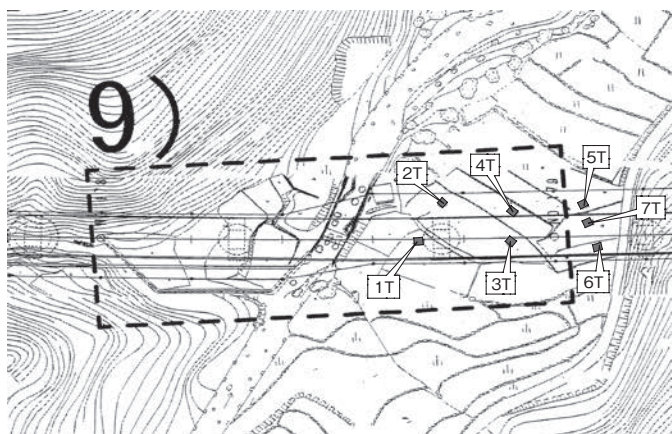
今回の試掘調査では、引き渡し完了した用地内に長さ約1.0m、幅約1.0m、深さ約0.5～0.7mのトレンチ（試掘溝）を7箇所(1T～7T)設定し、人力によりそれぞれ掘削し、遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、地表下約40～50cmまでは水田の耕作土及び床土がそれぞれ2面ずつ堆積し、その直下から不動沢川の氾濫による砂礫層の層順が確認された。

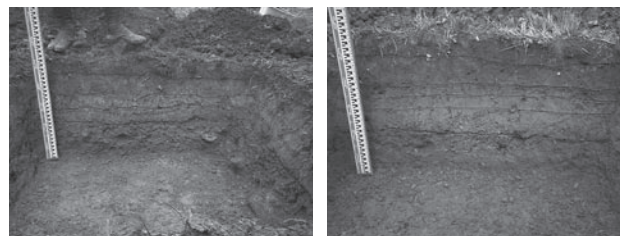
試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。



第1図 中部横断自動車道建設事業位置図

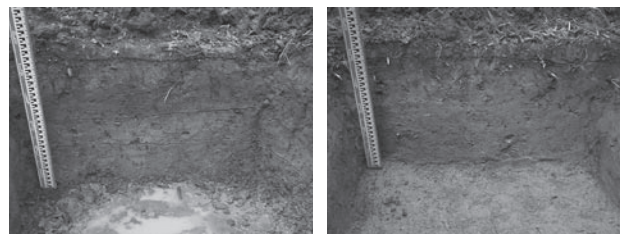


第2図 試掘トレンチ配置図



1T土層堆積状況

2T土層堆積状況



5T土層堆積状況

6T土層堆積状況

20 中部横断自動車道建設事業 試掘 (身延町帯金塩之沢地内)

所在地	南巨摩郡身延町帯金塩之沢地内	調査期間	平成23年10月25日～26日
担当者	保坂和博	調査面積	51㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査である。事業予定地は、東側の山地から西流し富士川へ合流する椿川の右岸に広がる氾濫原と塩之沢が合流する地域にあり、周知の埋蔵文化財包蔵地である塩之沢遺跡（縄文）に隣接することから、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所（中部横断自動車道推進室）、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、平成23年4月20日に実施した現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

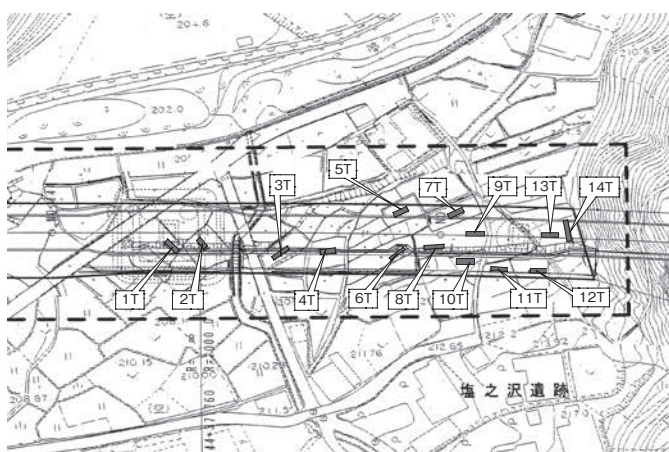
今回の試掘調査では、長さ約3.2～6.5m、幅約0.8m、深さ約0.5～0.9mのトレンチ（試掘溝）を14箇所(1T～14T)設定し、重機によりそれぞれ掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、椿川の氾濫原（1T～7T）と塩之沢（8T～14T）で異なる状況である。1T～7Tでは、表土下30cm前後までは水田の耕作土及び床土が堆積し、その直下から氾濫による砂礫層となる。8T～14Tでは、地表下50cm前後までは畑層（表土層）及び旧水田層（第2層）が堆積し、その下層は塩之沢による河川堆積層の層順が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。



第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



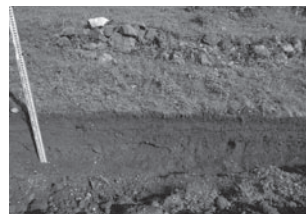
第2図 試掘トレンチ配置図



4T土層堆積状況



6T土層堆積状況



8T土層堆積状況



14T土層堆積状況

21 中部横断自動車道建設事業 試掘 (南部町福土地内)

所在地	南巨摩郡南部町福土地内	調査期間	平成23年11月2日、4日
担当者	保坂和博	調査面積	76.8㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査である。事業予定地には、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、地元では臨済宗古寺の伝承地として知られており、また現茶畑や竹林地帯として平坦地が広範囲に及ぶことから、中日本高速道路株式会社、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、平成23年4月19日に行われた現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、長さ約6~15m、幅約1.2m、深さ約0.4~1.4mのトレンチ（試掘溝）を7箇所(1T~7T)設定し、重機によりそれぞれ掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、地表下約10~40cmまでは竹林や茶畑などの耕作土が堆積し、その直下に地山のローム層が確認された。また、ローム層を掘りこむように1T、3T、4T、7Tを結ぶ方向に延びる幅6m程の谷状の落ち込みを検出した。さらに、3T、5T、6Tでは、この谷部を整地するための客土が約20cm~50cmの厚さで確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。なお、今回試の調査地点より北西側の杉林となっている平坦面については、重機の搬入が困難なため、改めて人力の掘削による試掘調査が必要である旨を合わせて報告した。



第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



1T土層堆積状況



2T土層堆積状況



6T土層堆積状況



7T土層堆積状況

22 西関東連絡道路（第Ⅱ期）建設事業 試掘 （山梨市北地内）

所在地	山梨市北地内	調査期間	平成23年4月25日～27日
担当者	笠原みゆき・加々美鮎実	調査面積	135.8㎡

調査経緯及び事業内容と結果

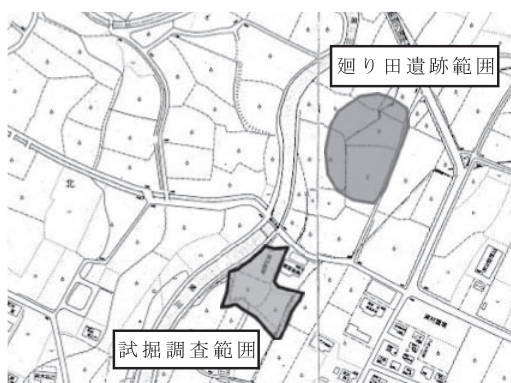
当該地は、西関東連絡道路建設に先立つ工事用道路の設置に伴う試掘調査であり、周知の埋蔵文化財包蔵地「廻り田遺跡（登録番号05189）」に隣接する地点にあたる。また、周囲には、中世に武田氏により再建・改修された社殿が現存する大井俣窪八幡神社が存在するなど、周辺の歴史環境や立地条件をふまえ、試掘調査を行うこととなった。

調査区内は、西側と東側とで70cmほどの段差がある。この東側の段上に幅150cm、長さ550～1100cmのトレンチを6本、西側の段下に4本、合計10本のトレンチを設定し、遺構・遺物の有無を確認した。1～5トレンチでは、ほぼ100cmの盛土と砂礫層が堆積する状況がみられ、盛土中からは瓦礫が確認された。6トレンチは段上から段下にかけて設置したトレンチであるが、トレンチ全面から水田が確認できた。地元の方の話から、近接する川沿いに水田があったとのことで、近世から現代にかけてのものと推定できる。7～10トレンチでは、6トレンチ同様の水田が確認された。この4本のトレンチからは、平安時代の遺物が数点発見されたが、そのほとんどの遺物は摩耗が激しく極小の土師器片のため、上流等、周知の埋蔵文化財包蔵地からの流れ込みによる遺物と判断した。

試掘調査の結果、東側上段の1～5トレンチでは、瓦礫を含む1m近い盛土が確認され、この下層はすぐに砂礫層となる。6～10トレンチからは水田を確認したが、近世以降のものであることから、山梨県埋蔵文化財事務取扱要項第3条の基準により、本格的な調査の必要はないと考えられ、以上の結果から、工事に着手することになった。



第1図 西関東連絡道路（第Ⅱ期）建設事業位置図



第2図 廻り田遺跡と試掘調査範囲



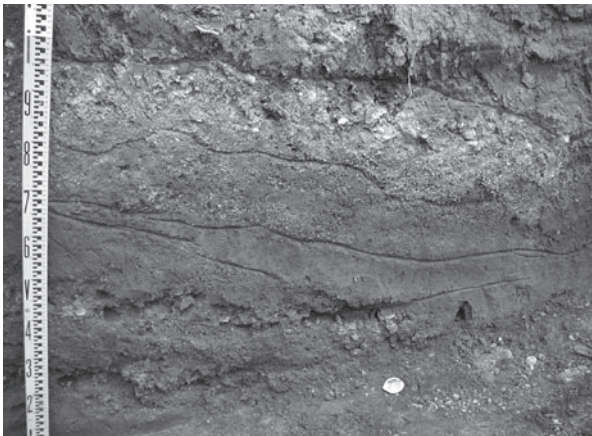
第3図 試掘トレンチ配置図



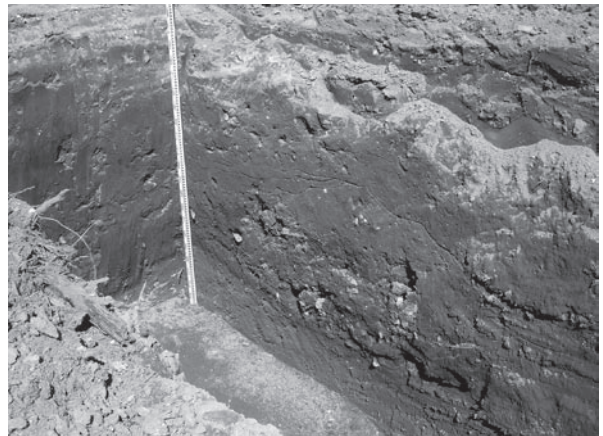
1号トレンチ掘削状況



2号トレンチ検出状況



3号トレンチ土層断面



4号トレンチ土層断面



5号トレンチ深掘り状況



8号トレンチ検出状況



9号トレンチ検出状況



10号トレンチ検出状況

23 西関東連絡道路（第Ⅱ期）建設事業 試掘 （山梨市万力地内）

所在地	山梨市万力地内	調査期間	平成23年6月13日～15日
担当者	保坂和博	調査面積	64㎡

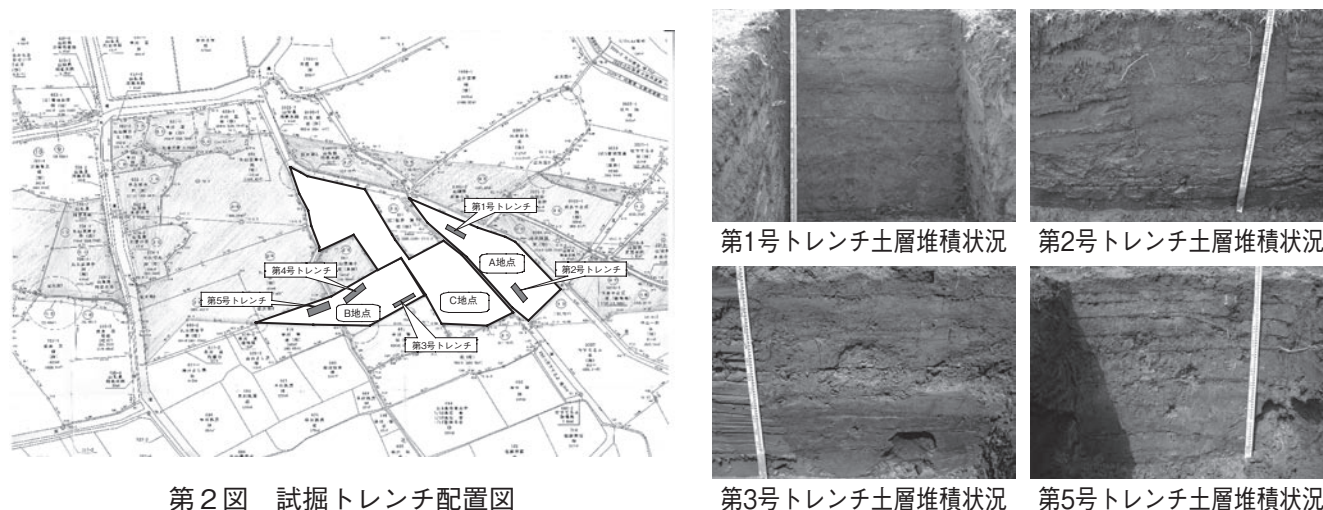
調査経緯及び事業内容と結果

西関東連絡道路（第Ⅱ期）建設事業に対する埋蔵文化財への対応は、周知の埋蔵文化財包蔵地である足原田遺跡等に近接することから、昨年度より試掘調査を実施し、この結果を受けて今年度から本調査を開始したところである。平成23年5月10日の現地協議に基づき今回の試掘調査は、昨年度未買収のため試掘調査が出来なかった範囲（A～C地点）の中で、A及びB地点において試掘溝（トレンチ）を5箇所設定し、調査を実施した。C地点は、土地の引渡し完了していないため今回は実施しないこととした。A地点では第1号トレンチ（長さ約6.6m、幅約1.6m、深さ約2.1m）、第2号トレンチ（長さ約6.0m、幅約2.4m、深さ約2.1m）、B地点では第3号トレンチ（長さ約6.8m、幅約1.8m、深さ約1.6m）、第4号トレンチ（長さ約6.0m、幅約2.0m、深さ約1.7m）、第5号トレンチ（長さ約6.5m、幅約1.9m、深さ約1.5m）において遺構確認と土層観察を行った。各地点における土層堆積状況は、昨年度実施したトレンチ（第23号トレンチ等）と基本的に同様であり、旧水田床土層（第4層）以下には、調査対象地北側に広がる山から流れてくる地下水の影響を受け鉄分を多量に含む湿地帯（黒褐色粘質土層：第7～9層）の形成が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、今回の試掘調査地点では工事を進めても差し支えない旨を報告した。また、C地点についても今回の試掘調査結果からA及びB地点同様に埋蔵文化財の対応は必要ない旨を合わせて報告した。



第1図 西関東連絡道路（第Ⅱ期）建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図

24 古府中環状浅原線（国道411号）拡幅事業 試掘 《甲府城下町遺跡》

所在地	甲府市中央2丁目地内	調査期間	平成23年5月19日～20日
担当者	保坂和博	調査面積	23㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、古府中環状浅原線（国道411号）拡幅事業に伴う埋蔵文化財の試掘調査である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城下町遺跡の範囲内に当たることから、平成23年4月26日及び5月11日に行った現地協議に基づき、道路を挟んだエリア1及びエリア2において調査を実施した。

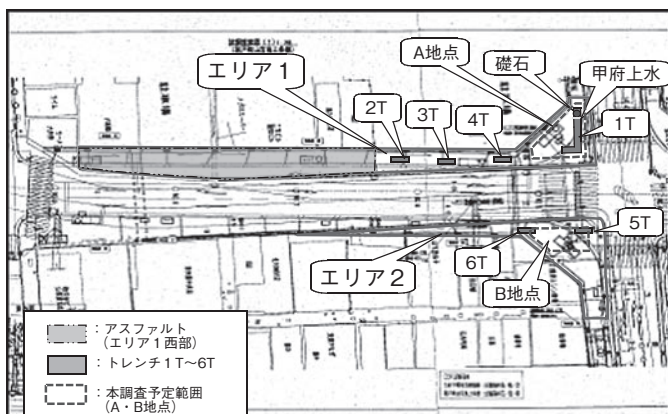
今回の試掘調査では、長さ約2.0～10.0m、幅1.0m、深さ約1.5mのトレンチ（試掘溝）を6本（1T～6T）設定し、重機による掘削後、人力による平面・断面の観察を行った。土層の堆積状況は、第1層（アスファルト）、第2層（碎石）以下に、1T・5T・6Tでは地表から深さ約0.4～0.8m、厚さ約0.1mの暗褐色粘土層と地表から深さ約0.85～0.95m、厚さ約0.1mの黒色土層において、近世（江戸時代）の焼土層（文化面）が確認された。2T～4Tでは、地表から深さ約0.2～0.3m、厚さ約0.3m～1.5m以上で堆積している現代の埋土層が確認された。

試掘調査の結果、2T～4Tを除く、1T・5T・6Tから近世（江戸時代）の焼土層（文化面）2面などが検出され、甲府上水跡、陶磁器類、銭貨など確認されたことから、エリア1A地点約60㎡、エリア2B地点約30㎡の範囲において、本格的発掘調査を平成23年10月14日から11月14日まで実施した。

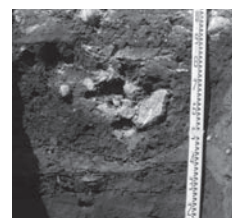
なお、現在、アスファルトが敷設されているエリア1の西部（甲府城跡の二の堀、土塁等が遺存していると考えられる範囲）については、工事施工時に立会調査（危険のない範囲で堀内の調査等）を行うこととした。



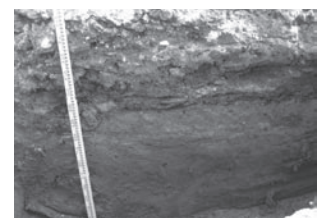
第1図 古府中環状浅原線（国道411号）拡幅事業位置図



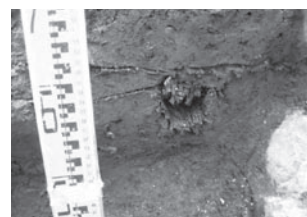
第2図 試掘トレンチ配置図



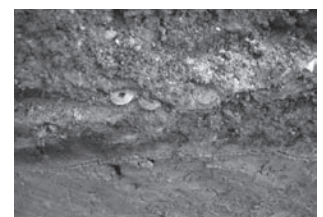
1T土層堆積状況



5T土層堆積状況



1T甲府上水検出状況



5T銭貨出土状況

25 山梨リニア実験線建設事業 試掘 (笛吹市八代町竹居地内)

所在地	笛吹市八代町竹居字柚木1246外地内	調査期間	平成23年1月13日
担当者	保坂和博	調査面積	56㎡

調査経緯及び事業内容と結果

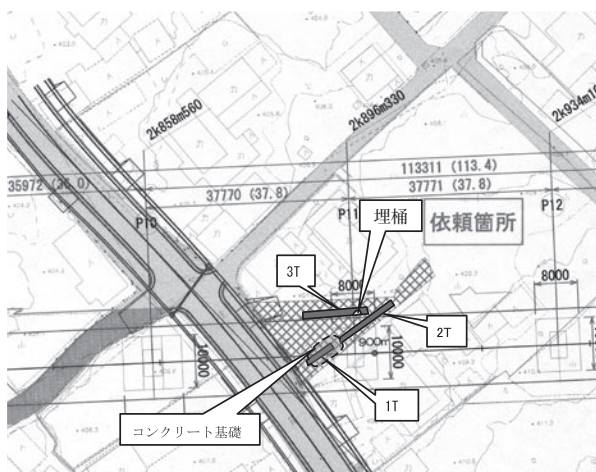
山梨リニア実験線建設事業に伴い、周知の埋蔵文化財包含地である柚木遺跡の範囲に隣接する地点で工事が行われることから、平成23年1月12日に実施した現地協議に基づき、長さ5～12m、幅0.5～1m、深さ約1.3のトレンチ(試掘溝)を3箇所設定し、試掘調査を実施した。

土層の堆積状況は、表土層以下第7層までは地点により異なった層序となり、第1号トレンチと第2号トレンチで、第1層(表土層:黒褐色土層)、第2層(盛土層:黒褐色土層)、第3層(コンクリート基礎)、第3号トレンチで埋桶の埋設に伴う第5層(極暗褐色土層)、第6層(にぶい黄橙色砂層)、第7層(黒色土層)が検出されたが、第8層以下は、基本的に同様な自然堆積層となり、第8層(黒褐色土層)、第9層(黒褐色土層)、第10層(黒褐色土層)、第11層(褐色土層)の層順が確認された。

試掘調査の結果、第2号トレンチと第3号トレンチの第7層から摩滅した平安時代の土師器(甕口縁部)破片と黒曜石破片がそれぞれ1点出土したのみで、これまでに本地点の近接する範囲で行われた試掘調査でも同様に希薄な出土状況がみられ、周辺地域に所在する遺跡からの流れ込みと判断される。また、第3号トレンチで埋桶が確認されたが、調査対象地が狭くトレンチを拡張しての調査が困難で、時代の特定には至らなかったことから、本地点に隣接する未調査範囲を試掘する際に、改めて確認することとした。以上のことから、埋桶を確認した範囲以外については、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。



第1図 山梨リニア実験線建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



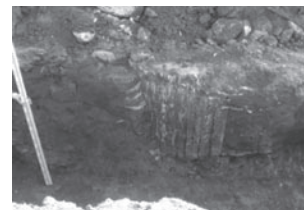
第1号トレンチ土層堆積状況



第2号トレンチ土層堆積状況



第3号トレンチ完掘状況



第3号トレンチ埋桶検出状況

26 山梨リニア実験線建設事業 試掘 《上の平A遺跡》

所在地	笛吹市八代町米倉2087-11外地内	調査期間	平成23年2月16日
担当者	吉岡弘樹・皆川賢司	調査面積	20㎡

調査経緯及び事業内容と結果

上の平A遺跡は、通称「竜安寺山」と呼ばれる丘陵上の東西300m、南北600mの広さを有する北向きの緩斜面（標高約380m）に占地している。また、上の平A遺跡範囲の中央やや北寄りには一辺が約55mの方墳として知られる県指定史跡竜塚古墳が、南西方向には、周知の埋蔵文化財包蔵地である上の平B遺跡（縄文・古墳一散布地）が広がりを見せている。このことに加え、対象地となるコンクリート敷きの市道の両脇および畑地（果樹経営）に地下埋設物（畑地灌漑用水管）が通水していることが指摘されたことなどから、平成23年2月8日（火）に鉄道建設・運輸施設整備支援機構、JV、笛吹川沿岸土地改良区、県教育委員会の4者で現地での安全に掘削できる地点の確認を実施し、3箇所のトレンチ開口地点をあらかじめ選定し、平成23年2月16日（水）に試掘調査を実施した。

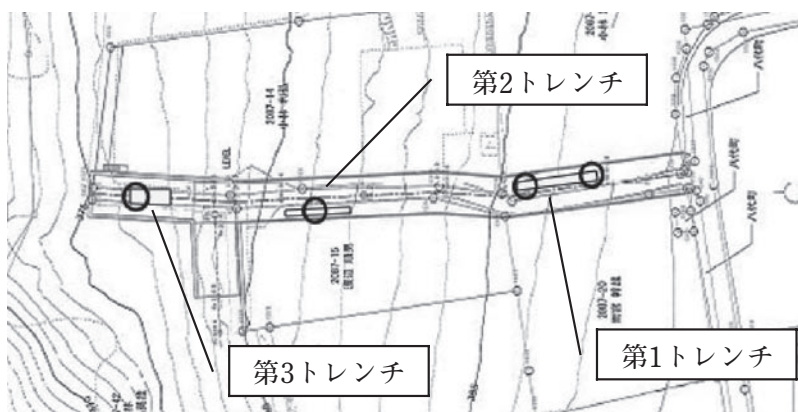
調査は、地下埋設物の位置を考慮し長方形のトレンチを開口させた後、土層堆積状況を確認することとした。掘削には、小型重機を用いその後に精査、土層断面の観察、遺構・遺物の有無等の確認を行い調査後に埋戻しを行った。

その結果、各土層確認地点において、20～50cmの表土層（耕作土）下に、20～45cmの淡黄褐色土層・淡茶褐色土層がみられた。さらに、下方には暗黄褐色土層などの地山層が観察できた。なお、これらの各層序より遺構や遺物が検出される層序は確認できなかった。

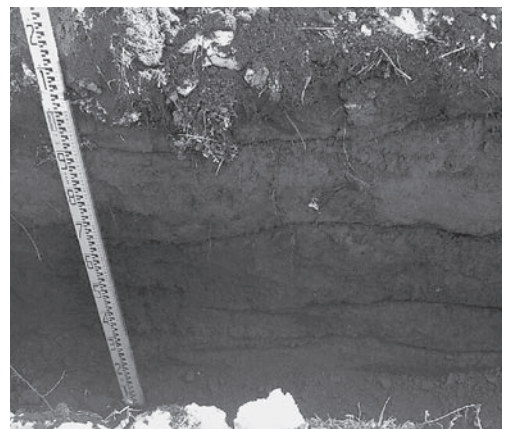
上記のとおり、各トレンチ開口地点での土層から遺構や遺物が確認されなかったことや地形などから判断して埋蔵文化財に関する対応は必要ないものと思われる。



第1図 山梨リニア実験線建設事業(上の平A遺跡)位置図



第2図 トレンチ開口位置図



土層堆積状況(第1トレンチ南側)

27 山梨リニア実験線建設事業 試掘 《柚木遺跡》

所在地	笛吹市八代町竹居地内	調査期間	平成23年4月5日
担当者	吉岡弘樹	調査面積	16㎡

調査経緯及び事業内容と結果

試掘調査対象となった地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である柚木遺跡（散布地-縄文・平安）の西端部に位置している。また、当地の南側上方に花鳥山遺跡が、また、南東側に隣接して三光遺跡といった全国的にも有名な縄文時代の遺跡が存在する位置にあたる。

調査対象地は、山梨リニア実験線本線上に位置しており、甲府盆地底部に向かう緩傾斜地に直角になるように平坦に造成された宅地及び畑地の一部分である。今回、建物や資材が撤去され更地化されたことによって、調査を実施することが可能となった。

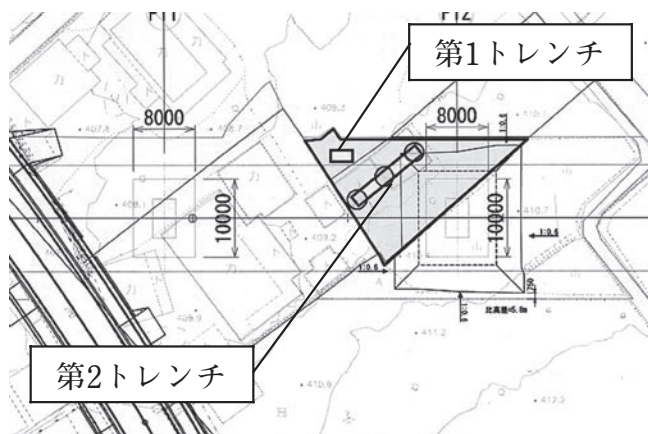
調査は、地形やリニア実験線の路線方向などを考慮し、トレンチを2カ所に設定した。掘削には、重機を用いた後に、精査、土層堆積状況の観察、遺構・遺物の有無等の確認を行い調査後に埋戻しを行った。

その結果、4ヶ所の土層確認地点において、約10~20cmの表土層（耕作土）下に、40~60cmの厚さで上方より攪乱を非常に多く受けている黒褐色土層が確認された。第1トレンチでは、地山層である粘性・しまり共にやや強い、暗黄褐色土層が厚く堆積していた。また、第2トレンチでは3ヶ所で、第1トレンチで観察された黒褐色土層と暗黄褐色土層の間に下層のものとみられるブロックがやや混入されている淡黒褐色土層が20~30cm厚で確認された。なお、これらの各層序より遺構や遺物が包含される層序は確認できなかった。

上記のとおり、第1・2トレンチでの土層から遺構や遺物が確認されなかったことや地形などから判断して埋蔵文化財に関する対応は必要ないものと思われる。



第1図 山梨リニア実験線建設事業(柚木遺跡)位置図



第2図 トレンチ開口地点位置図



第1トレンチ調査風景

28 山梨リニア実験線建設事業 試掘 (笛吹市八代町竹居地内)

所在地	笛吹市八代町竹居字柚木1246外地内	調査期間	平成23年11月24日
担当者	保坂和博	調査面積	31㎡

調査経緯及び事業内容と結果

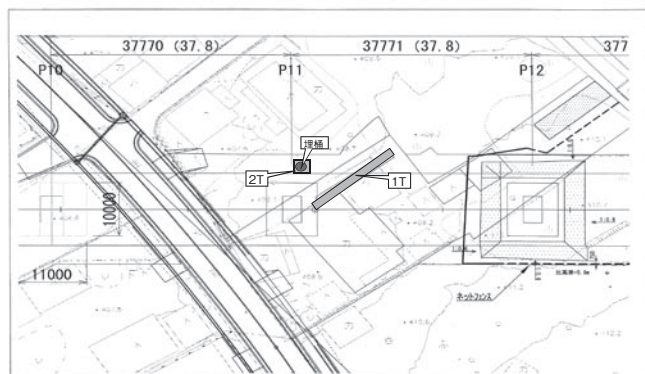
山梨リニア実験線建設事業に伴い、周知の埋蔵文化財包含地である柚木遺跡の範囲に隣接する地点で工事が行われることから、平成23年8月12日に実施した鉄道・運輸機構と学術文化財課の事前協議に基づき、長さ約3～14.5m、幅約1.5～3m、深さ約1.3～2mのトレンチ（試掘溝）を2箇所（1T～2T）設定し、試掘調査を実施した。なお、2Tは前回（平成23年1月13日）の試掘調査で一部確認されていた埋桶の検出地点にあたり、時代を特定するために今回改めて調査を行った。

土層の堆積状況は、前回の試掘調査と基本的に同様であり、表土層以下は黒褐色土層（第2層～第5層）を挟んで、第6層（褐色土層：ローム層）の層順が確認された。

試掘調査の結果、2Tで検出した埋桶は径約1.3m、深さ0.9mの規模を測り、覆土内よりコンクリートブロックなどの廃材が検出されたことから近代まで使用されていたトイレと考えられた。この他には遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。



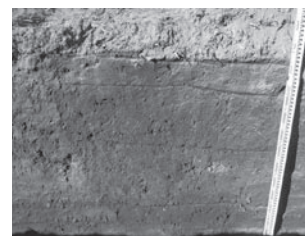
第1図 山梨リニア実験線建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



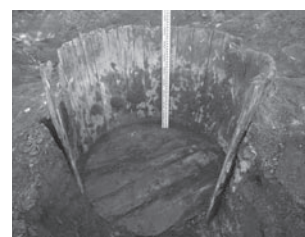
1T完掘状況



1T土層堆積状況



2T埋桶完掘状況



2T埋桶内部確認状況

29 法務省甲府法務総合庁舎建設事業 試掘 《甲府城下町遺跡》

所在地	甲府市中央1丁目11番8号地内	調査期間	平成23年7月25日～26日
担当者	野代恵子・古郡雅子	調査面積	65㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本館が設置されていた部分について調査を実施した。一帯は甲府城下町遺跡であり、調査地点は追手小路とその西側の二の堀との間にあたり、武家地であった。平成22年度に実施された敷地南側の発掘調査では、溝状遺構や中世段階の土器埋設遺構が確認されている。また平成23年7月14・15日には受水槽部分の発掘調査を実施した。既調査で確認されている遺物包含層に対応する層を確認したものの遺構等は発見されなかった。

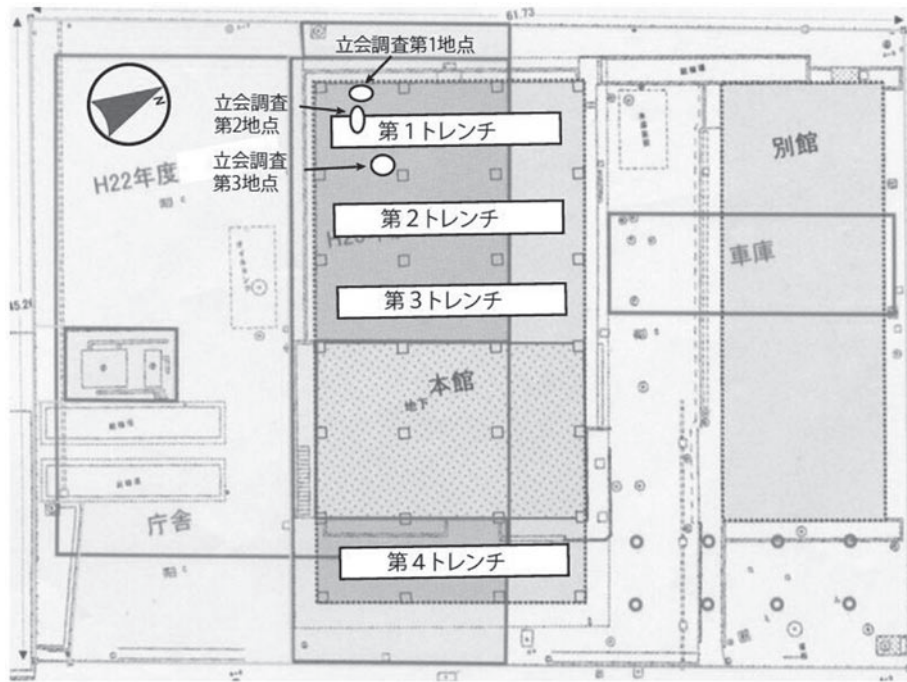
今回の対象地については7月7日に立会調査を実施し、これまでの調査で遺物・遺構を確認している層が残存することが明らかとなったため、本調査を実施することとなったが、既調査の成果から、遺構の密度が薄いこと、攪乱の規模が大きいことが想定されたため、確認調査を実施してより詳細な遺構及び包含層の残存状況を把握する目的で、本調査に先立ち確認調査を実施した。

調査は、対象面積640㎡の範囲において、フーチングを避ける形で、南北方向に4本のトレンチを設定して掘り下げを行なった。また全体的な土層状況を確認するために部分的に深掘りを実施した。第1トレンチでは、上からコンクリート片他碎石部（1層）、シルト混暗青灰褐色粘質土（2層）、鉄分を多く含む暗黒褐色粘質土（3層）、橙褐色砂質土（4層）、暗褐色シルト質土（5層）、暗青灰褐色粘土（6層）であった。3層上面で精査を実施したが、遺構等は確認されなかった。第2・3トレンチでは、コンクリート片他碎石部（1層）の下はすぐ江戸期の遺物包含層である暗褐色粘質土（2層）、シルト混暗青灰褐色粘質土（3層）、その下には10cmほどの厚さで、木片・壁材・竹材・昆虫遺体等の堆積層（4層）が見られたが、この層が遺存するのはトレンチ南端に限られていた。4層の下は暗青灰褐色粘土（5層）であった。また3層上面で精査を実施したところ、第2トレンチの中間部分では、幅30～40cmほどで並ぶ杭列が確認された。第4トレンチは、それ以外の土層と異なり、碎石層（1層）の下は灰茶褐色土（2層）、暗褐色土（3層）、褐色粘質土（4層）と続いている。なおこの4層は60cm以上の厚みがあったが、最南端部分の深掘りを実施したところ、この4層の下には黒色粘質土（5層）が確認された。第4トレンチでは、遺物・遺構ともに確認されなかった。

確認調査の結果、第2・3トレンチでは現地表面下1mほどのところで江戸時代に属する遺構及び遺物包含層が良好な状態で残されていることが確認されたことから、本館部分については本調査を実施し、記録保存などの保護措置を行う必要があるが、建物等によりすでに破壊を受けたり、遺物包含層および文化層に対応する層が残されていても、遺物・遺構を含まない箇所もあることから、その部分は除外して約170㎡の本調査対象範囲を設定することとした。



第1図 甲府地方検察庁新営庁舎建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図（本館地点）



立会調査第1地点 調査風景



第1 トレンチ土層堆積状況



立会調査第3地点土層確認状況



第2 トレンチ全景（北から）

30 法務省甲府法務総合庁舎建設事業 試掘 《甲府城下町遺跡》

所在地	甲府市中央1丁目11番8号地内	調査期間	平成23年8月10日
担当者	山本茂樹	調査面積	36㎡

調査経緯及び事業内容

本館部分の発掘調査については、あらかじめ遺構の範囲、遺構の有無などを確認するために試掘調査を7月25、26日に実施した。その結果、本館部分の640㎡の内、170㎡が発掘調査対象面積で、調査期間が短縮されたことなどを報告した。

この報告を受けた甲府地方検察庁から、本館建設工事に付帯する車庫及びクールヒートチューブダクト工事の前倒しの申し出があり、本館の北側に隣接する駐車場部分も本調査と一緒に実施してもらいたいとの要望があったことにより、8月1日に協議がもたれた。

協議の内容については、隣接地において遺構の内容が不十分なため、8月10日ないし11日に試掘調査を実施して内容を明らかにし、遺構の範囲を確定することにより9月内の本調査で本館部分と合わせて実施が可能かどうか判断して決めることとした。

調査区設定については、施工業者である大成建設株式会社のご協力を得ながら、本館北側に隣接する駐車場に試掘溝を設定し調査を実施した。試掘溝の規模は、長さ15m、幅2.40mで、土層堆積状況を把握するために一部を最大深度1.70mまで掘削を行った。

試掘調査は、H22年度の本調査及びH23年度に実施した試掘調査を基本とした。

遺構確認面は攪乱層の下の茶褐色土層とし、この茶褐色土層は、江戸時代の生活面であることから、この層で遺構を確認するとともに遺物の確認も行った。

試掘調査の結果

遺構確認面である茶褐色土層は、甲府空襲の焼土と炭化層、本館に伴う下水道などにより攪乱を受けていたことが明らかにされた。このため、江戸時代の確認面の層は、部分的に0.34mの厚さで残されてはいるものの、全体として層の厚みは少なかった。

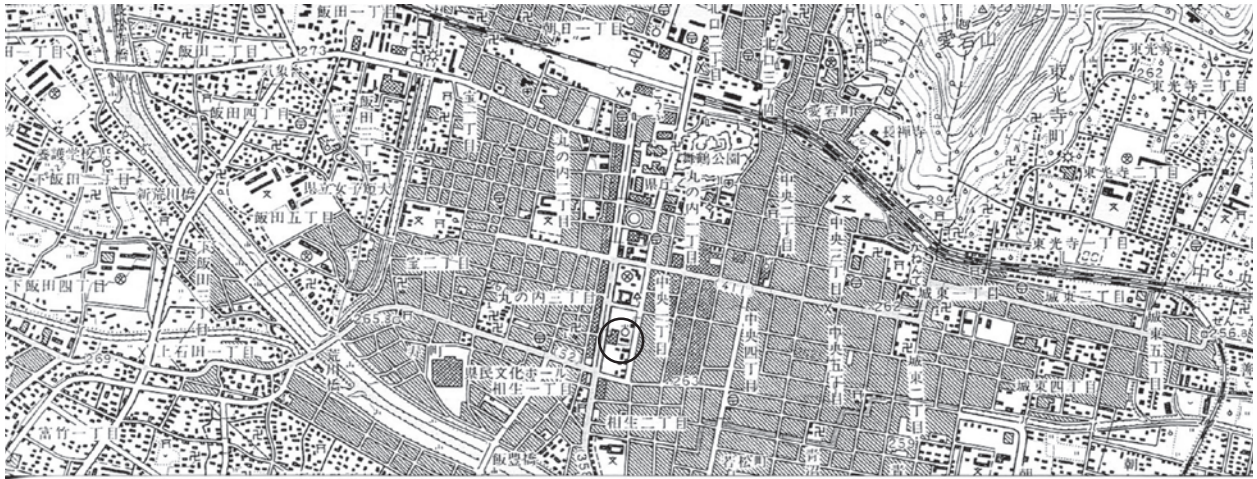
このため、細長く設定した試掘溝では、部分的に深く掘削を入れて下層の状況の把握にも努めた。

堆積状況は、1層：攪乱層（約65cm）、2層：茶褐色土層（約35cm）、3層：暗褐色粘質土（シルト層約30cm）、4層：暗褐色粘質土（3層より粘性が強い約45cm）である。

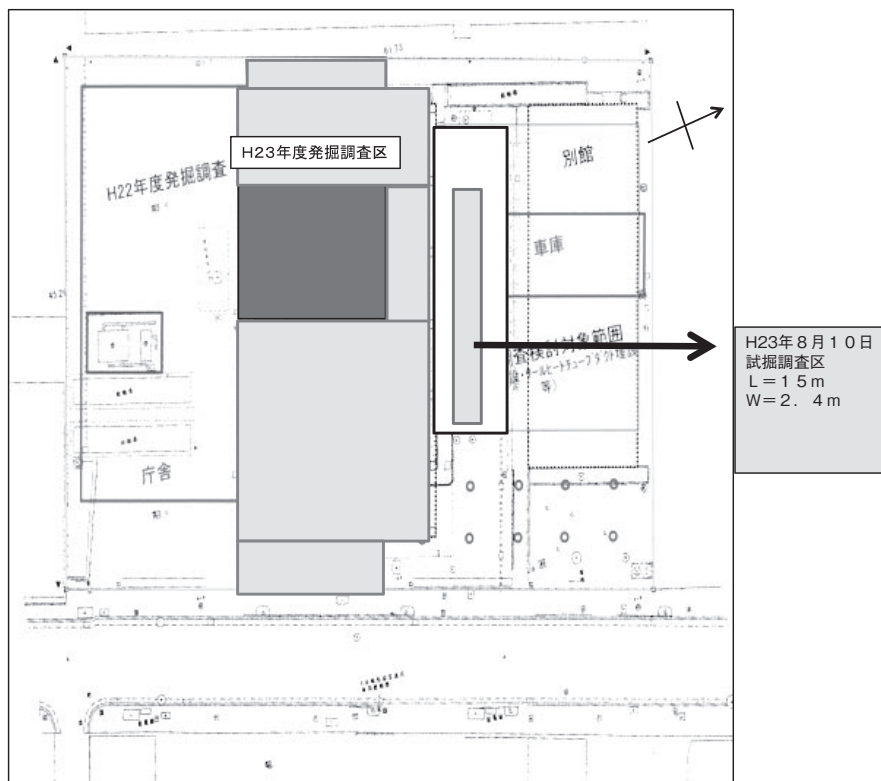
昨年度確認された茶褐色土層の下には黒褐色土層が堆積し、更にその下層には暗茶褐色土層が堆積し、この暗茶褐色土層で中世の土坑が確認されているが、今回の試掘調査では茶褐色土層より下の層は確認されなかった。

このことから、江戸時代の確認面である第2層目の茶褐色土層で遺構や遺物は確認されなかったこと、茶褐色土層より下層についても遺構及び遺物は確認されなかったこと、また、江戸時代以前に存在していたと思われる黒褐色土層及びその下層の暗茶褐色土層が堆積していなかったことなどから、本調査の必要はないものと判断される。

なお、別館については、平成25年度に建物および基礎撤去が実施される予定のため、基礎撤去時に立ち合いを実施し、工事内容によっては試掘調査を行う必要がある。



第1図 甲府法務総合庁舎建設事業位置図



第2図 試掘調査位置図



試掘調査状況写真 (左：西側から撮影)



(右：東側から撮影)

31 境川廃棄物最終処分場（仮称）建設事業 試掘（笛吹市境川町地内）

所在地	笛吹市境川町寺尾地内	調査期間	平成23年2月7日～10日、14日
担当者	保坂和博	調査面積	165㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、笛吹市境川町寺尾地内に計画されている次期廃棄物最終処分場建設事業である。この地点は隣接する中間処理施設事業エリアでの笛吹市教育委員会の試掘調査により遺跡が確認されていることから、平成22年12月26日の現地協議に基づき、現時点で試掘調査の可能な範囲における試掘調査の計画を立て、事業地における埋蔵文化財の有無や存在した場合の発掘調査計画作成のための基礎データを収集するために実施した。

今回の試掘調査では、対象地内の稀少植物やオオタカに影響を及ぼさない範囲において、長さ約6m、幅約1.5m、深さ約1m前後のトレンチ（試掘溝）を設定し、遺構確認と土層観察を行った。

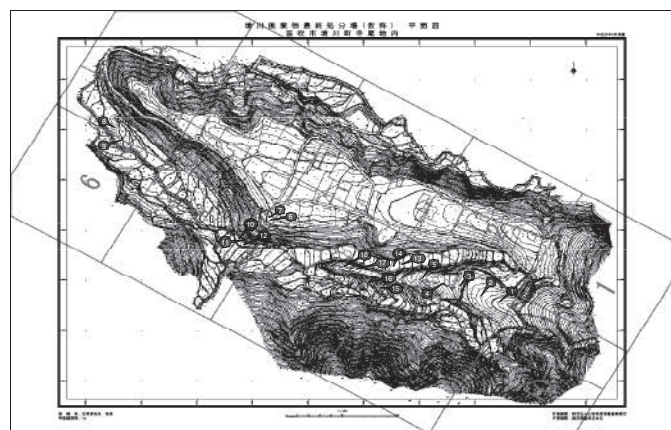
各地点の土層堆積状況は、丘陵地（1T～7T、15T～18T）と低地（8T～14T）で異なるがいずれも基本的に第1層（表土層）以下は自然堆積層となり、丘陵地（1T～7T）は褐色土層、褐色土層、褐色土層、明黄褐色土層、黄褐色土層、低地（8T～14T）は灰黄褐色粘質土層、黒褐色粘質土層、暗オリーブ褐色粘質土層、灰色粘質土層、灰オリーブ粘質土層、丘陵地（15T～18T）は褐色土層、黒褐色土層、黄褐色粘質土層が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、今回の試掘調査地点では工事を進めても差し支えない旨を報告した。

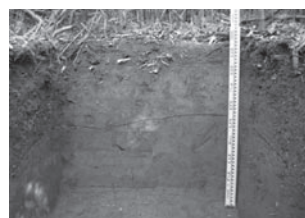
なお、今後試掘調査を行う必要がある地点は事業課との協議の上、平成23年度以降に実施することとなる。



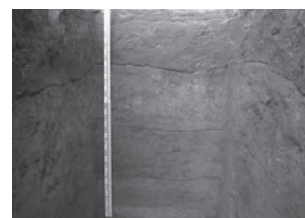
第1図 境川廃棄物最終処分場（仮称）建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



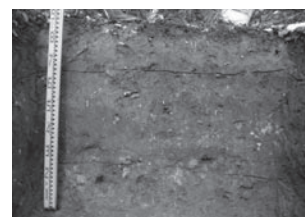
3T土層堆積状況



7T土層堆積状況



14T土層堆積状況



15T土層堆積状況

32 環境創造課の県政課題に係る調査 試掘 《東峰A遺跡及び東峰C遺跡》

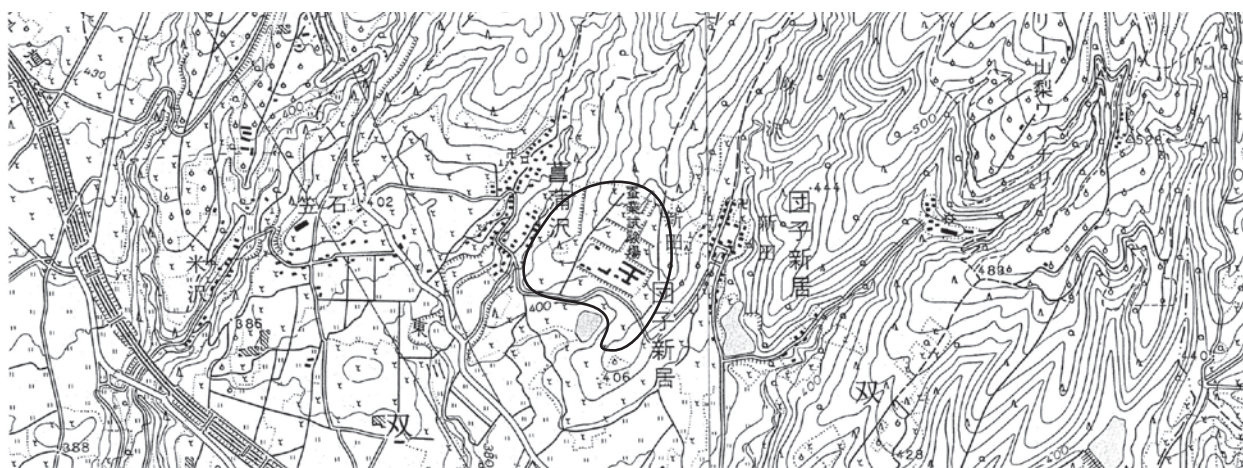
所在地	甲斐市菖蒲沢1700外地内	調査期間	平成23年6月27日～7月14日
担当者	保坂和博	調査面積	850㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、太陽光発電建設事業に伴う埋蔵文化財の試掘調査である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である東峰A遺跡及び東峰C遺跡の範囲内に当たることから、平成23年6月15日に実施した事前協議に基づき、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、長さ約10m、幅約1.2mのトレンチ（試掘溝）を71箇所（1T～71T）設定し、遺構確認と土層観察を行った。各地点における土層堆積状況は、基本的に第1層（表土）、第2層（にぶい黄褐色土）、第3層（にぶい褐色粘質土）、4層（褐色粘質土＋礫群）の層順が確認された。

試掘調査の結果、A地点及びB地点において縄文時代の遺物（土器片）及び遺構（ピットなど）などが検出されたことによって、これまで想定されていた東峰C遺跡の範囲がさらに西側に広がることが判明したため、遺跡の範囲を追加変更し、さらに新たに発見され小林A遺跡を埋蔵文化財包蔵地として登録を行った。以上のことから、A地点及びB地点においては、工事着手前に埋蔵文化財の保護に努める必要がある旨を報告した。保護対象の面積及び遺構確認面までの深さは、A地点約3,700㎡、深さ約15cm、B地点約3,100㎡、深さ約20cmとなる。



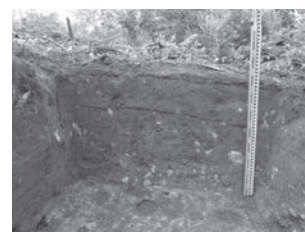
第1図 環境創造課の県政課題に係る調査位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



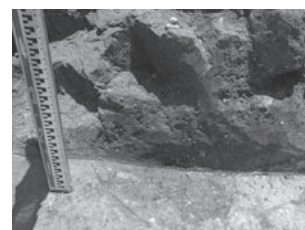
35T土層堆積状況



42T土層堆積状況



A地点51T遺物出土状況



B地点67Tピット検出状況

33 環境創造課の県政課題に係る調査 試掘 《御勅使川第二将棋頭遺跡》

所在地	韮崎市竜岡町下条南割地内	調査期間	平成23年7月12日～13日
担当者	山本茂樹	調査面積	73㎡

調査経緯及び事業内容と結果

環境創造課の県政課題にかかる韮崎市竜岡町の事前協議

6月8日午後、学術文化財課と埋蔵文化財センターの担当が現地を確認。

6月15日に環境創造課、学術文化財課、埋蔵文化財センターによる取扱の協議がもたれ、7月中に試掘調査を実施することとなった。調査の内容は、堤防から川表にかけて堤防の基礎及び石垣に伴う遺構の確認である。なお、竜岡町に所在する「将棋頭」は国史跡であるため、史跡外の場所について試掘調査を実施することとした。

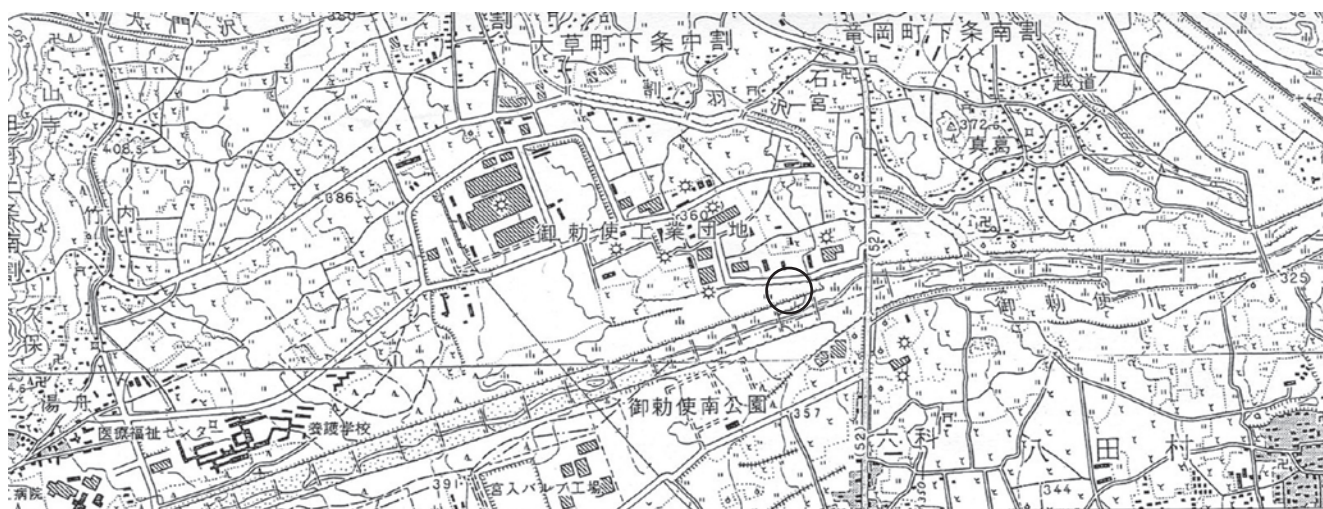
調査の結果

試掘溝の設定については、第3図のとおりである。1地点の試掘溝は、幅3.0m、長さ8.85mで掘削の最大深度は1.52mである。また、2地点の試掘溝は、幅4.0m、長さ11.55mで掘削の最大深度は3.0mである。

1地点では、堤防の天端から水平方向に2.30m、下方向に2.20mの地点で幅0.45mの段を、さらに水平方向に2.8m、下方向へ2.87mの地点で石垣の基礎を確認した。また、この基礎に直行する形で、6本の木材が20～30cmの間隔で並べられている状況を確認した。木材の直径は約5cm、最大長さは1.30mである。木材から川側へ長さ約2m、深さ約1.3mの掘削を行ったが堤防関連の遺構は確認されなかった。

2地点では1地点のような中間の段差は認められず、堤防の天端から水平方向へ8.55m、下方向へ7.0m、傾斜角度は約40度の規模で石垣を確認した。また、石垣の基礎下には木材が石垣に並行する形で敷かれており、1地点とは異なった方法で構築されていることを確認した。石垣の基礎から川側へ長さ約3.0m、深さ約3.0mの掘削を行ったが遺構は確認されなかった。

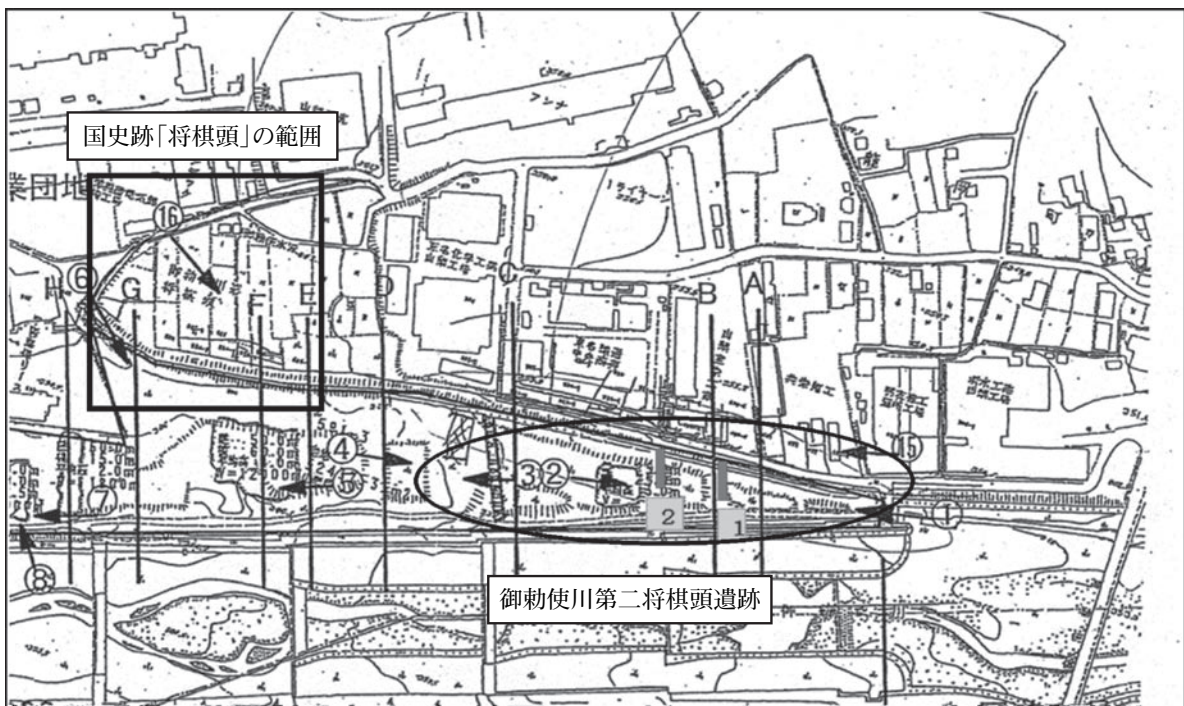
以上のことから、堤防の天端から約10mまでは、堤防の施設が存在していることが確認されており、堤防遺跡を保護するために5mの安全地帯を設定し、天端から15mまでの間については、土地の改変を実施しないこととした。



第1図 第二将棋頭遺跡試掘位置図



第2図 将棋頭及び御勅使川第二将棋頭遺跡



第3図 将棋頭及び御勅使川第二将棋頭遺跡試掘位置図



第2地点の石垣の状況写真

34 元吉田保健所解体事業 試掘 《吉田宿》

所在地	富士吉田市上吉田字古吉田848番地1地内	調査期間	平成23年7月25日～26日
担当者	保坂和博	調査面積	60㎡

調査経緯及び事業内容と結果

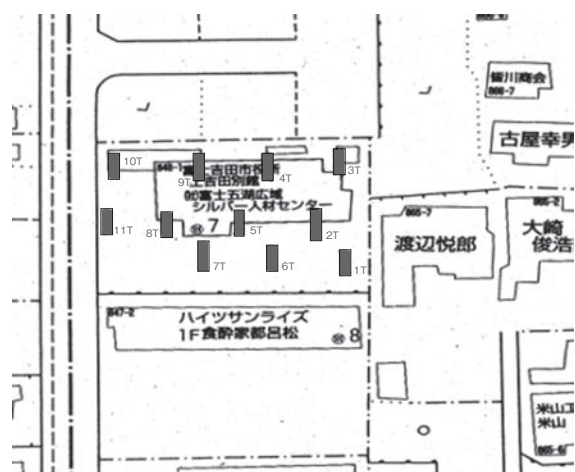
元吉田保健所跡地の利用に対する埋蔵文化財への対応は、周知の埋蔵文化財包蔵地である吉田宿（中世の宿・町場）の範囲に位置することから、平成23年6月1日の現地協議に基づき、試掘溝（トレンチ）を長さ約5～6m、幅1m、深さ1～1.7mの規模で11箇所（1T～11T）設定し、遺構確認と土層観察を行った。

本地点の基本土層は、第1層（碎石層：表土層）、第2層（黒褐色土層）、第3層（暗赤褐色土層）、第4層（暗褐色土層）、第5層（黒色砂層）、第6-1層（黒褐色シルト層）、第6-2層（黒褐色シルト層）、第6-3層（黒色砂層）、第7層（黒褐色シルト層）、第8層（黒色砂層）、第9層（黒褐色砂層）、第10層（黒色シルト層）となり、第5層～第8層は砂地を主体とし、第9層～第10層は火山灰層となる。第10層については、市域のこれまでの調査成果から大室スコリア（縄文時代晩期）と想定された。

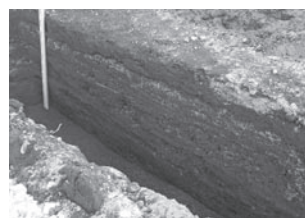
試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。なお、本地域については富士山北麓の出来事を記した『勝山記（妙法寺記）』などに富士山の雪代による甚大な被害を蒙った様子が記され、吉田宿の元亀3年（1572）の「新宿（現在の上吉田）」の移転・成立もその災害を避けるためと言われており、今回確認された第5層～第8層は、この雪代による土石流と推定され、その粒径は雪代川（間堀川）に近いトレンチ側（10T～11T）が粗くなる状況が確認され、新たな雪代に関わるデータを得ることとなった。



第1図 元吉田保健所解体事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



第1号トレンチ土層堆積状況



第4号トレンチ土層堆積状況



第7号トレンチ土層堆積状況



第11号トレンチ土層堆積状況

35 職業能力開発施設建設事業 試掘 (都留市上谷地内)

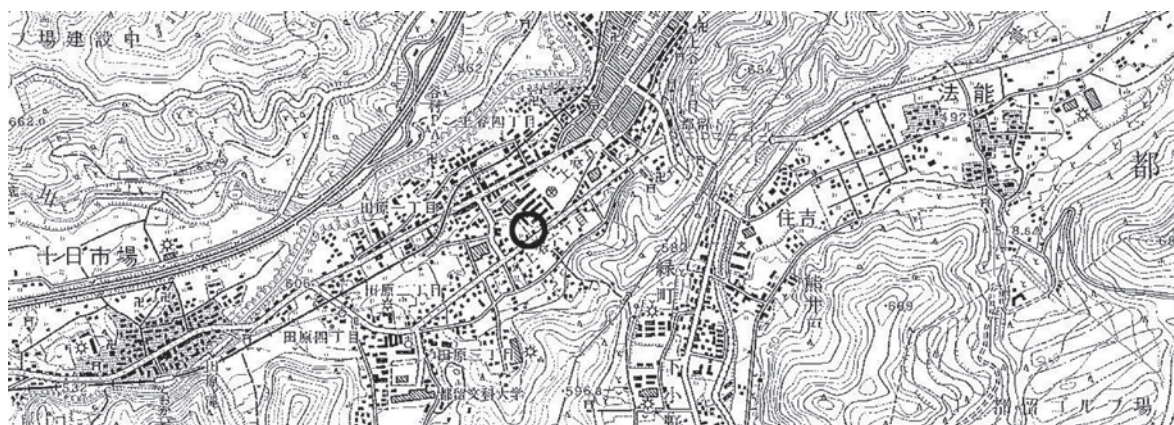
所在地	都留市上谷5丁目地内	調査期間	平成23年7月1日、10月1日
担当者	依田幸浩・青木真一	調査面積	40.5㎡

調査経緯及び事業内容と結果

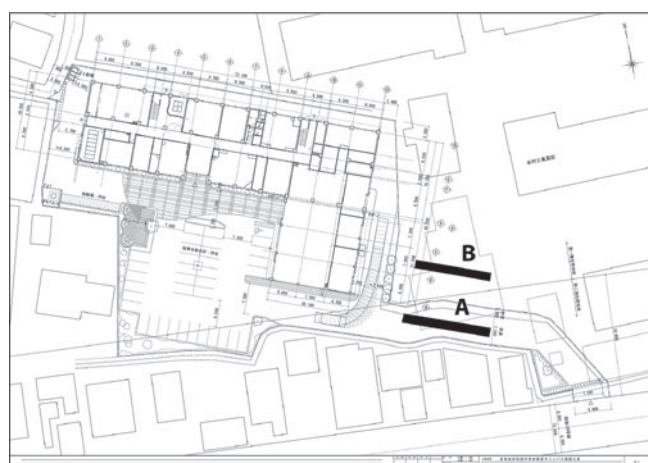
調査地点は、事業予定地内における道路建設地点（A地点）と道路建設に伴う谷村工業高校のトレーニングセンター移設地点で（B地点）、谷村工業高校の校舎よりも1mほど一段高い場所である。周知の遺跡である三ノ側遺跡（奈良・平安時代）に隣接しているため、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、長さ約12～15m、幅約1.5m、深さ約1～1.2mのトレンチ（試掘溝）2本を設定し、重機による掘削後、人力による平面・断面の観察を行った。

調査の結果、地表から約0.6m～1.1mの深さまで旧学校施設（铸造実験室）の基礎もしくは瓦礫が堆積しており、その下層は、30cm前後の溶岩を非常に多く含む褐色土であった。遺構・遺物は一切確認されなかったため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。



第1図 職業能力開発施設建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



A地点トレンチ掘削状況



B地点トレンチ掘削状況

36 山梨県消防学校整備事業 試掘 《堤防遺跡推定地》

所在地	中央市今福1029-1地内	調査期間	平成23年1月26日
担当者	保坂和博	調査面積	14.5㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、山梨県消防学校整備事業に伴う試掘調査である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である堤防遺跡推定地の範囲内に当たることから、平成23年1月19日に実施した現地協議に基づき、堤防遺跡推定地にかかる地点を対象にトレンチ（試掘溝）を3箇所（1T～3T）設定し、試掘調査を実施した。

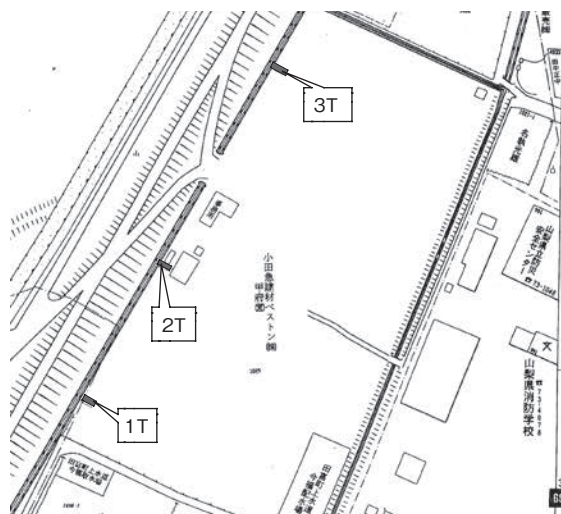
今回の試掘調査では、1T（長さ約4.0m、幅約1m、深さ約1.5m）、2T（長さ約5.5m、幅約1m、深さ約1.5m）、3T（長さ約5.0m、幅約1m、深さ約1.2m）において遺構確認と土層観察を行った。

各地点における土層堆積状況は、基本的に同様であり、第1層（盛土層）、第2層（旧表土層：暗灰黄色シルト層：2.5Y4/2）以下は、釜無川による自然堆積層（河川堆積層）となり、第3層（黒褐色シルト層：2.5Y3/1＋暗灰黄色砂層：2.5Y5/2＋小礫層）、第4層（黒褐色シルト層：2.5Y3/1）、第5層（暗オリーブ灰色砂層：5GY4/1）、第6層（黒褐色シルト層：2.5Y3/1）、第7層（暗オリーブ灰砂層：2.5GY4/1）の層順が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。



第1図 山梨県消防学校整備事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



調査前 (1T周辺)



1T土層堆積状況



2T土層堆積状況



3T土層堆積状況

37 県立産業技術短期大学都留キャンパス建設事業 試掘《三ノ側遺跡》

所在地	都留市上谷5丁目地内	調査期間	平成23年5月23日、25日～27日、31日
担当者	依田幸浩・青木真一	調査面積	340㎡

調査経緯及び事業内容と結果

事業予定地は、県立谷村工業高等学校の西側に隣接する水田部分である。予定地の一部が周知の埋蔵文化財包蔵地である三ノ側遺跡の範囲にかかっているため、範囲外の部分も含め予定地全体を対象に埋蔵文化財を確認するための試掘調査を実施した。

三ノ側遺跡は、今回の調査地点の西側にあるスーパーマーケット建設に伴って昭和56（1981）年に都留市教育委員会によって発掘調査が行われ、奈良・平安時代の住居跡5軒が検出され、皇朝十二銭の「和同開珎」や「富寿神宝」などが発見された。

今回の試掘調査では、長さ約18.5～28m、幅1.2～1.5m、深さ約0.5～4.0m（最深部）のトレンチ（試掘溝）を11本設定し、重機による掘削後、人力による平面・断面の観察を行った。

調査の結果、事業予定地の北東側に設定した1・2号トレンチを除く3～11号トレンチの地表から深さ約0.2～1.8m、厚さ約0.2～0.8mで堆積している黒褐色粘土層（基本層序第3層）において、奈良・平安時代（8・9世紀）の土器片が出土し、さらに、4・5・10号トレンチからは同時期の竪穴住居跡や土坑、3・6～8・11号トレンチからは土坑を検出した。5号トレンチでは、竪穴住居跡のカマド部分がトレンチの北側壁面にかかっていたため、カマド部分から焼土とともに甕の破片が多く出土した。

また、第3層の上層に堆積している第2層およびその間に入る黒褐色土層から掘り込まれた土坑または溝状の掘り込みを3・4・7・8号トレンチで確認したが、遺物を伴わないため性質や時期は不明である。

各トレンチはほぼ同様の堆積状況を示しているが、各土層の堆積する厚さが地点によって異なっている。このことから、事業予定地の旧地形は南側から北側、西側から東側に傾斜していたと考えられる。

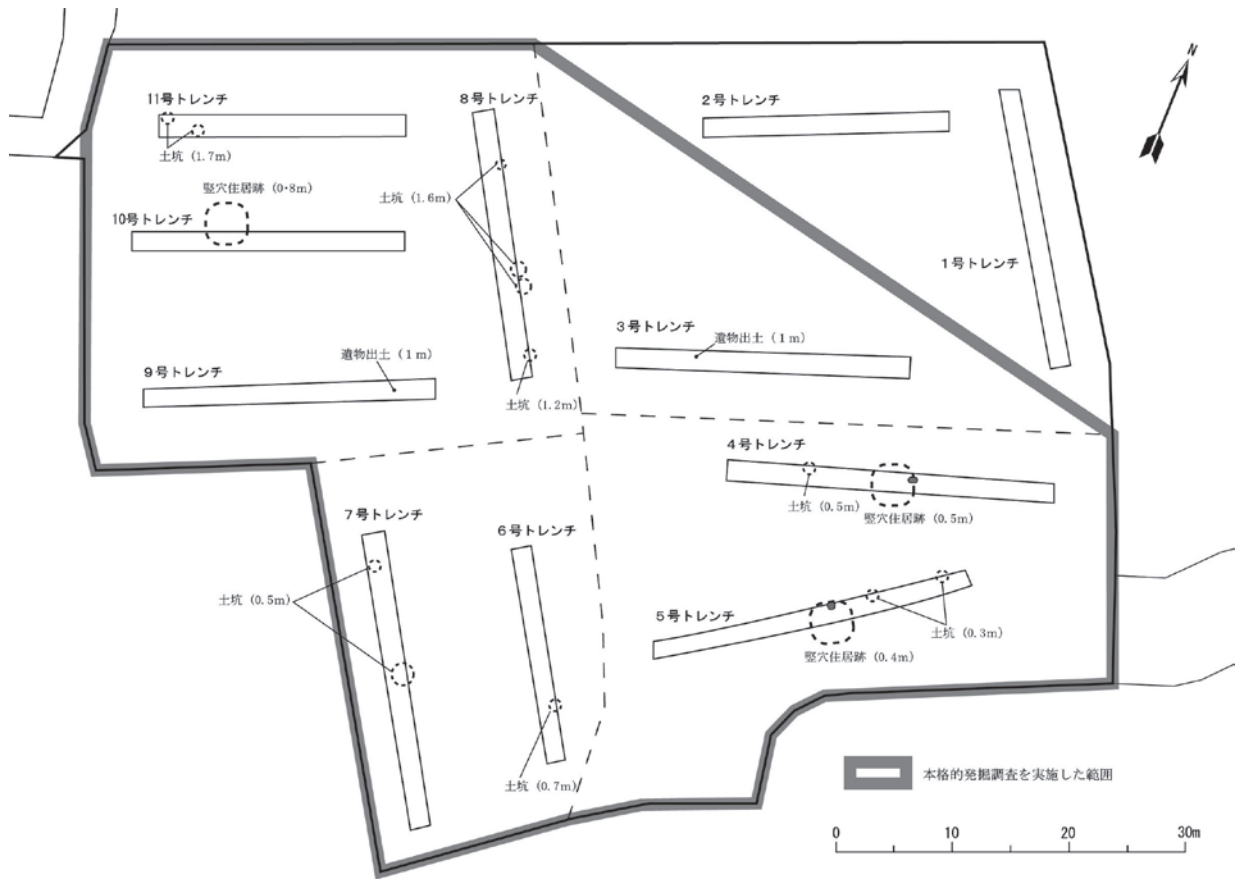
各トレンチでは、溶岩ブロックおよび溶岩の岩盤（約8,500年前の猿橋溶岩）が確認される深さまで掘削していることから、今回調査を実施した深さより下層に埋蔵文化財が存在する可能性は極めて低いと考えられる。

試掘調査の結果、事業予定地の北東側（1・2号トレンチ周辺）を除いて遺構・遺物が存在することが確認された。奈良・平安時代（8・9世紀）の遺物（土器片・鉄製品）とともに竪穴住居跡3軒・土坑12基が検出されたことによって、これまで想定されていた三ノ側遺跡の範囲がさらに東側に広がることが判明したため、遺跡の範囲を追加変更し、本格的発掘調査を実施した。

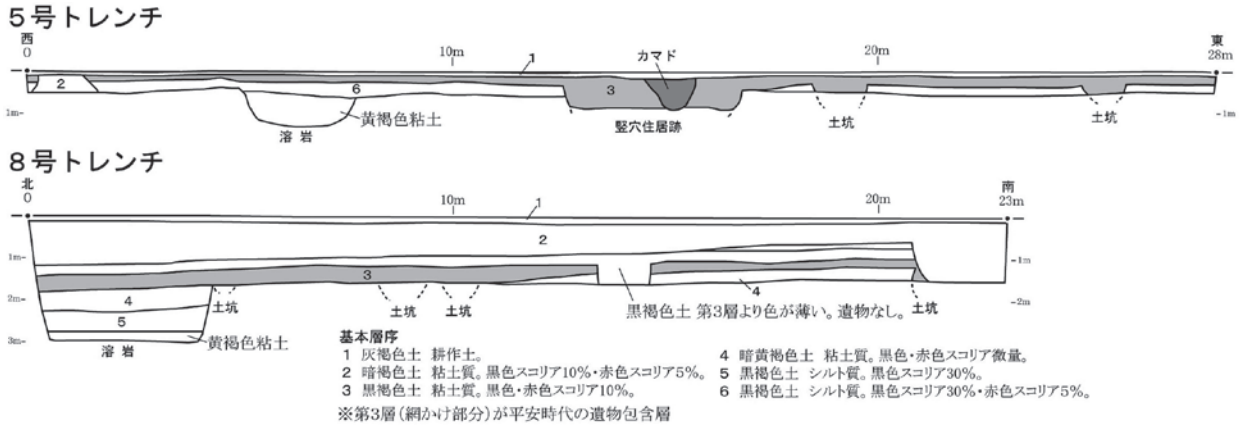
本格的発掘調査は、事業予定地の1・2号トレンチ周辺を除く約3,800㎡の範囲で、平成23年6月29日から12月26日まで実施した。



第1図 県立産業技術短期大学都留キャンパス建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



第3図 5・8号トレンチ土層断面図



5号トレンチ住居跡検出状況



8号トレンチ土坑検出状況

38 山梨園芸高等学校駐車場建設事業 試掘 《狐原遺跡》

所在地	笛吹市石和町中川字六角1230番地内	調査期間	平成23年2月23日
担当者	山本茂樹	調査面積	42㎡

調査経緯及び事業内容と結果

山梨園芸高校の校舎西側に位置する創造館の敷地内に駐車場を建設するため、平成23年2月3日現地にて事業者と学術文化財課を交え試掘調査について協議がもたれた。内容は、当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地である「狐原遺跡」内であること、予定地内の埋設物について、試掘調査時期などについてである。

1)遺跡の深さについて、2)遺構の種別、数量についての確認を行うことを目的として実施した。

1)遺跡の深さについては、地形が東から西へ傾斜していることにより、予定地内に長さ約8m、幅約1mの試掘溝を東西方向に設定し掘削を行った。試掘溝の西側では深さ0.5mで礫が混入した攪乱層が確認されたが、この深さで試掘溝の掘削を行ったところ、第3層で小破片の土器が13点確認された。精査を行ったが遺構の範囲が不明であったため、溝を左右に広げて確認作業を行った。

また、下層の状況を把握するために、更に試掘溝を0.2m掘削したところビニール製の紐が見つかり、3層までは攪乱を受けていることが明らかになった。試掘溝の東では3層より下で砂層が確認されたことにより、西側についても砂層まで掘削を行い0.60mで層が確認された。

このことにより、試掘溝内で砂層まで掘削を行ったところ、砂層を掘り込んで遺構が形成されていることが明らかにされた。現地表から遺構確認面までの深さは、西側では0.6m、中央付近では0.75mで、確認面は砂層上面である。

2)遺構の種別、数量については、住居跡2軒(平安時代)と西側端の竪穴状遺構そして溝2条である。住居跡の規模は、3m～4mと考えられ、北側ではカマドと思われる粘土が一部ではあるが確認された。

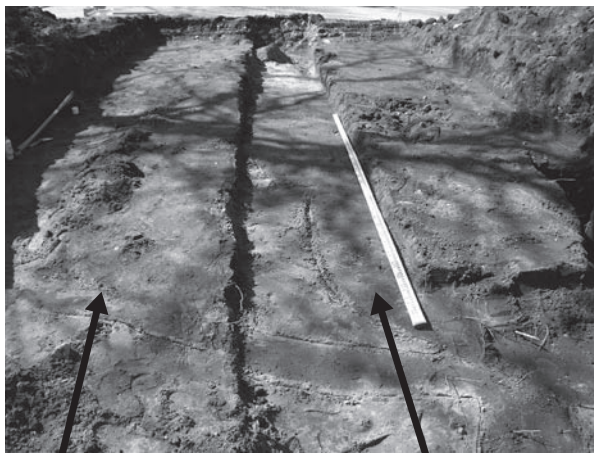
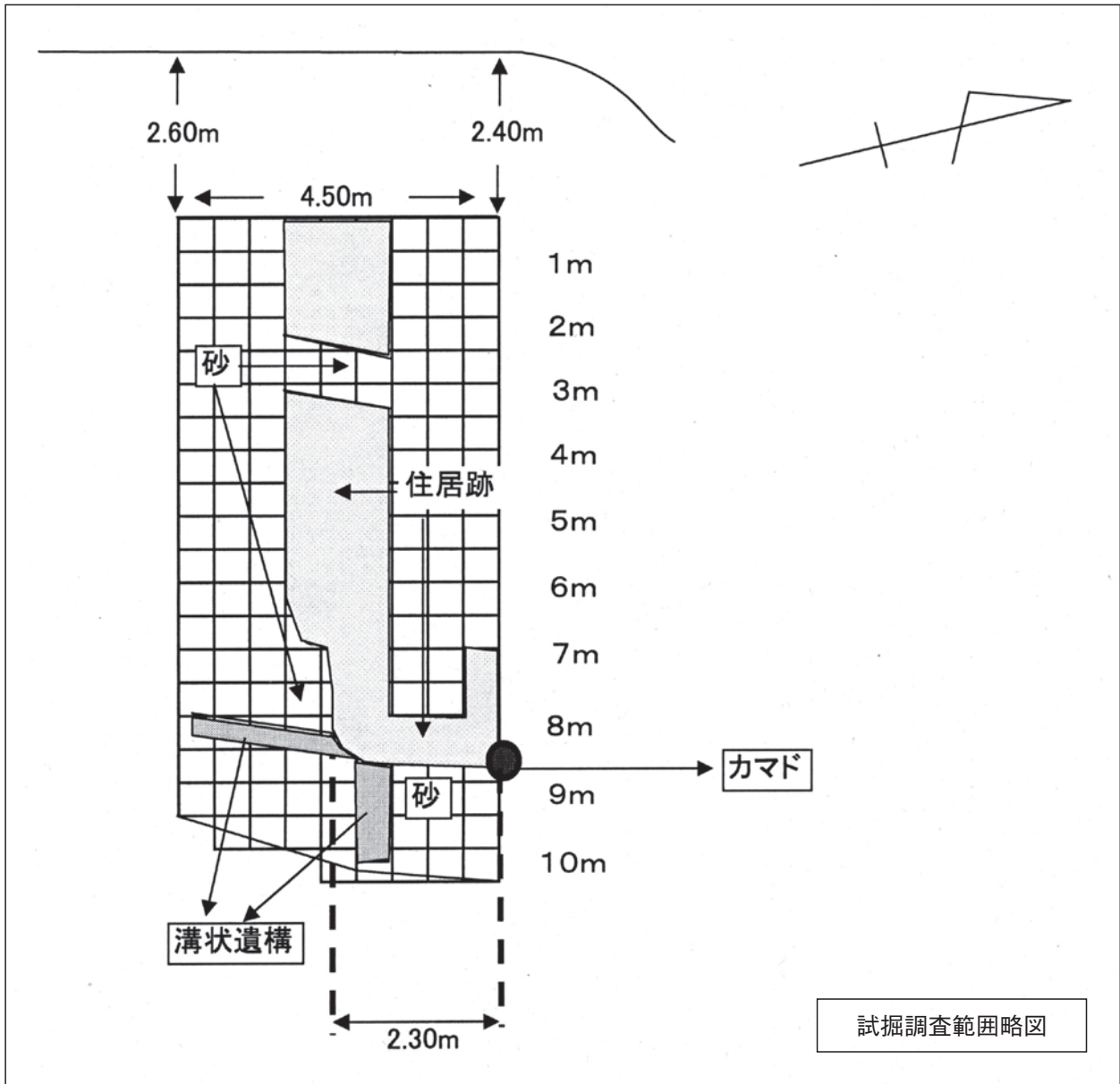
調査の結果

現地表下0.75mで2軒の住居跡や2本の溝、竪穴状遺構などが確認されるとともに、土器片は掘削土中の1点を含めると総計14点が出土した。

よって、山梨県教育委員会埋蔵文化財事務取扱要項 第6条により、30cm以上の保護層を確保できない工事設計の場合には、発掘調査の必要がある。また、周囲での掘削を伴う工事については、その内容により試掘調査または工事立会を実施する必要がある。



第1図 山梨園芸高校駐車場建設事業位置図



溝跡

住居跡

東から西へ撮影



カマドと思われる粘土が確認された
土層堆積状況

39 県立かえで支援学校（エレベーター棟増築等）建設事業 試掘《狐原遺跡》

所在地	笛吹市石和町中川1400地内	調査期間	平成23年8月29日
担当者	保坂和博	調査面積	10㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、かえで支援学校建設事業に伴うエレベーター及びガスバルクを設置する工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である狐原遺跡の範囲内に当たることから、平成23年7月19日に実施した現地協議に基づき、試掘溝（トレンチ）を3箇所設定し、試掘調査を実施した。今回の試掘調査では、第1号トレンチ（長さ約3.2m、幅約1.0m、深さ約1.5m）、第2号トレンチ（長さ約4.0m、幅約1.0m、深さ約1.1m）、第3号トレンチ（長さ約3.0m、幅約1.0m、深さ約0.8m）において遺構確認と土層観察を行った。

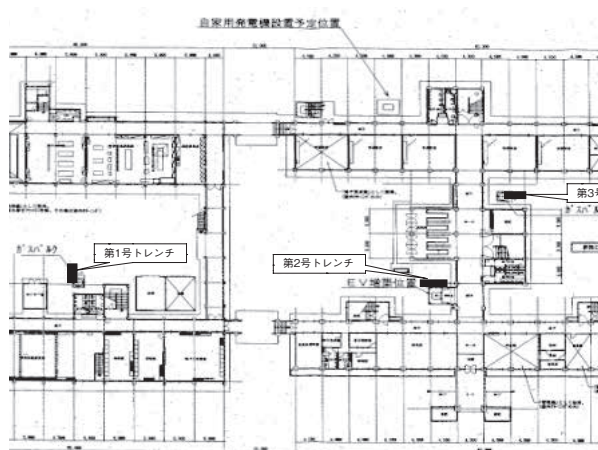
土層堆積状況は、各地点ともに金川による自然堆積層（河川堆積層）が確認されている。第1号トレンチでは地表下約1.5mで砂礫層（第11層）が確認され、第2～3号トレンチでは同層を地表下約0.3mで確認しており、金川から離れた第1号トレンチで砂礫層（第11層）の上層において比較的安定した土壌（第7層～第10層：シルト層主体）堆積が確認されている。

試掘調査の結果、いずれのトレンチからも遺構は確認されていないが、第1号トレンチ第6層と第9層から平安時代の土師質土器片が出土している。土層堆積及び遺物出土の状況から、第6層は流れ込みの遺物と考えられるが、第9層は、平安時代の文化層（生活面）と判断された。

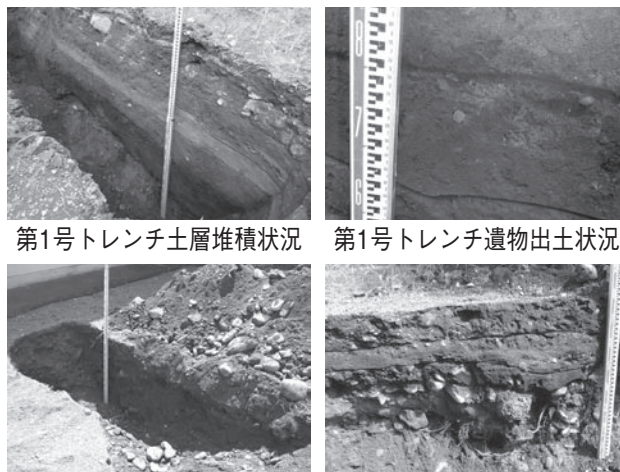
以上のことから、当該埋蔵文化財包蔵地内で、土木工事を行う場合には、事前に埋蔵文化財の適切な保存措置（保護層の確保）を行う必要がある旨の報告をした。



第1図 県立かえで支援学校（エレベーター棟増築等）建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



第1号トレンチ土層堆積状況

第1号トレンチ遺物出土状況

第2号トレンチ土層堆積状況

第3号トレンチ土層堆積状況

40 東部地域総合制高校建設事業 試掘 (都留市上谷地内)

所在地	都留市上谷5-7-1地内	調査期間	平成23年12月1日～9日
担当者	保坂和博	調査面積	84㎡

調査経緯及び事業内容と結果

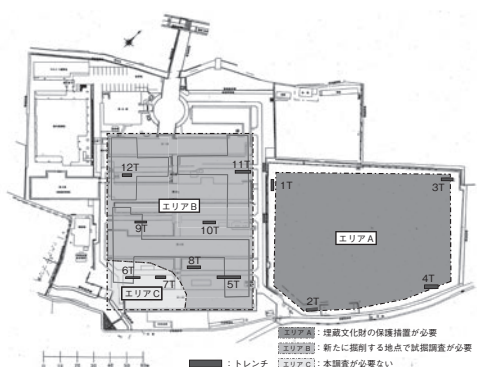
本事業は、東部地域総合制高校建設事業に伴う県立谷村工業高等学校の敷地内における埋蔵文化財の試掘調査である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である三ノ側遺跡(奈良・平安時代)に隣接し、また平成23年5月から県立産業技術短期大学都留キャンパス建設事業に伴う本調査(以下、都留キャンパス調査)も行われていることから、平成23年11月8日に実施した事前協議に基づき、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、長さ約3～13m、幅約1.3m、深さ約1.0～3.2m(最深部)のトレンチ(試掘溝)を12箇所(1T～12T)設定し、重機による掘削後、人力による遺構確認と土層観察を行った。

試掘調査の結果、仮設校舎建設予定地(グランド部分:1T～4T)では、都留キャンパス調査で確認されている遺物包含層(発掘3層)や遺構確認面(発掘4層～発掘6層)を検出し、かつ4Tから奈良・平安時代の土器片が出土していることから、1T～4Tエリア周辺(エリアA)で仮設校舎を建設するに当たっては、埋蔵文化財の保護措置が必要と判断される。本校舎建設予定地の5T・8T～12Tでは、遺構及び遺物の発見には至らなかったが、遺物包含層(発掘3層)や遺構確認面(発掘4層～発掘6層)が確認されていることから、遺跡が存在する可能性が示唆される。このため、5T・8T～12T周辺エリア(エリアB)で既存校舎部分を除き新たに掘削行為を行う地点については、事前に試掘調査を行い、その結果を踏まえて協議を行う必要があるものと判断される。なお、6T～7Tでは、旧学校建物の基礎や埋土層の下層に溶岩ブロック及び溶岩の岩盤(約8,500年前の猿橋溶岩)が確認されていることから、6T～7T周辺エリア(エリアC)では、埋蔵文化財が存在する可能性は極めて低いと考えられ、本調査の必要はないと判断される。



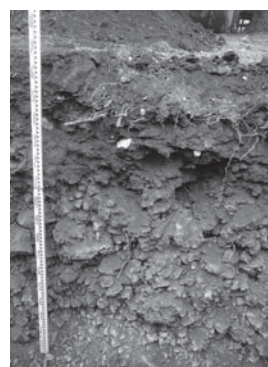
第1図 東部地域総合制高校建設事業位置図



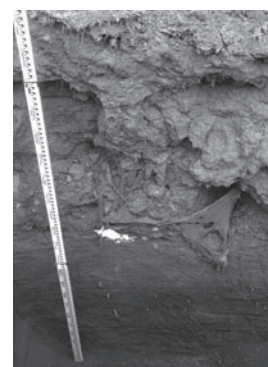
第2図 試掘トレンチ配置図



4T遺物出土状況



6T溶岩検出状況



9T土層堆積状況

41 大野堤防改修事業 試掘 《堤防遺跡推定地》

所在地	身延町大野地内	調査期間	平成23年12月19日～22日
担当者	保坂和博	調査面積	142㎡

調査経緯及び事業内容と結果

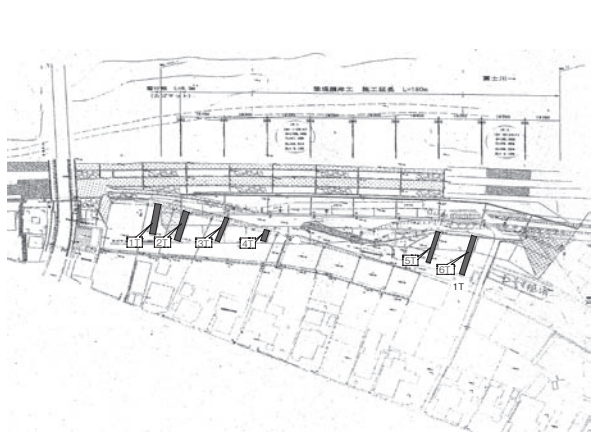
本事業は、富士川流域の大野堤防の築堤護岸工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である堤防遺跡推定地の範囲にあたることから、平成23年11月30日に実施した現地協議に基づき、試掘調査を実施した。今回の試掘調査では、現堤防に直行する形で長さ約6～21m、幅約1.5m、深さ約0.8～2.0mのトレンチ（試掘溝）を6箇所（1T～6T）設定し、重機による掘削後、人力による遺構確認と土層観察を行った。

試掘調査の結果、上流側に設定した1T～4Tの現堤防脇の平坦面では、地表下75cm前後までは水田の耕作土や床土と整地（客土）層が堆積するが、その下層は氾濫によるシルト層・砂層・砂礫層となり、流れ込みと考えられる遺物の外は遺構・遺物とも確認することはできなかった。また、3Tと4Tでは現堤防の川裏側の背後土を掘下げたところ石積みが確認され、当初は旧大野堤防の石積みと思われたが、事業者を確認したところ昭和34年の災害で洗掘され、翌35年に完成した新堤防の石積みであることが判明した。下流側に設定した5Tと6Tの現堤防脇の平坦面では、地表下30cm前後までは水田の耕作土や床土が堆積するが、その下層は粘質土層や氾濫による砂層・砂礫層となり、流れ込みと考えられる遺物の外は、遺構・遺物とも確認することはできなかった。

以上のことから、現堤防脇の平坦面では遺跡はないと考えられ、本調査の必要はないと判断されるが、現堤防部分については、旧堤防が遺存する可能性があるため掘削する際に立会調査を行う必要がある旨を報告した。



第1図 大野堤防改修設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



1T完掘状況



3T堤防検出状況



4T堤防検出状況



5T土層堆積状況

42 森林公園金川の森再整備事業 試掘 《宮の上遺跡》

所在地	笛吹市一宮町大字坪井1888-2外地内	調査期間	平成23年1月11日
担当者	保坂和博	調査面積	18㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、森林公園金川の森再整備事業に伴う駐車場進入路及び園路を設置する工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である宮の上遺跡の範囲内に当たることから、平成22年12月20日に実施した現地協議に基づき、トレンチ（試掘溝）4箇所を設定し、試掘調査を実施した。

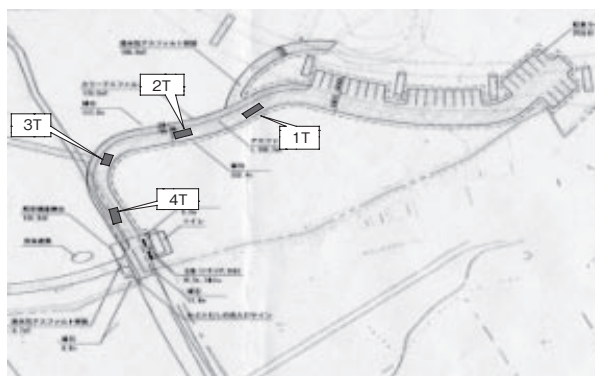
今回の試掘調査では、第1号トレンチ（長さ約5.0m、幅約1.0m、深さ約1.0m）、第2号トレンチ（長さ約5.0m、幅約1.0m、深さ約1.0m）、第3号トレンチ（長さ約3.0m、幅約1.0m、深さ約1.0m）、第4号トレンチ（長さ約5.0m、幅約1.0m、深さ約1.0m）、において遺構確認と土層観察を行った。

各地点における土層堆積状況は、基本的に同様であり、第1層（表土層）、第2層（盛土層：碎石層）以下は、金川による自然堆積層（河川堆積層）となり、第3層（にぶい黄褐色砂礫層：10YR4/3）、第4層（オリーブ褐色砂層：2.5Y4/3）、第5層（暗褐色砂質土層：10YR3/3）、第6層（暗褐色砂礫層：10YR3/4）、第7層（オリーブ褐色砂質土層：2.5Y4/4）の層順が確認された。

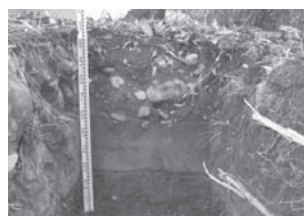
試掘調査の結果、第3号トレンチ第5層から流れ込みと考えられる摩滅した土師質土器（皿口縁部）の破片が1点出土したのみで、他には遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。



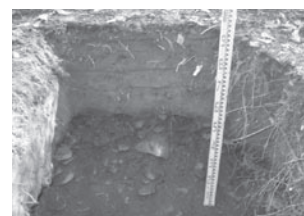
第1図 森林公園金川の森整備事業位置図



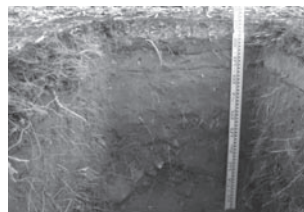
第2図 試掘トレンチ配置図



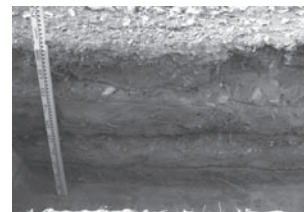
第1号トレンチ土層堆積状況



第2号トレンチ土層堆積状況



第3号トレンチ土層堆積状況



第4号トレンチ土層堆積状況

43 都留バイパス建設事業 No.7 地点 立会 《美通遺跡》

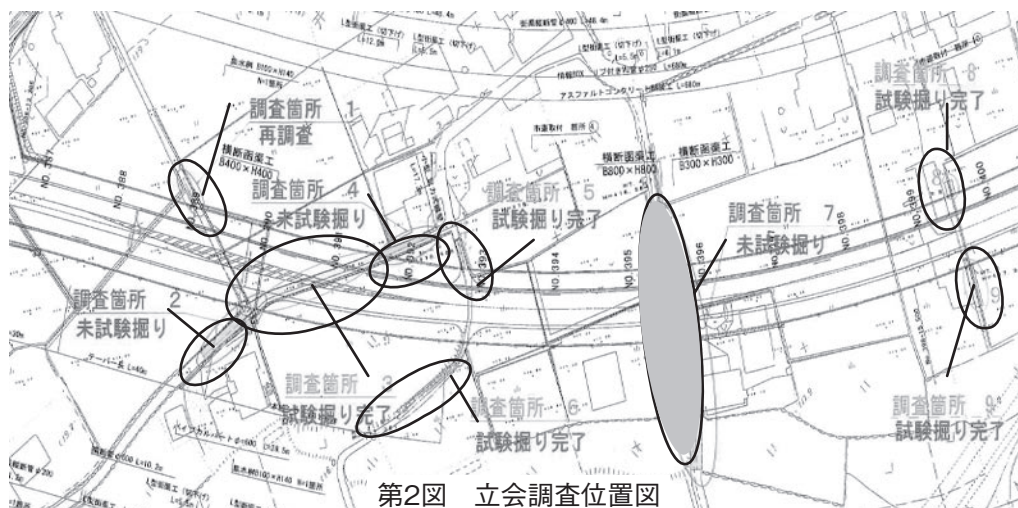
所在地	都留市字井倉地内	調査期間	平成23年1月6日
担当者	笠原みゆき	調査面積	4.9㎡

調査経緯及び事業内容と結果

美通遺跡の立会調査は、H21年度の発掘調査中に、赤道など様々な理由により調査ができなかった地点を対象にしている。調査地点はNo.1～12まであり、このうちNo.1・12は、試掘調査として、No.2～6、8～11については、すでに報告済みである。平成23年1月6日（木）、No.7の立会調査をおこなった。この地点は、A区2-2とB区4の境にあたる生活道路である。現状で敷設されているコンクリート用水路と私設の水道管によって、幅0.7m×長さ7mという範囲での確認となった。敷設時の掘削により自然堆積が確認しにくい状態であったが、焼土・炭・陶磁器・プラスチックを含む近代の落ち込みを確認したのみであった。



第1図 都留バイパス建設事業（美通遺跡）位置図



第2図 立会調査位置図



調査風景



土層堆積状況

44 古府中環状浅原橋線電線共同溝設置事業 立会 《甲府城下町遺跡》

所在地	甲府市中央二丁目地内	調査期間	平成23年1月6日～19日（土日祭日除く）
担当者	高野玄明	調査面積	24.3㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本調査は、甲府市中央二丁目地内、NTT甲府支店西交差点周辺の地中電線共同溝埋設工事に先立ち、道路下の既設埋設配管等の確認調査を行うこととなった。試掘溝は、8箇所設定され、掘削地点が周知の埋蔵文化財包蔵地「甲府城下町遺跡」の範囲内にあたるため、立会調査を実施することとなった。

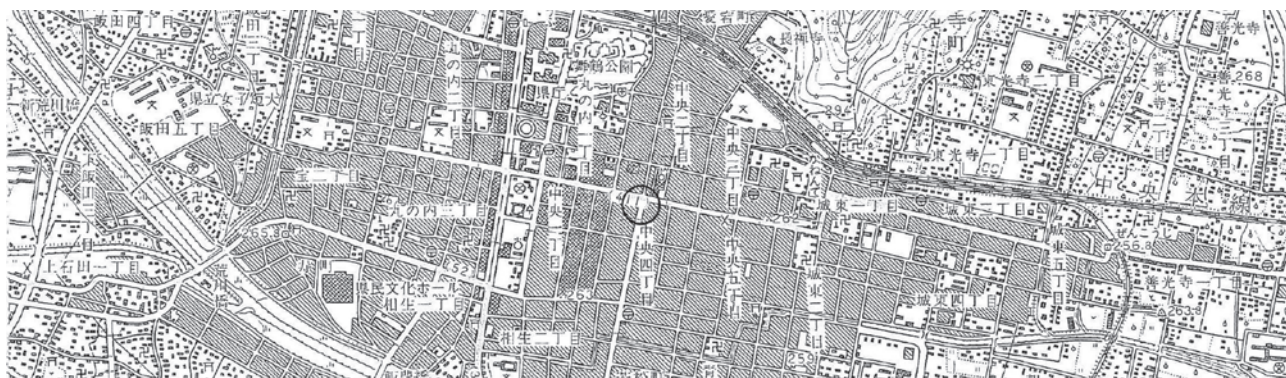
試掘溝は、幅1.0m×長さ2.0～5.5m、深さ1.5～2.5mを測り、重機による掘削を行い、断面による土層観察を行った。事業箇所は、国道及び県道に及ぶため、「山梨県教育委員会埋蔵文化財事務取扱要綱」による事業分担では、県教委と甲府市教委とで分担されるが、情報の共有化を図るため、両者による立会調査を実施した。

なお、施工については、夜間工事であることから、22:00からの立会調査となった。

立会調査の8箇所の内、城東通りの第3地点については、第2地点と隣接しており、埋設物等の状況も類似することから、立会調査は実施していない。第2～第7地点については、NTT、上下水道、東電等の既存の埋設配管等により文化層等の安定した面はほとんど見られない状況であった。

しかし、遊亀通り第1、第8地点の両地点からは黒褐色の粘土層から江戸期と思われる焼土跡や、18～19C代の陶磁器片が確認された。このため、本体工事の着手前には埋蔵文化財の対応が必要とされる。

以上のように、交差点南北方向の遊亀通りに関して、埋蔵文化財が確認された箇所については、施工範囲や施工内容の確認を行う中で、本調査を実施する必要がある。



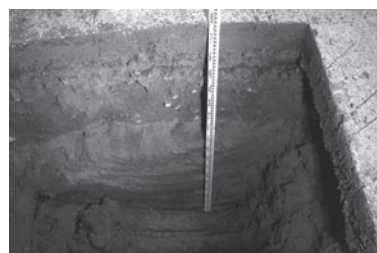
第1図 古府中環状浅原橋線電線共同溝設置事業位置図



第2図 立会調査位置図



作業風景



土層断面確認状況

45 西関東連絡道路（第Ⅱ期）建設事業 立会 《山梨市北地内》

所在地	山梨市北地内	調査期間	平成23年10月28日、11月9日、12月6日、26日
担当者	保坂和博	調査面積	450㎡

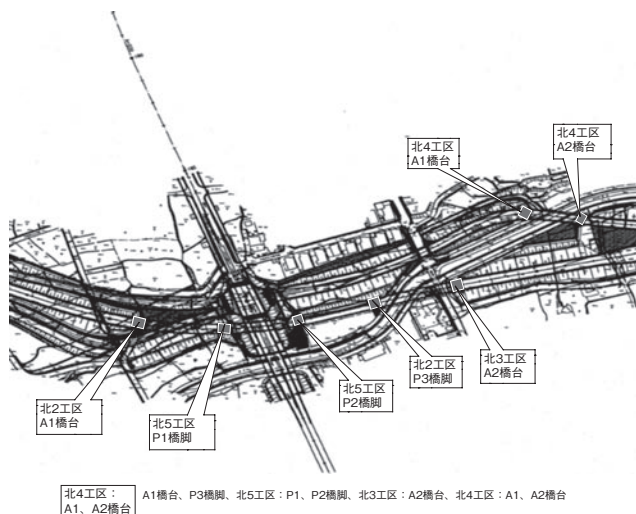
調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、西関東連絡道路建設による弟川に架かる橋梁下部工事（北2工区：A1橋台、P3橋脚、北5工区：P1、P2橋脚、北3工区：A2橋台、北4工区：A1、A2橋台）に伴う立会調査である。この地点に隣接する周知の埋蔵文化財包蔵地である兄川河床遺跡のこれまでの調査で後期更新世の堆積層よりナウマンゾウ化石が確認されていることから、今回の工事予定地内においても同様の化石の出土が想定されるため、昨年度の兄川の立会調査に引き続いて調査を実施した。短期間の工事に伴う立会調査のため、化石発掘を実施することは困難なため、土層観察及び分析（ナウマンゾウ化石産出層位の地質学的情報の収集）に供するべく土壌試料のサンプリング（北4工区A1橋台）を行った。

今回の調査では、ナウマンゾウ化石の検出には至らなかったが、現在、昨年度の兄川の立会調査で確認したナウマンゾウ化石を産した堆積層に対比される堆積層（Ⅲ層：請地礫層）の堆積年代、古環境および化石の検出を目的とした分析とともに今回の立会調査でサンプリングした試料の比較分析を行っているところであり、その成果を踏まえたうえで、正式な報告を平成23年度末に行う予定である。



第1図 西関東連絡道路建設事業位置図



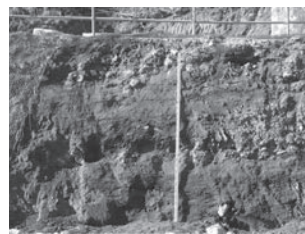
第2図 立会調査位置図



土壌サンプリング状況



北5工区P1橋脚土層堆積状況



北4工区A1橋台土層確認状況



北4工区A2橋台土層堆積状況

47 元県立大学職員宿舎解体事業 立会 《武田城下町遺跡》

所在地	甲府市元紺屋39-1地内	調査期間	平成23年1月6日、11日
担当者	宮里学・古川明日香	調査面積	50㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、元県立大学職員宿舎による当該地の埋蔵文化財の有無を確認するために実施した。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である武田城下町遺跡の範囲内に当たる。地理的環境は、蛇行しながら南下する藤川の左岸に当たる扇状地で、当該地の東側には愛宕山西麓が迫っている。

対象地全域に深度の深い基礎構造を持つ建物が存在したため、任意の地点に試掘坑を設定する調査方法が採用できなかった。したがって、コンクリート基礎撤去作業に併せ、適宜観察を行う方法とした。

コンクリート基礎は、現況地面より最大で1 mの深度まで達しており、また出水が激しい状況であった。

立会調査の結果、部分的に暗茶褐色土(やや粘性土)は観察できるが各地点から遺物や遺構は確認されなかった。



第1図 元県立大学職員宿舎解体事業位置図



左 調査地点南側の土層断面



右上 建物基礎検出状況(西より)



右下 遺物など確認状況

48 県庁舎耐震化等整備事業（議事堂仮設庁舎建設に係る調査）立会《甲府城跡》

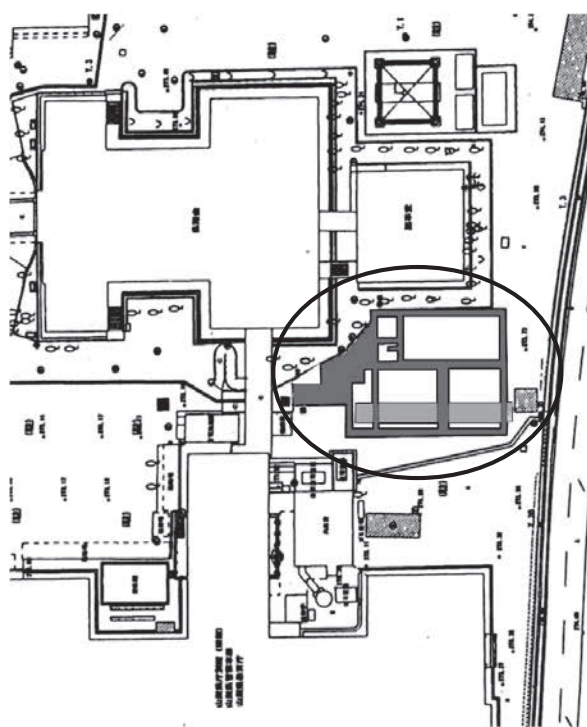
所在地	甲府市丸の内一丁目地内	調査期間	平成23年 1月24日～25日、2月15日
担当者	野代幸和・長田隆志	調査面積	40㎡

調査経緯及び事業内容と結果

県指定史跡甲府城跡の隣接地であり、城を構成する重要な遺構の存在が認められる地点である。平成22年7月に実施した試掘確認調査において、柱穴や石組みの暗渠など築屋曲輪関連遺構の存在が把握されているため、学術文化財課ならびに管財課との事前協議に基づき、埋蔵文化財センターで対応した。議事堂仮設庁舎の基礎部分を地形の比高差に合わせて100mm～400mm掘削した。試掘調査で確認した遺構確認面より浅いため、埋蔵文化財には影響がなかった。



第1図 県庁舎耐震化等整備事業（議事堂仮設庁舎建設）位置図



第2図 立会調査位置図



調査区全景



掘削状況



立会確認状況

49 県庁舎耐震化等整備事業 試掘確認・立会 《甲府城跡》

所在地	甲府市丸の内一丁目地内	調査期間	平成23年 3月3日～9月1日
担当者	野代幸和・宮里学・長田隆志	調査面積	265㎡

調査経緯及び事業内容と結果

各地点の調査日程については、学術文化財課と管財課で事前協議を実施した。これを受けてセンターが埋蔵文化財の調査を実施する方向で調整を行った。

旧第一駐車場東側の外構撤去及び仮設電柱設置に伴う試掘確認調査では、中世の石列が確認されたため現状保存とし、堀の攪乱部分への電柱設置を指示した。遺構確認地点は、発掘調査報告書に記載した。

本館南東部の調査では、既設物の撤去、オイルタンク設備新設ならびに埋設工事の際に作業の進捗に合わせて7地点で立会調査を実施したが、対象地はすべて既掘の範囲であり、新たに遺構を確認するには至らなかった。

旧第一駐車場南東花壇周辺の調査では、既存石垣の撤去と既存道路地盤面までの掘削、同南東部植樹帯の擁壁撤去作業時に埋蔵文化財の有無について確認を行った。最大掘削深度は1800mmであるが、ハンドホールや旧歩道橋基礎等で攪乱されており、遺構は検出されなかったが、モルタルが付着した石垣築石部材が4石確認されたため保護した。

第二南別館基礎解体工事に伴う調査では、山留工掘削溝部分で石垣の一部と推定される石材を視認したため、その場所を中心に掘削を実施した。約100mmで残存石垣の築石を確認し、周辺を拡張して全体規模を把握したところ南北約3.8m、最大高約2.3m、残りのよいところで3段の石積みが残存していることが判明した。そのため、関係機関との事前協議を行い、発掘調査ならびに解体工事を実施した。

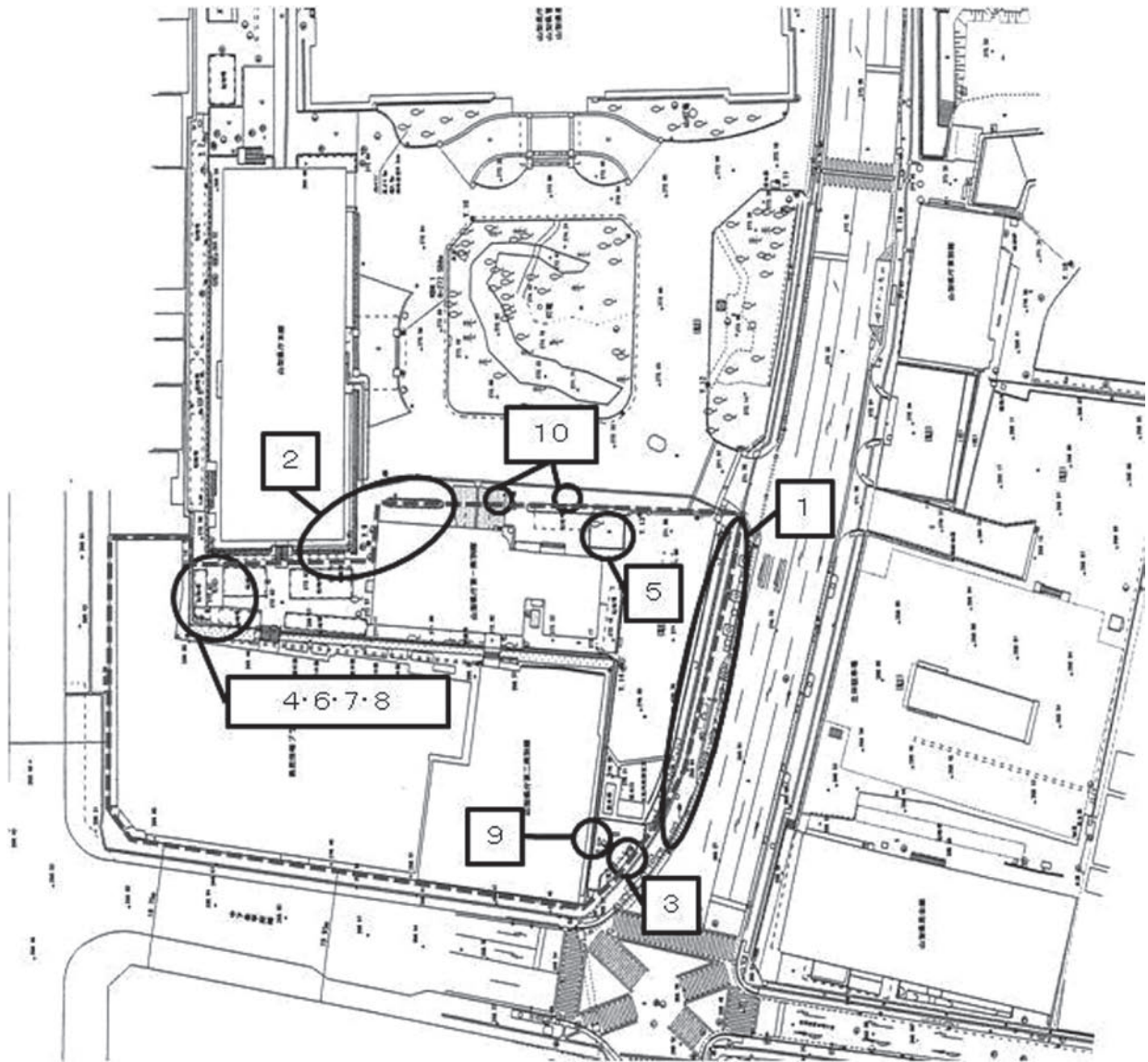
本館南側オイルタンク撤去時に伴う調査では、昨年度の発掘調査で発見された一の堀南西部石垣の西側に続く石垣が確認されていたため、オイルタンクの本体撤去ならびに基礎撤去、地盤掘削工事の際に立会調査を実施した。調査の結果、築石は根石から2段確認されたため、発掘調査ならびに解体調査を実施した。

楠木移植工事に伴う調査では、根回し時と移植作業時に実施した。掘削深度は最大1400～1800mmであり、平成22年度の発掘調査で確認された暗渠跡の続き部分が確認された。このため、関係機関と協議を行い、発掘調査を実施した。また、楠木南側の山留工に伴う調査では、現況地盤面から最大3000mm掘削を実施したが、遺構については確認できなかった。

仮設ゲート柱設置工事に伴う調査では、基礎設置に係る現況地盤面下700mmまでの掘削ということで立会調査を実施したが遺構は確認できなかったが、良好な江戸時代の造成地盤面ならびに土堀の漆喰層が認められたため、外構工事の際には立会調査を実施する必要がある。



第1図 県庁舎耐震化等整備事業位置図



第2図 防災新館関連調査位置図

	事業内容	調査期間	検出遺構・出土遺物	対応
1	外構撤去及び仮設電柱設置	2月14日～22日	石列・土器	現状保存
2	既設埋設管およびオイルタンク新設	3月3日～30日	なし	
3	電気埋設管等撤去解体	4月22日	石垣部材4石	
4	既存石垣撤去及びオイルタンク周辺掘削	5月2日	石垣部材1石・埋設管	
5	楠木根回しに伴う掘削 楠木移植及び山留工	3月7日～9日 5月30日～6月4日・7日	瓦 暗渠跡・瓦・陶器など	発掘調査
6	オイルタンク基礎・既存石垣解体	6月27日	なし	
7	オイルタンク周辺掘削	7月19日	なし	
8	オイルタンク地盤掘削	8月22日	一の堀石垣・胴木・瓦など	発掘調査
9	旧第二南別館基礎解体	8月29日・30日	一の堀石垣・瓦	発掘調査
10	工事用仮設ゲート基礎工事	9月1日	瓦・角鋸	

表1 県庁舎耐震化等整備事業関連調査（防災新館建設に伴う試掘・立会）一覧表



3. 旧歩道橋基礎撤去状況



4. オイルタンク撤去状況



5. 暗渠跡確認状況



6. 山留工に伴う掘削状況



7. オイルタンク周辺掘削状況



8. 石垣検出状況



9. 一の堀南部石垣出土状況



10. 仮設ゲート基礎掘削状況

50 県議会議事堂改修機械整備（給水管敷設）事業 立会 《甲府城跡》

所在地	甲府市丸の内一丁目地内	調査期間	平成23年5月14日～17日
担当者	野代幸和・長田隆志	調査面積	40㎡

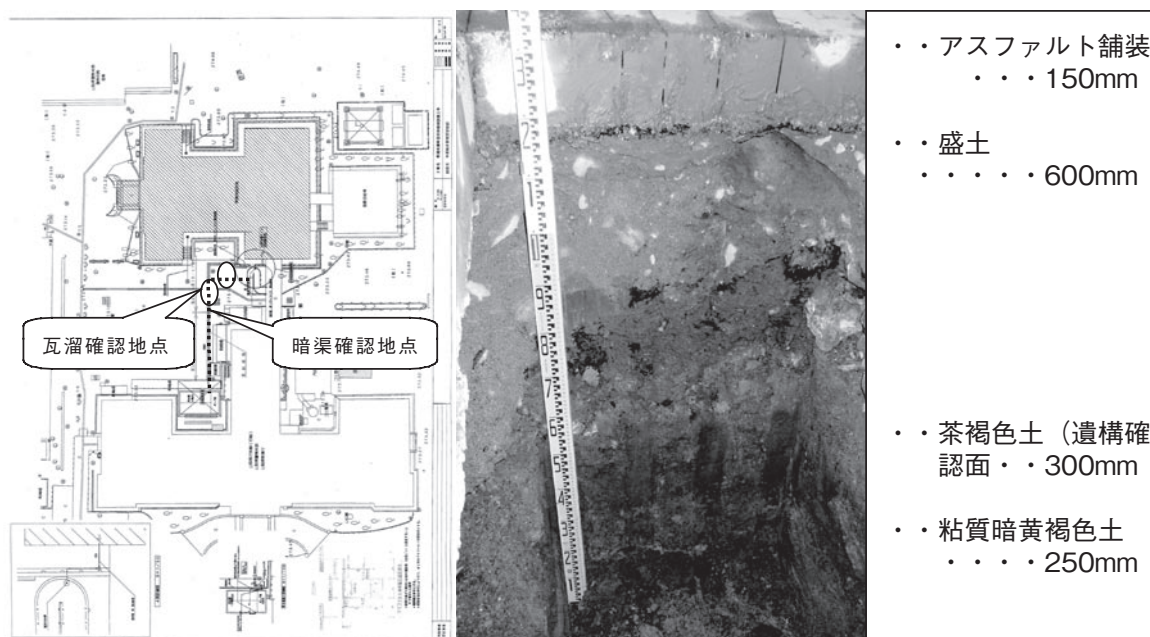
調査経緯及び事業内容と結果

本地点に隣接する地点から書院に係る長屋門に付帯する暗渠跡などの遺構が確認されていることから、学術文化財課と管財課で事前協議を実施し、4月18日付け管第221号にて学術文化財課に、4月22日付け教学文第324号にて当センター調査の依頼があった。これを受けてセンターでは現況地盤掘削作業時において、埋蔵文化財の確認調査を実施する方向で調整を行った。

調査は長さ40m×巾600mm×深さ800mmの掘削坑を対象に実施した。掘削深度は800mmであり、浅い所では遺物包含層が現況地盤面-400mmで認められたため、遺物出土範囲を記録した。遺構確認面は-500mm付近で認められ、長屋門に付帯する暗渠跡の部材（過去の配管工により破損）が確認できた。これは議事堂仮設庁舎試掘調査時に確認できた遺構と東西で並ぶことから、絵図からも散見できる長屋門に隣接する暗渠と推定できる。本地点においては未調査区域であったが、今回の調査で遺構の存在や瓦溜まりと包含層が確認できたことから、今後周辺部分の開発行為においては十分な事前協議と対応を要する。



第1図 県議会議事堂改修機械整備事業（給水管敷設工事）位置図



第2図 立会調査位置図

土層堆積状況

51 県営住宅谷村団地外構建設事業 立会 《城ノ腰2遺跡》

所在地	都留市つる三丁目地内	調査期間	平成23年1月14日、2月1日
担当者	保坂和博	調査面積	150㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、周知の埋蔵文化財包蔵地である城ノ腰2遺跡の範囲内における県営住宅谷村団地建替事業で、既存の建物を解体・撤去後、新たに建築する工事である。今回の立会調査に先立ち行われた集会場の基礎工事時（平成22年10月27日）の立会調査で平安時代の住居跡が確認されていることから、平成23年1月14日に実施した現地協議に基づき、既掘範囲を除き、新たに掘削される地点を対象に立会調査を実施した。

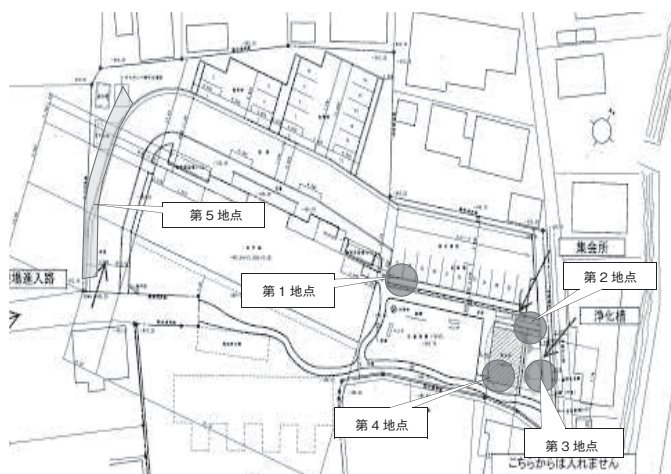
第1地点から第4地点は、擁壁（G）工事による長さ約48m、幅約2m、深さ約1mを、第5地点は、水路工事による長さ約28m、幅約1m、深さ約1mを対象に遺構確認と土層観察を行った。

各地点における土層堆積状況は、基本的に同様であり、第1層（灰白色碎石層：表土層）、第2層（暗褐色土層：建物解体後の埋土層）、第3層（にぶい黄褐色土層：水田耕作土層）、第4層（黒褐色土層：水田床土層）、第5層（黒色土層：平安時代遺構確認面）の層順が確認された。

立会調査の結果、遺物は第4層より流れ込みと考えられる古墳時代の土師器破片2点のみが確認された。また、今回の立会調査地点では、10月27日に確認された平安時代の遺構確認面（第5層）直上の4層までの掘削であり、遺構は保護されることとなった。以上のことから、今後、本地点において工事を行う場合には、遺跡に影響を及ぼさない保護措置を行うことが必要である旨を報告した。



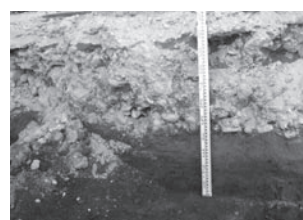
第1図 県営住宅谷村団地外構建設事業位置図



第2図 立会調査位置図



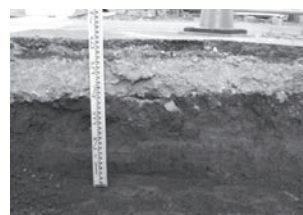
第2～4地点掘削状況



第1地点土層堆積状況



第2地点土層堆積状況



第5地点土層堆積状況

52 県営住宅谷村団地改築二期解体事業 立会 《城ノ腰2遺跡》

所在地	都留市つる三丁目地内	調査期間	平成23年8月29日、9月1日～2日
担当者	依田幸浩	調査面積	554㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地である徳重遺跡（縄文時代：散布地）に隣接する県営住宅谷村団地1～3号棟の解体工事における立会調査である。

平成22年10月6日に行われた同団地集会場基礎工事における立会調査で、平安時代の住居跡が確認され（城ノ腰2遺跡として登録）、平成23年1月14日・2月1日に行われた同団地外構工事における立会調査では古墳時代の土器片が出土していることから、1～3号棟の基礎解体作業における立会調査を実施した。

基礎解体作業は、布基礎周辺の土壌を基礎に沿って重機で掘り下げ、基礎底部（地表下約0.55～0.65m）を露出させた後に基礎を抜き取るという手順で作業が行われたため、基礎周辺の土壌掘削時に断面と底面の観察を行った。

1号棟の基礎周辺では、地表下約0.15mまで黄褐色土が堆積し、地表下約0.15～0.35mまで黒色スコリアを少量含む暗褐色土、地表下約0.35～0.65mまで黒・橙色スコリアを30%ほど含む黒褐色土が堆積しており、地表下約0.65mの地点で溶岩ブロックを検出した。

2号棟の基礎周辺では、地表下約0.15mまで黄褐色土が堆積し、地表下約0.15～0.75mまで黒色スコリアを少量含む暗褐色土、地表下約0.75～1.05mまで黒・橙色スコリアを少量含む暗褐色土、地表下約1.05mから下方に黒・橙色スコリアを30%ほど含む黒褐色土が堆積していた。

3号棟の基礎周辺では、1号棟とほぼ同じ堆積状況が確認された。

今回の立会調査では、遺構・遺物は全く確認されなかったことから、本工事における埋蔵文化財の保護措置は必要ないものと判断した。

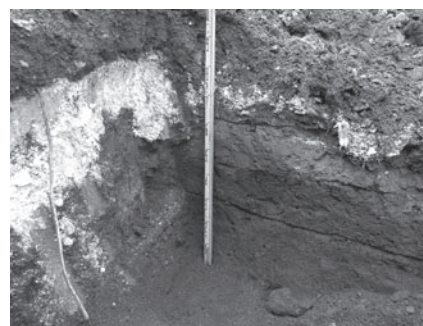
なお、基礎周辺の土壌堆積状況は、前回の立会調査において平安時代の住居跡が確認された集会場地点や古墳時代の土器片が出土した外構部分の土壌堆積状況とほぼ同じであることから、本調査で確認された1号棟の暗褐色土層・黒褐色土層などが平安時代の遺構確認面となる可能性が考えられる。このため、同地点で開発事業などが行われる場合には、事前に試掘・確認調査が必要になると考えられる。



第1図 立会調査位置図



基礎抜取作業



1号棟土壌堆積状況

第2図 谷村団地配置図

53 県営住宅和戸団地下水道接続事業 立会 《大坪遺跡》

所在地	甲府市和戸町920番地	調査期間	平成23年10月19日 平成23年11月14日
担当者	山本茂樹	調査面積	8.8㎡、23.4㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、県営住宅和戸団地内の1号・2号棟及び3号棟の東側の公園内に下水道を接続するための工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である「大坪遺跡」の範囲内であることから、立会調査を実施した(建築住宅課及び営繕課の立会いのもとに実施)。

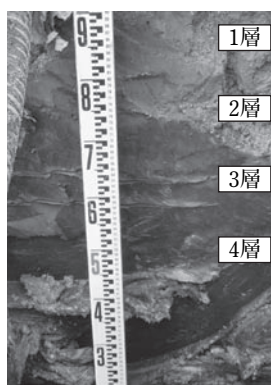
第1回目の立会箇所では、現地表から50cmまでの第1層は攪乱層、第2層は茶褐色土が混入する暗褐色土で、25cmの堆積が認められた。第3層は10cmの厚さで灰白色粘土が粒状に混入する黒褐色土層が堆積し、第4層は粘性の強い黒褐色粘土層である。第2回目の立会箇所では、現地表から約1mまでの第1層は攪乱層、第2層は茶褐色土が混入する暗褐色土である。第3層は粘性のある黒褐色土層が堆積し、第4層は粘性の強い黒褐色粘土層で酸化鉄を含む層である。第5層は粘性のある黒褐色土で、現地表から2.80mまで掘削が行われた。なお、掘削深度が深いため、各層の堆積土の計測はできなかった。

昭和50年、国道140号線改良工事に伴い実施された大坪遺跡の発掘調査では、第2層と第3層の中間から遺物の出土が認められていたが、遺構・遺物は検出されなかった。

立会調査の結果、遺物の出土や遺構は確認されなかったが、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲内であることから、第1回目及び第2回目の地点では、遺構の存在が確認されなかったが、今後の下水道工事を行う際には、周知の埋蔵文化財包蔵地である「大坪遺跡」の範囲内であるため立ち合い調査を実施する必要がある。



第1図 県営住宅和戸団地下水道接続工事位置図



第1回目断面写真



第1回目 作業状況



第2回目断面写真



第2回目 作業状況

54 県立北杜高等学校ほ場下水道敷設事業 立会 《原町農業高校前遺跡》

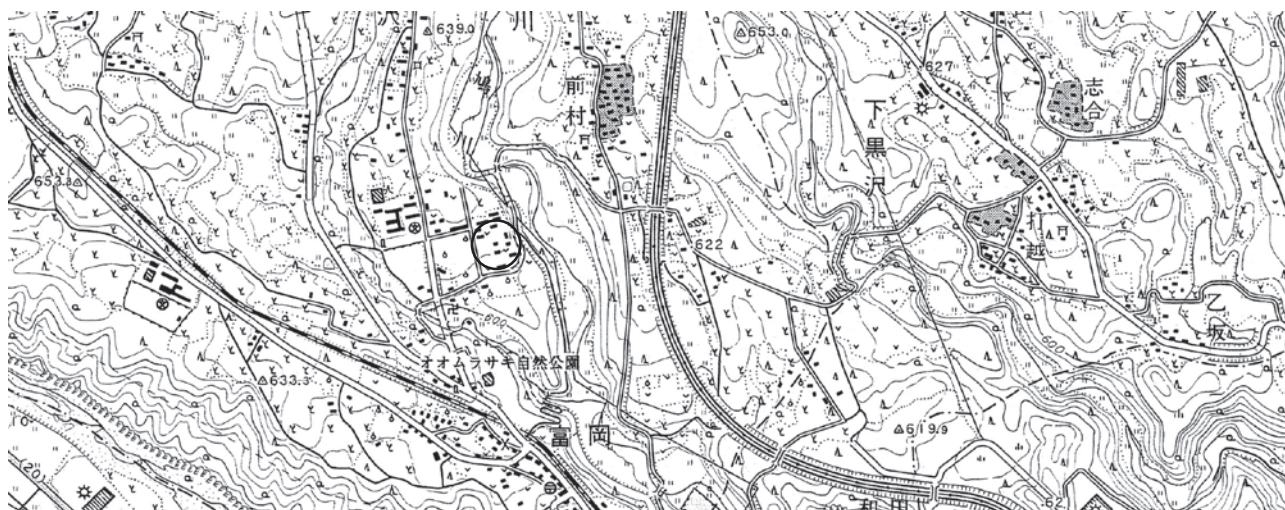
所在地	北杜市長坂町塚川地内	調査期間	平成22年12月9日、平成23年1月6日～7日、14日、17日、19日
担当者	保坂和博	調査面積	175㎡

調査経緯及び事業内容と結果

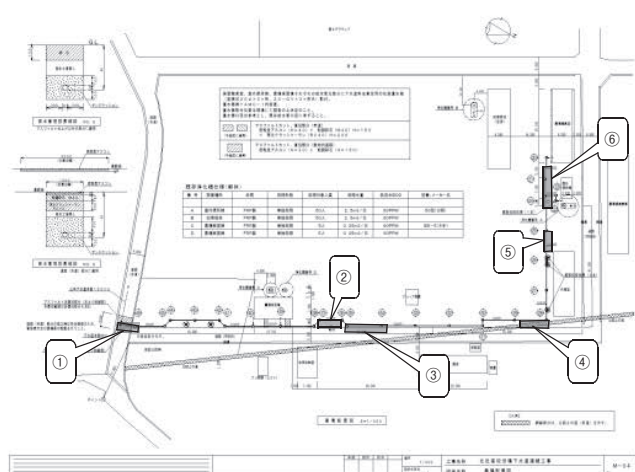
本事業は県立北杜高等学校ほ場下水道敷設事業で、ほ場内を長さ約220m、幅80cm、深さ70cmにわたり掘削し、下水道の配管を敷設する工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である原町農業高校前遺跡の範囲内に当たり、これまでに峡北地区総合学科高校（北杜高校）整備事業に伴い、平成12年度から14年度にかけて3次にわたり発掘調査が実施され、縄文時代中期や平安時代の集落跡などが発見されていることから、学校施設課と学術文化財課との協議に基づき、工事工程に合わせ12月9日①地点、1月6日②地点、7日③地点、14日④地点、17日⑤地点、19日⑥地点の延べ6日間にかけて立会調査を実施した。

各地点における土層堆積状況は、基本的に同様であり、第1層（表土層：客土層）以下に第2層（ローム層：地山層）が確認されたが、第1層（客土層）内からは、②地点から③地点でコンクリート基礎の残存状況を、また④地点から⑥地点では水道管理設に伴う客土をそれぞれ確認した。

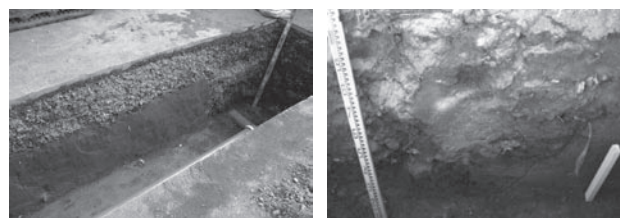
立会調査の結果、いずれの地点からも遺構・遺物ともに検出されず、遺跡は存在しないものと考えられたため、今回の立会調査地点では、工事を進めても差し支えない旨を報告した。



第1図 県立北杜高等学校ほ場下水道敷設事業位置図



第2図 立会調査位置図



①地点土層堆積状況

③地点土層堆積状況



④地点土層堆積状況

⑥地点土層堆積状況

55 県立北杜高等学校配水管敷設事業 立会 《原町農業高校前遺跡》

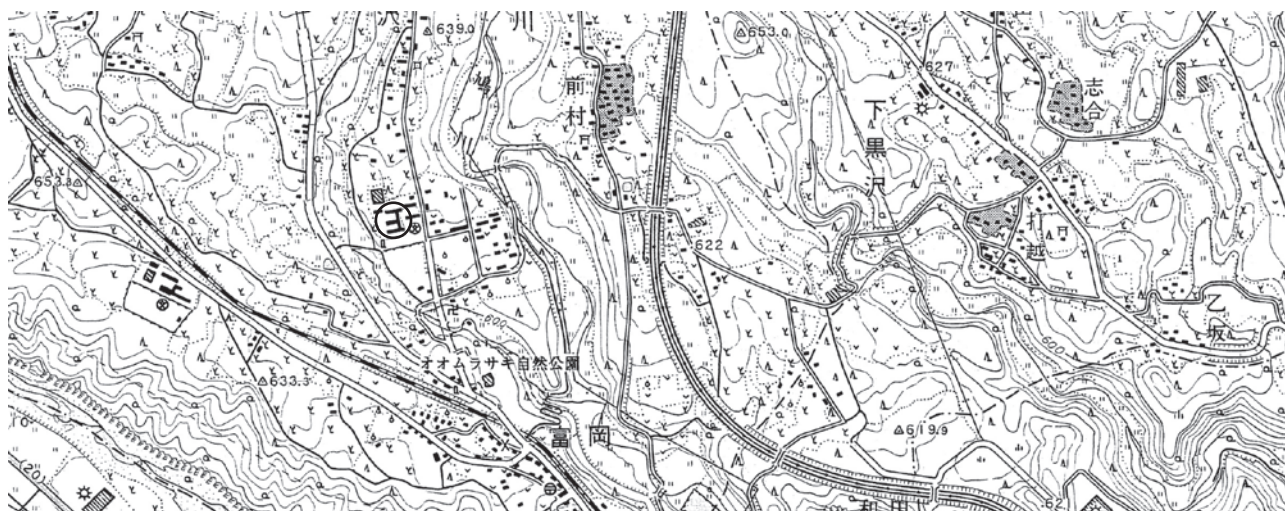
所在地	北杜市長坂町渋沢地内	調査期間	平成23年12月1日
担当者	今福利恵・土橋寛仁	調査面積	3.85㎡

調査経緯及び事業内容と結果

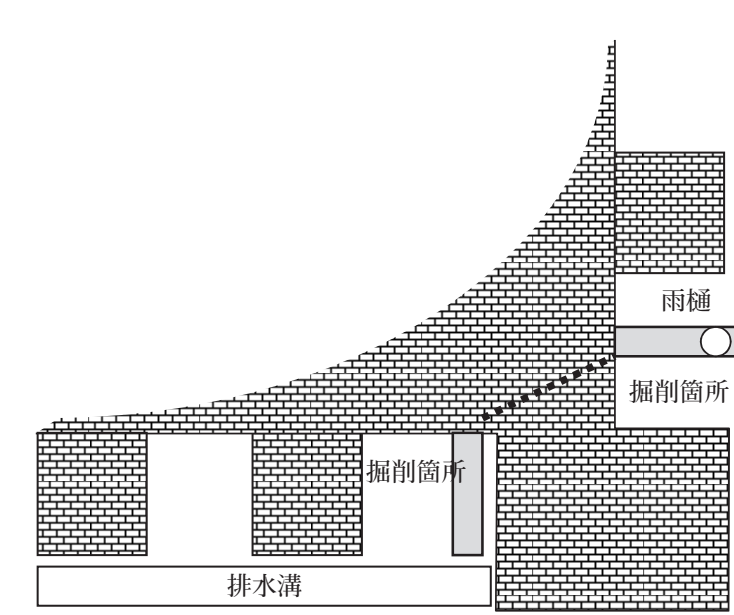
県立北杜高校における雨樋を排水路へ接続するための掘削で、北杜高校中央館とセンターコリドール（渡り廊下部分）かどになる。原町農業高校前遺跡内に該当するため掘削にあたり工事立ち会いすることとした。

現状では煉瓦ブロックが敷き詰められており、その間の土はの掘削となる。掘削はセンターコリドール側で、長さ350cm、幅50cm、深さ20cm程で東西方向に、また中央館側の排水路側では、長さ350cm、幅60cm、深さ30cm程で南北方向に掘削している。両者の間は煉瓦が敷き詰められているため上面からの掘削はせずに横方向からトンネル状に配水管を通すということである。

掘削箇所を一部清掃して土層を確認したが、暗黄褐色土であり、盛土造成されているところの掘削であって、遺物遺構ともに認められなかった。



第1図 県立北杜高校配水管敷設工事位置図



校舎 中央館

第2図 立会調査位置図



掘削状況



確認状況

56 県立増穂商業高等学校水道管敷設建設 立会 《堤防遺跡推定地》

所在地	南巨摩郡富士川町最勝寺1372番地内	調査期間	平成23年3月25日
担当者	山本茂樹	調査面積	14㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、グラウンド内に水道管敷設のための工事である。建物側から分水を行い、ここから石垣までは65～40cm程度の掘削を伴い、その後石垣に這わせてグラウンドまで延伸し、グラウンド内で水道の立ち口を設置するために約40cmの掘削が行われるものである。

工事地点には、戸川に沿って堤防遺跡推定地（明治21年測量地図による）が存在しており、掘削面積が非常に狭いことから立会調査を実施することとなった。

立会は、掘削が伴う分水箇所と石垣までの間、そしてグラウンド内の立ち口箇所である。工事による掘削深度は60cm前後で、建物側では文化創造館建設時に配水管などが4～5本埋設されていたため、慎重に掘削が行われた。

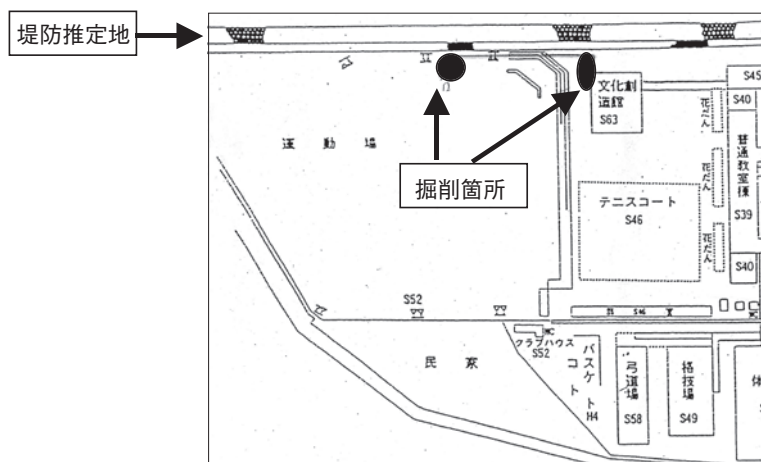
その結果、建物側では厚く盛土がなされていたこと、また配管設置による攪乱が著しかったことなどから堤防の存在を確認することはできなかった。

グラウンド側では同様に盛土がなされ、石垣は掘削深度より更に深く構築されていた。このことにより、堤防推定地ではあるが、堤防の広がりや構築工法、構築材などを確認することはできず、遺物の出土も確認できなかった。

よって、遺構に影響を与えることはないため工事を継続する旨を告げた。



第1図 水道管敷設事業箇所位置図



第2図 立会調査位置図

57 県立都留高等学校修繕事業 立会 《大月遺跡》

所在地	大月市大月2丁目11番20号地内	調査期間	平成23年11月22日
担当者	保坂和博	調査面積	1㎡

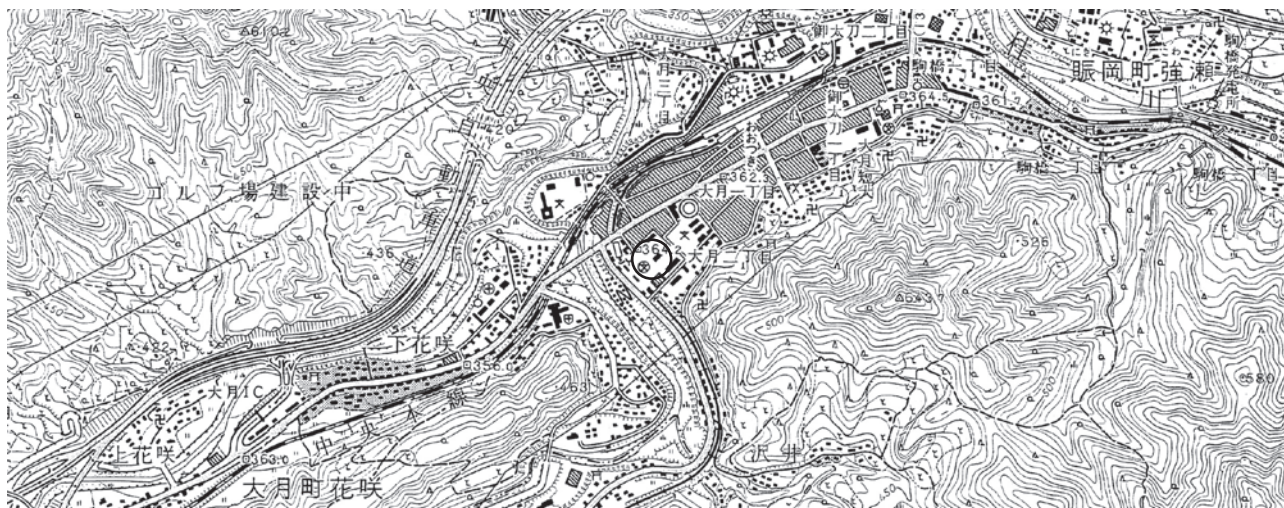
調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、県立都留高等学校における消火栓の漏水に伴う修繕工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包含地である大月遺跡の範囲内に当たることから、学校施設課と学術文化財課との事前協議に基づき、立会調査を実施した。

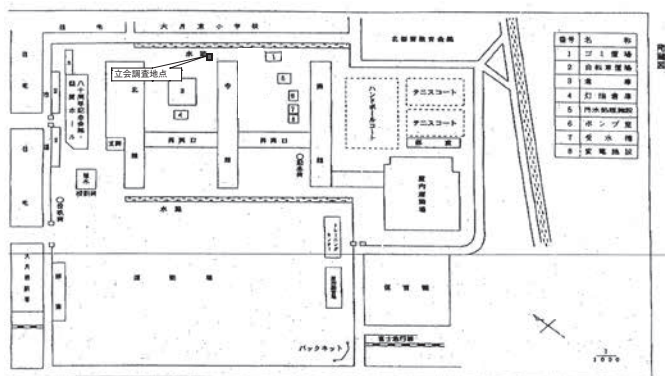
今回の立会調査では、長さ約1.2m、幅約0.8m、深さ約1.5mの範囲において、重機による掘削後、人力による遺構確認と土層観察を行った。

土層の堆積状況は、表土層（アスファルト）以下、第2層（コンクリート）、第3層（碎石）、第4層（黒褐色土層）の層順が確認され、いずれも消火栓や電気・ガスの配管に伴う埋土層であることが確認された。

立会調査の結果、漏水確認地点は地下埋設物による既掘の範囲内で、かつ遺構や遺物は全く確認されないことから、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。



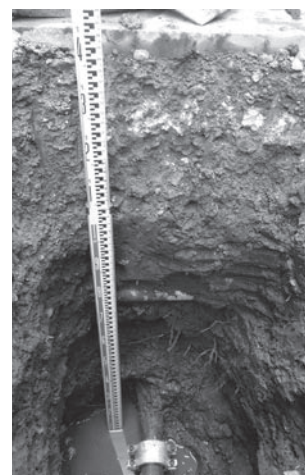
第1図 県立都留高等学校修繕事業位置図



第2図 立会調査位置図



土層堆積状況（北壁）



土層堆積状況（西壁）

58 県立かえで支援学校（創造館内）建設事業 立会 《狐原遺跡》

所在地	笛吹市石和町中川字六角1230番地内	調査期間	平成23年10月20日
担当者	山本茂樹	調査面積	2㎡

調査経緯及び事業内容と結果

この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である「狐原遺跡」の範囲内であることから、平成23年2月23日に、創造館の敷地内で試掘調査を実施した場所で、伐根作業および入口の門(東側)の移設工事に伴い立会調査を実施した。伐根による掘削深度は、30cm程度である。掘削土や伐根跡等の確認を行ったが、遺構・遺物は認められなかった。

門の移設工事による掘削規模は、長さ2m幅1m深さ30cmであり、重機による掘削後、遺構・遺物の確認作業を行った。

その結果、現地表から約45cmで遺構の覆土と思われる暗褐色土層から土師器の坏片が確認された。確認面は、灰色のやや黄色みを帯びた砂である。

遺構までの深さは75cmであることから、伐根についての影響はない。また、門の移設についてはコンクリートの撤去工事など伴うが、15cmと保護層は少ないものの、工事の規模は小さく遺構を大きく痛めるものではないことから、現況での遺構の保護・保存もやむを得ないものと思われる。



第1図 かえで支援学校創造館内建設事業位置図



伐根の状況



入口掘削の状況

59 平等川基幹河川改修事業 立会 《堤防遺跡推定地/七沢の渡し場》

所在地	笛吹市石和町東油川地内	調査期間	平成23年1月24日
担当者	高野玄明	調査面積	50㎡

調査経緯及び事業内容と結果

平等川河川改修事業については、笛吹市春日居町内～甲府市七沢町地内において、堤防跡、河岸跡等の推定地や埋蔵文化財包蔵地において、施工内容等や地理的環境、さらに工事の進捗状況を踏まえて、試掘調査や立会調査を実施している。

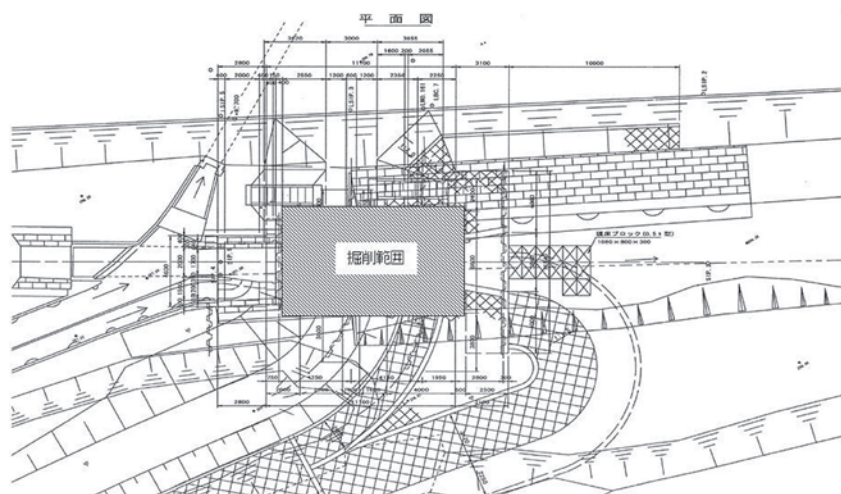
今回の調査は、笛吹市石和町東油川地内において、柳田堰、取水樋管、導水路工事が平等川河川改修に伴って実施されることとなった。この工事により一部堤防部分の掘削が行われるため、立会調査を実施した。

調査の結果、堤防断面は粘質土を主体とした構造を呈し、掘削した断面を見る限り、堤防を玉石などで覆っている様子は見られなかった。

立会調査の結果、堤防構築に伴う石積みや堤防基部の構築部材などの確認はできなかった。このため、堤防断面の記録を収めて立会調査を終了した。



第1図 平等川基幹河川改修事業位置図



第2図 立会調査位置図



掘削状況



断面確認状況

60 平等川基幹河川改修事業 立会 《堤防遺跡推定地》

所在地	甲府市七沢町外地内	調査期間	平成23年11月4日
担当者	山本茂樹	調査面積	27㎡

調査経緯及び事業内容と結果

平成22年度からの継続事業で、本地点は周知の埋蔵文化財包蔵地の堤防遺跡の範囲内であることから、立会調査を実施した。

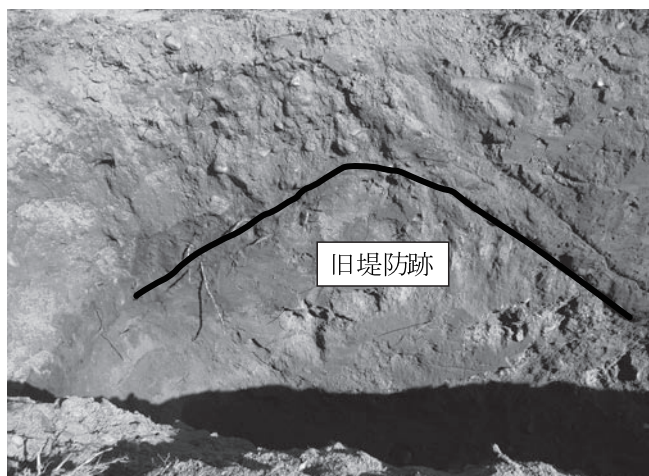
第1図の場所で、2か所の立会を実施した。第1地点では、現在の堤防の外から1.6m内側で旧堤防が確認された。しかし、第2地点では、掘削の長さが短かったこともあり旧堤防は確認されなかった。

工事に伴う立会調査により第1地点では、「山梨県堤防・河岸遺跡分布調査報告書から、明治21年の測量地図に堤防遺跡が記載されており、現在構築されている堤防の中にその存在が確認された。

今後、工事を実施する際には立ち合いを実施し、堤防の有無確認が必要である。



第1図 平等川河川改修事業位置図



第1地点の土層断面写真



第2地点の土層断面写真

61 平等川基幹河川改修事業 立会 《堤防遺跡推定地》

所在地	笛吹市石和町東油川地内	調査期間	平成23年11月28日
担当者	山本茂樹	調査面積	120㎡

調査経緯及び事業内容と結果

長さ約60mで、現在の堤防の法面を掘削した後、法面の一部(8箇所)を精査し堤防の痕跡の確認を行った。

掘削の下部から上部の約2mまでに、旧堤防の跡が確認された。2m以上については、盛土と考えられる土砂が目視ではあるが互層で堆積していた。2m以下の堆積状況は、1：盛土層、2：白色砂層、3：暗茶褐色砂層（しまりなし）、4：茶褐色砂層（しまりあり）、5：灰茶褐色砂層（粘土小ブロック混入）、6：灰茶褐色砂質粘土層、である。3層から6層までが旧堤防と考えられる。

下流側では、現在の堤防の下に存在しているものと思われ、砂層しか確認されない。同様に、上流側でも砂層しか確認されない。理由としては、掘削がカーブを描いているためと考えられ、堤防の内側の砂層が確認されたものと思われる。

立会調査の結果、旧堤防と考えられる遺構が確認されたが、その長さについては不明である。また、遺物が確認されなかったことにより、構築時期については不明である。

今後、河川工事を実施する際には、堤防の続きなどを確認するために立会調査を実施する必要がある。



第1図 平等川河川改修事業位置図



立会調査地点状況写真

62 一級河川富士川水系藤川広域河川改修事業 立会 《甲府城下町遺跡》

所在地	甲府市城東四丁目地内	調査期間	平成23年2月9日
担当者	高野玄明	調査面積	40㎡

調査経緯及び事業内容と結果

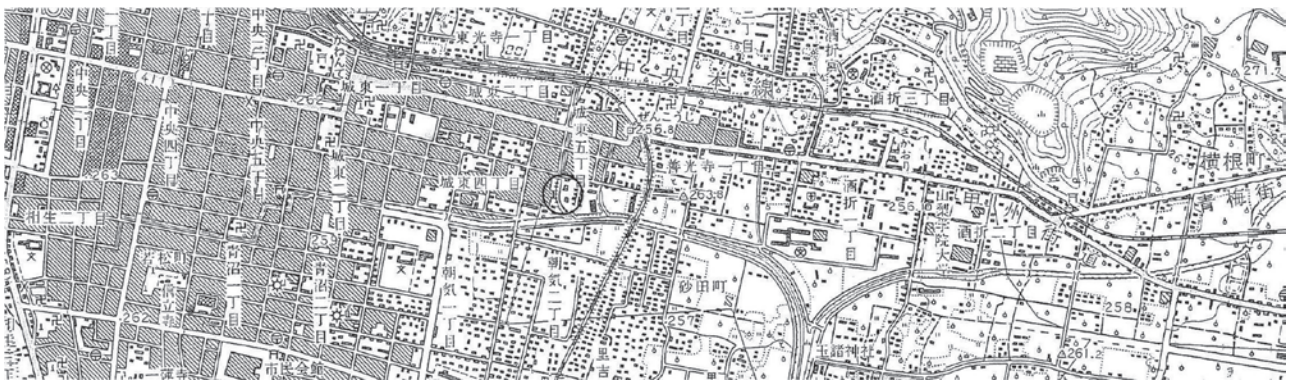
藤川については、平成21年度より河川改修工事を行っており、今年度の施工範囲に周知の埋蔵文化財包蔵地「甲府城下町遺跡」にかかるため、中北建設部、学術文化財課、埋蔵文化財センターにおいて、協議を行った。

本河川の改修工事は、宅地や道路であるため河川幅を広げることなく施工を行う。しかし、のり面部分の補修に掘削が伴うため、協議の結果、のり面の掘削部分のみ立会調査を実施することとなった。

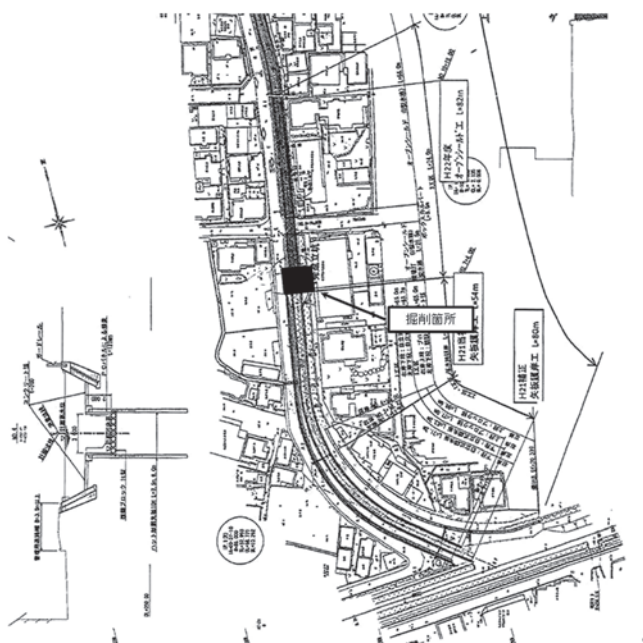
しかし、今回の立会調査については、施工部分である起点部に立坑を敷設するもので、幅4.0m、長さ10.0m、河床部分から下に2.0m程掘削を行い、施工するもので川幅を広げる等の施工は行わないとのことである。

このため、河床から1.0m程の掘削を重機によりお願いし、河床の状況を観察したが、河川による砂層の自然堆積が見られるなど、甲府城下町に関する埋蔵文化財の確認はできなかった。

については、藤川河川改修工事に関しては、前述したとおり市街地であり事業地周辺が宅地に囲まれているため、今後の改修工事においても、河川幅を広げず河床部分のみの施工によることから、埋蔵文化財に関しては、全く問題ないものと思われる。



第1図 一級河川富士川水系藤川広域河川改修事業位置図



第2図 立会調査位置図



立会箇所



河床掘削確認状況

63 鎌田川河川改修事業 立会 《堤防遺跡推定地》

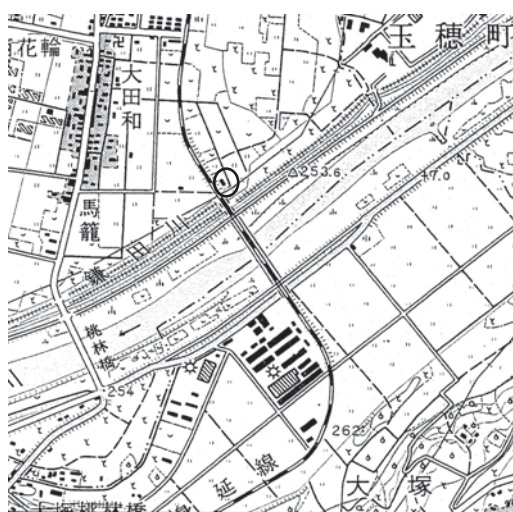
所在地	中央市田富町大田和地内	調査期間	平成23年9月15日
担当者	山本茂樹・保坂和博	調査面積	200㎡

調査経緯及び事業内容と結果

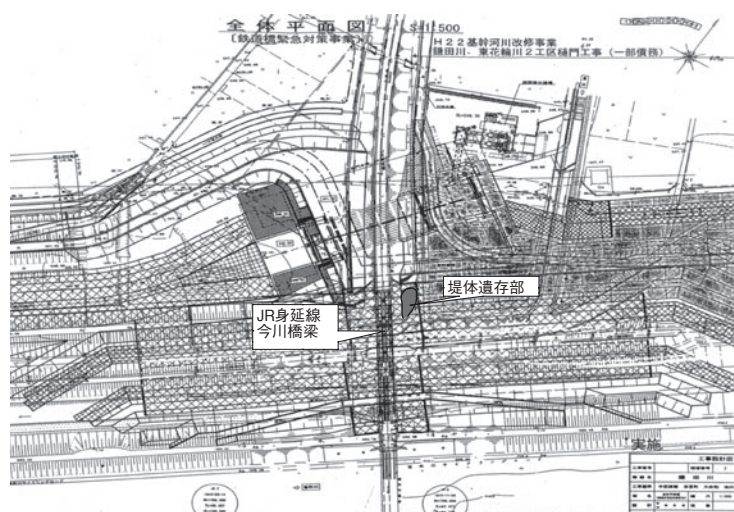
本事業は、鎌田川河川改修に伴う埋蔵文化財の立会調査である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である堤防遺跡推定地の範囲に当たることから、平成23年6月10日に実施した中北建設事務所河川砂防管理課、工事請負業者、学術文化財課、埋蔵文化財センターによる事前協議に基づき、遺存する堤防に掘削が及ぶ前に現状の平面及びエレベーションの測量（50cmコンタ）を実施した。

測量調査の結果、JR身延線今川橋梁の脇に南北方向に延びる形で長さ約17.5m、幅約6.0m、高さ約1.7mの規模で「堤体部」が遺存することが確認された。

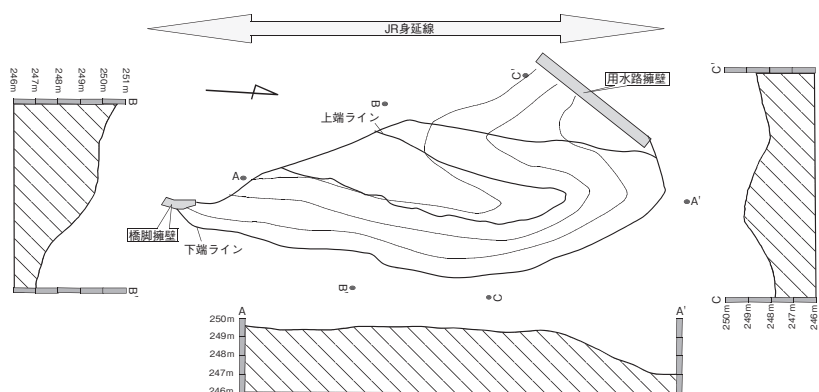
また、今後「堤体部」を掘削する際には改めて立会調査を行い、断面観察により堤体構造を記録することとした。なお、平成28年度から29年度に施工する鎌田川及び東花輪川の河川敷工事に着手する際にも立会調査を実施することとした。



第1図 鎌田川河川改修事業位置図



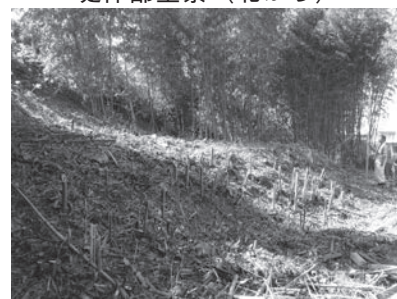
第2図 立会調査位置図



第3図 堤体部測量図



堤体部全景（北から）



堤体部全景（南から）

64 曾根丘陵公園内市道における水道管漏水修理事業 立会 《石清水遺跡》

所在地	甲府市下曾根町曾根丘陵公園内	調査期間	平成23年4月27日
担当者	依田幸浩・青木真一	調査面積	4㎡

調査経緯及び事業内容と結果

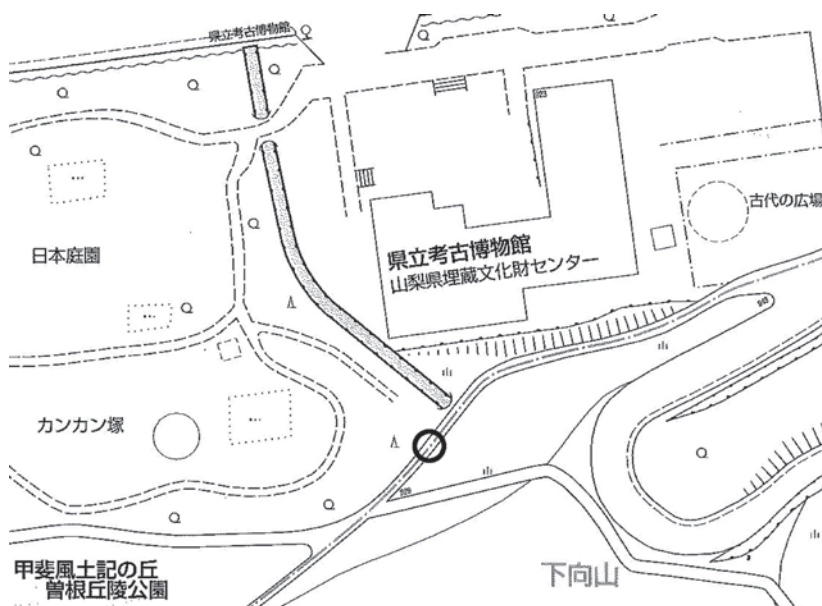
本調査は、曾根丘陵公園内市道における水道管の漏水修理工事に伴う立会調査である。工事地点が周知の遺跡である岩清水遺跡の範囲内にあたることから立会調査を実施した。

工事は既設水道管の漏水箇所を修理するもので、水道管を露出させるために、重機で地表下約1.5mまで掘削した。付近には地中電線等が埋設されるなど、既掘部分であることから、遺構・遺物は確認されなかった。

また、水道管の位置が特定できなかつたため、地表面において湧水が見られた道路の北側部分でも掘削を行っている。この地点においては、地表下0.7mまでは、採石や黒褐色粘土による埋土を確認し、地表下約0.7m～1.2mで地山と考えられる赤褐色粘土層を確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。



第1図 曾根丘陵公園内水道管漏水修理工事位置図



第2図 立会調査位置図



立会調査地点



掘削状況

65 森林公園金川の森再整備事業 試掘 《宮の上遺跡》

所在地	笛吹市一宮町大字坪井地内	調査期間	平成23年12月13日
担当者	保坂和博	調査面積	30㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、森林公園金川の森再整備事業に伴う昆虫遊具を設置する工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である宮の上遺跡の範囲内に当たることから、平成22年度の県有林課と学術文化財課との事前協議に基づき、立会調査を実施した。

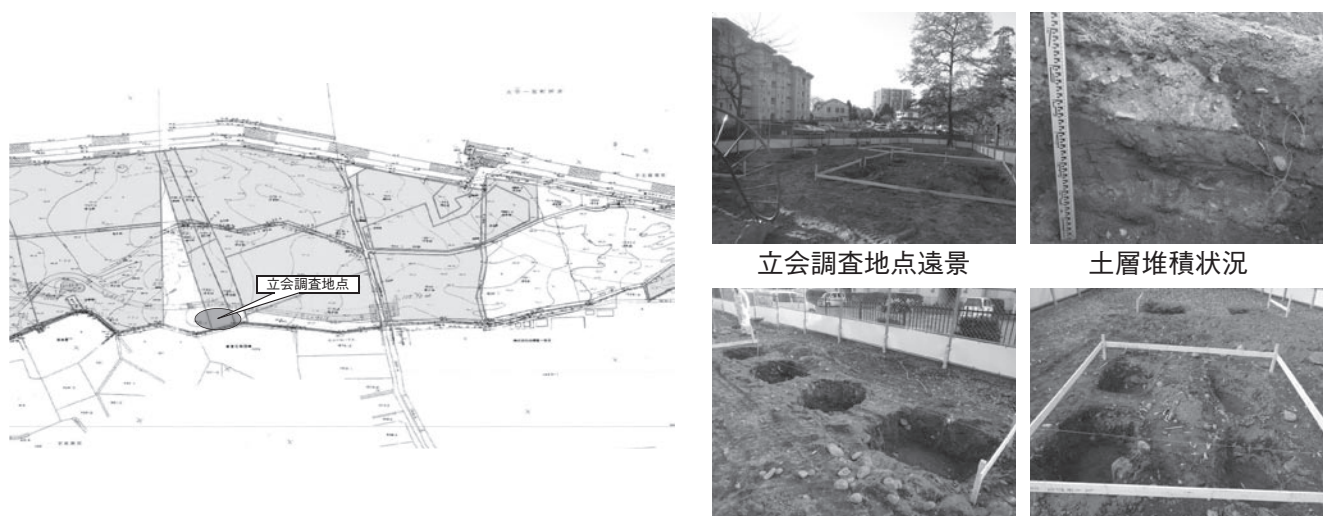
遊具の設置工事では、12箇所（主に約1m×1m）程で基礎の掘削深度が現地表下約0.8mに及ぶため、掘削時に断面と底面の観察を行った。

各地点における土層堆積状況は、基本的に同様であり、第1層（褐色砂質土層）以下、自然堆積層（河川堆積層）となり、第2層（砂礫層）、第3層（暗褐色砂質土層）、第4層（褐色砂質層）の層順が確認された。

今回の立会調査では、遺構・遺物は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。



第1図 森林公園金川の森再整備事業位置図



第2図 立会調査位置図

立会調査地点掘削状況1

立会調査地点掘削状況2

報 告 書 抄 録

ふりがな	やまなしけんないぶんぷちようさほうこくしょ
書名	山梨県内分布調査報告書（平成23年）
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	287集
著者名	保坂和博
発行者	山梨県教育委員会
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター
所在地・電話	〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923 TEL 055-266-3016
発行年月日	2012年3月26日

事業名・遺跡名	所在地	調査面積	調査対象面積	調査期間
1 中部横断自動車道建設事業	市川三郷町宮原地内	97㎡	14,800㎡	平成23年2月17日～18日
2 中部横断自動車道建設事業	市川三郷町鴨狩津向地内	53㎡	1,075㎡	平成23年2月21日
3 中部横断自動車道建設事業	南部町福士地内	71㎡	8258㎡	平成23年3月4日、8日
4 中部横断自動車道建設事業	南部町楢根地内	249㎡	5,086㎡	平成23年3月8日～11日
5 中部横断自動車道建設事業	市川三郷町原ノ前地内	710㎡	42,014㎡	平成23年3月14日～17日、22日～25日
6 中部横断自動車道建設事業	南部町福士地内	158㎡	3,300㎡	平成23年5月23日～5月26日
7 中部横断自動車道建設事業	南部町柳島地内	874㎡	20,378㎡	平成23年6月1日～6月3日
8 中部横断自動車道建設事業《一の坪遺跡》	市川三郷町岩間地内	282㎡	6,500㎡	平成23年6月6日、8日、13日～15日
9 中部横断自動車道建設事業《常葉川堤防遺跡》	身延町波高島地内	33㎡	4,335㎡	平成23年6月22日～27日
10 中部横断自動車道建設事業《竹ノ沢遺跡》	南部町福士字竹ノ沢地内	369㎡	10,900㎡	平成23年7月4日～7日
11 中部横断自動車道建設事業《前田遺跡》	南部町福士字真篠地内	238㎡	4,829㎡	平成23年7月13日～21日
12 中部横断自動車道建設事業	市川三郷町岩間地内	17㎡	5,500㎡	平成23年7月25日～27日
13 中部横断自動車道建設事業	身延町上八木沢地内	25㎡	8,000㎡	平成23年8月3日～4日
14 中部横断自動車道建設事業	市川三郷町黒沢地内	18㎡	2,200㎡	平成23年9月14日～15日
15 中部横断自動車道建設事業	身延町帯金地内	8㎡	520㎡	平成23年10月18日
16 中部横断自動車道建設事業	身延町帯金泥の沢地内	4㎡	1,581㎡	平成23年10月19日
17 中部横断自動車道建設事業	身延町和田樋之上地内	5㎡	1,150㎡	平成23年10月19日～20日
18 中部横断自動車道建設事業	身延町大島地内	3㎡	1,750㎡	平成23年10月20日
19 中部横断自動車道建設事業	身延町上八木沢地内	7㎡	1,050㎡	平成23年10月21日
20 中部横断自動車道建設事業	身延町帯金堀の沢地内	51㎡	4,250㎡	平成23年10月25日～26日
21 中部横断自動車道建設事業	南部町福士地内	76.8㎡	952㎡	平成23年11月2日、4日
22 西関東連絡道路（第Ⅱ期）建設事業	山梨市北地内	135.8㎡	1,350㎡	平成23年4月25日～27日
23 西関東連絡道路（第Ⅱ期）建設事業	山梨市万力地内	64㎡	2,000㎡	平成23年6月13日～15日
24 古府中環状浅原線（国道411号）拡幅事業《甲府城下町遺跡》	甲府市中央2丁目地内	23㎡	630㎡	平成23年5月19日～20日
25 山梨リニア実験線建設事業	笛吹市八代町竹居字榎木1246外地内	56㎡	250㎡	平成23年1月13日
26 山梨リニア実験線建設事業《上の平A遺跡》	笛吹市八代町米倉2087-11外地内	20㎡	427.25㎡	平成23年2月16日
27 山梨リニア実験線建設事業《榎木遺跡》	笛吹市八代町竹居地内	16㎡	315㎡	平成23年2月5日
28 山梨リニア実験線建設事業	笛吹市八代町竹居榎木1246外地内	31㎡	390㎡	平成23年11月24日
29 法務省甲府法務総合庁舎建設事業《甲府城下町遺跡》	甲府市中央1丁目11番8号地内	65㎡	640㎡	平成23年7月25日～26日
30 法務省甲府法務総合庁舎建設事業《甲府城下町遺跡》	甲府市中央1丁目11番8号地内	36㎡	100㎡	平成23年8月10日
31 境川廃棄物最終処分場（仮称）建設事業	笛吹市境川町寺尾地内	165㎡	120,000㎡	平成23年2月7日～10日、14日
32 環境創造課の県政課題に係る調査《東峰A遺跡、東峰B遺跡》	甲斐市菅沼沢1,700外地内	850㎡	69,500㎡	平成23年6月27日～7月14日
33 環境創造課の県政課題に係る調査《御勤使川第二将棋頭遺跡》	韮崎市竜岡町下条南割地内	73㎡	17,500㎡	平成23年7月12日～13日
34 元吉田保健所解体事業《吉田宿》	富士吉田市上吉田字古吉田848-1地内	60㎡	1,876㎡	平成23年7月25日～26日
35 職業能力開発施設建設事業	都留市上谷5丁目地内	40.5㎡	290㎡	平成23年7月1日、10月11日
36 山梨県消防学校整備事業《堤防遺跡推定地》	中央市今福1029-1地内	14.5㎡	40,000㎡	平成23年1月26日
37 県立産業技術短期大学分校整備事業《三ノ側遺跡》	都留市上谷5丁目地内	340㎡	4,667㎡	平成23年5月23日、25日～27日、31日
38 山梨園芸高等学校駐車場建設事業《狐原遺跡》	笛吹市石和町中川字六角1230番地内	42㎡	350㎡	平成23年2月23日
39 県立かえで支援学校《エレベーター棟増築等》建設事業《狐原遺跡》	笛吹市石和町中川1400地内	10㎡	24㎡	平成23年8月29日
40 東部地域総合制高校建設事業	都留市上谷5-7-1地内	84㎡	24,000㎡	平成23年12月1日～9日
41 大野堤防改修事業《堤防遺跡推定地》	身延町大野地内	142㎡	800㎡	平成23年12月19日～22日
42 森林公園金川の森整備事業《宮の上遺跡》	笛吹市一宮町大字坪井1888-2外地内	18㎡	570㎡	平成23年1月11日
43 都留バイパス建設事業 No.7地点《美通遺跡》	都留市字井倉地内	4.9㎡	10.15㎡	平成23年1月6日
44 古府中環状浅原線電線共同溝設置事業《甲府城下町遺跡》	甲府市中央二丁目地内	24.3㎡	24.3㎡	平成23年11月6日～7日、11日～14日、17日～19日
45 西関東連絡道路（第Ⅱ期）建設事業	山梨市北地内	450㎡	450㎡	平成23年10月28日、11月9日、12月6日、26日
46 法務省甲府法務総合庁舎建設事業《甲府城下町遺跡》	甲府市中央1丁目11番8号地内	5.5㎡	40㎡	平成23年6月20日
47 元県立大学職員宿舎解体事業《武田城下町遺跡》	甲府市元紺屋39-1地内	50㎡	1789.67㎡	平成23年1月6日、11日
48 県庁舎耐震化等整備（議事堂仮設庁舎建設）事業《甲府城跡》	甲府市丸の内一丁目地内	40㎡	40㎡	平成23年1月24日～25日、2月15日
49 県庁舎耐震化等整備事業《甲府城跡》	甲府市丸の内一丁目地内	265㎡	300㎡	平成23年3月3日～9月1日
50 県議会議事堂改修機械整備事業《甲府城跡》	甲府市丸の内一丁目地内	40㎡	40㎡	平成23年5月14日～17日
51 県宮住宅谷村団地外構建設事業《城ノ腰2遺跡》	都留市つる三丁目地内	150㎡	150㎡	平成23年1月14日、2月1日
52 県宮住宅谷村団地改築二期解体事業《城ノ腰2遺跡》	都留市つる三丁目地内	554㎡	554㎡	平成23年8月29日、9月1日～2日
53 県宮住宅和戸団地下水道接続事業《大坪遺跡》	甲府市和戸町920番地内	32.2㎡	32.2㎡	平成23年10月19日、11月14日
54 県立北杜高等学校校舎地下水道敷設事業《原町農業高校前遺跡》	北杜市長坂町塚川地内	175㎡	175㎡	平成23年12月9日、平成23年1月6日～7日、14日、17日、19日
55 県立北杜高等学校配水管敷設事業《原町農業高校前遺跡》	北杜市長坂町沢地内	38.5㎡	38.5㎡	平成23年12月1日
56 県立増穂商業高等学校水道管敷設事業《堤防遺跡推定地》	南巨摩郡富士川町最勝寺1372番地内	14㎡	14㎡	平成23年3月25日
57 県立都留高等学校修繕事業《大月遺跡》	大月市大月2-11-20地内	1㎡	1㎡	平成23年11月22日
58 県立かえで支援学校《創造館内》建設事業《狐原遺跡》	笛吹市石和町中川字六角1230番地内	2㎡	350㎡	平成23年10月20日
59 平等川基幹河川改修事業《堤防遺跡推定地/七沢の渡し場》	笛吹市石和町東油川地内	50㎡	50㎡	平成23年1月24日
60 平等川基幹河川改修事業《堤防遺跡推定地》	甲府市七沢町外地内	27㎡	27㎡	平成23年11月4日
61 平等川基幹河川改修事業《堤防遺跡推定地》	笛吹市石和町東油川地内	120㎡	120㎡	平成23年11月28日
62 一級河川富士川水系藤川広域河川改修事業《甲府城下町遺跡》	甲府市城東四丁目地内	40㎡	40㎡	平成23年2月9日
63 鎌田川河川改修事業《堤防遺跡推定地》	中央市川高町大田地内	200㎡	200㎡	平成24年9月15日
64 曾根丘陵公園内市道水道管漏水修理事業《岩清水遺跡》	甲府市下曾根町曾根丘陵公園内	4㎡	4㎡	平成23年4月27日
65 森林公園金川の森再整備事業《宮の上遺跡》	笛吹市一宮町大字坪井地内	30㎡	150㎡	平成23年12月13日

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第287集 山梨県内分布調査報告書（平成23年）

印刷日 2012（平成24）年3月19日
 発行日 2012（平成24）年3月26日
 編集 山梨県埋蔵文化財センター
 〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923
 Tel 055-266-3016 Fax 055-266-3882
 発行 山梨県教育委員会
 印刷所 港北出版印刷株式会社